SONY

4-198-307-**01**(1)

ソリッドステート
メモリーカムコーダー

取扱説明書

PMW-320K
PMW-320L

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、**
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

XDCAM EX　SxS　HDMI

CINEALTA　Exmor FULL HD 3CMOS　i.

© 2010 Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

9ページから13ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

長期間安全に使用していただくために、定期点検を実施することをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

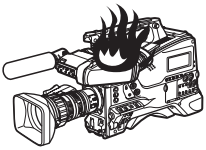
万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落下させたら

↓

❶ 電源を切る。
❷ バッテリーやDC電源接続コード、および接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に修理を依頼する。

炎が出たら



↓

すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、破裂・発火・発熱・液漏れなどにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

目次

⚠ 警告 9

⚠ 注意 10

電池についての安全上のご注意 12

その他の安全上のご注意 13

はじめに 13

ご使用の前に 13

1 章　概要

特長 14

ソフトウェアの使いかた 15

CD-ROM マニュアルを読むには 15

ソフトウェアの動作環境 16

ソフトウェアのインストール 16

各部の名称と働き 17

電源部 17

アクセサリー取り付け部 18

操作・端子部 20

白黒液晶表示部 29

オートフォーカスレンズ（PMW-320K に付属） 30

ビューファインダー 32

画面表示 34

2 章　準備

電源の準備 38

バッテリーパックを使用する 38

AC 電源を使用する 39

ビューファインダーの取り付け 40

付属のビューファインダーを取り付ける 40

位置を調整する 40

角度を調整する 41

VF 筒部／アイピース部を跳ね上げる 41

視度と画面を調整する 42
ビューファインダー回転収納機構 BKW-401 を取り付ける 43
5 型エレクトロニックビューファインダーを取り付ける 44

使用地域の設定 45

内蔵時計の日付と時刻の設定 46

レンズの取り付けと調整 47
フランジバックの調整 47

音声入力の準備 49
MIC IN 端子にマイクロホンを接続する 49
AUDIO IN 端子にマイクロホンを接続する 49
UHF ポータブルチューナーを取り付ける（UHF ワイヤレスマイクロホン使用時）.....50

三脚への取り付け 52

ビデオライトの接続 53

ショルダーベルトの取り付け 53

ショルダーパッドの位置調整 54

3 章　撮影のための調整と設定

ビデオフォーマットの設定 55
ビデオフォーマットを変更する 56

ブラックバランス／ホワイトバランスの調整 56
ブラックバランスを調整する 56
ホワイトバランスを調整する 57

電子シャッターの設定 60
シャッターモードについて 60
シャッターモード／シャッタースピードを設定する 61

オートアイリスの設定 62

ズームを操作する 63
操作モードを切り換える 63
手動でズームを操作する 63
電動でズームを操作する 63

フォーカスを調整する 64
Full MF モードで調整する 64
MF モードで調整する 64

AF モードで調整する 65
マクロモードを使う 65

音声レベルの調整 65

AUDIO IN CH1/CH2 端子からの音声レベルを手動調整する 65
MIC IN 端子からの音声レベルを手動調整する 66
チャンネル 3、4 への音声の記録について 67

タイムデータの設定 68

タイムコードを設定する 68
ユーザービットを設定する 68
タイムコードを外部ロックさせる 69

各種設定や状態を確認する（ステータス画面）....70

4 章　撮影

SxS メモリーカードの取り扱い 72

SxS メモリーカードについて 72
SxS メモリーカードを入れる ／ 取り出す 73
使用する SxS メモリーカードを切り換える 74
SxS メモリーカードをフォーマット（初期化）する 74
残りの記録可能時間を確認する 75
SxS メモリーカードを修復する 75

基本操作 77

記録したクリップを再生する 78
記録したクリップを削除する 79

応用操作 79

ショットマークを記録する 79
OK マークを設定する 80
数秒前の映像から記録する（ピクチャーキャッシュ機能）....80
間欠的に映像を記録する（インターバルレック機能）....82
コマ撮りする（フレームレック機能）....83
スロー＆クイックモーション撮影する 85
フリーズミックス機能を使ってフレーミングする 86

5 章　クリップ操作

クリップの再生 88

サムネイル画面 88
クリップを再生する 91
クリップをサムネイルサーチする 92

サムネイル操作 94
THUMBNAIL メニュー構成 94
THUMBNAIL メニューの基本操作 95
サムネイル画面の種類を変更する 95
クリップの詳細情報を表示する 97
クリップに OK マークを付ける／削除する（HD モードのみ）..98
クリップをコピーする 98
クリップを削除する 99
エクスパンドサムネイル画面を表示する 100
ショットマークサムネイル画面を表示する（HD モードのみ）101
ショットマークを追加／削除する（HD モードのみ）..... 102
クリップの代表画を変更する（HD モードのみ）..... 102
クリップを分割する（HD モードのみ）..... 103

6 章　メニュー表示と詳細設定

セットアップメニューの構成と階層 104
セットアップメニューの構成 104
セットアップメニューの階層 104

セットアップメニューの基本操作 106

メニュー一覧 109
OPERATION メニュー 109
PAINT メニュー 120
MAINTENANCE メニュー 125
FILE メニュー 134

アサイナブルスイッチに機能を割り当てる 138
ASSIGN. 0 スイッチに割り当て可能な機能 138
ASSIGN. 2 スイッチに割り当て可能な機能 138
ASSIGN. 1/3 スイッチ、ASSIGNABLE 4/5 スイッチと COLOR TEMP. ボタンに割り当て可能な機能 139
レンズの RET ボタンに割り当て可能な機能 140

PMW-EX1R と画質を合わせる 141

7 章　ユーザー設定データの保存と呼び出し

設定の保存と呼び出し 142
設定データを保存する 142
設定データを呼び出す 143
変更されたファイルの内容を初期状態にリセットする 144

シーンファイルの保存と呼び出し 144
シーンファイルを保存する 144
シーンファイルを呼び出す 145

レンズファイルの保存と呼び出し 146
レンズファイルを設定する 146
レンズファイルを保存する 146
レンズファイルを呼び出す 146
レンズファイルを自動で呼び出す 147

8 章　外部機器の接続

外部モニターを接続する 148

コンピューターでクリップを管理・編集する 150

外部機器を接続する（i.LINK 接続）..... 153
本機の画像を外部機器で記録する 153
ノンリニア編集する 154
外部入力信号を記録する 154

9 章　保守・点検

撮影前の点検 155

保守 155
ビューファインダーをクリーニングする 155
バッテリー端子に関するご注意 155

警告システム 156

付録

使用上のご注意 163

内蔵時計用電池の交換 165

主な仕様 166
一般 166
カメラ部 166
オーディオ部 167
表示部 167
メディア部 167
入出力部 167
レンズ部（PMW-320K に付属）..... 168

付属品 168
関連機器 168
周辺機器・アクセサリー一覧図 170
i.LINK について 171
MPEG-2 Video Patent Portfolio License について 172
保証書とアフターサービス 172
保証書 172
アフターサービス 172
索引 173

⚠警告 火災 感電

下記の注意を守らないと、**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**につながることがあります。

禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら記録 / 再生をすることはおやめください。交通事故の原因となります。

指示

雷が鳴り出したら、使用を中止する

感電の原因となります。
落雷を避けるため、使用を中止して本機から離れてください。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、バッテリーや DC 電源接続コード、および接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

分解禁止

外装をはずさない、改造しない

外装をはずしたり、改造したりすると、感電の原因となります。
内部の調整や設定および点検を行う必要がある場合は、必ずお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

禁止

DC 電源接続コードを傷つけない

DC 電源接続コードやマイク用電源供給ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- DC 電源接続コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- DC 電源接続コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、DC 電源接続コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で AC アダプターなどの電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、AC アダプターのプラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

指示

撮影時は周囲の状況に注意を払う

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。
事故やけがの原因となります。

指示

指定の電源で使用する

取扱説明書に記されているバッテリーパックまたは AC アダプターでお使いください。指定以外のバッテリーパックや AC アダプターで使用すると、火災の原因となります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり
周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

禁止

SxS メモリーカードスロットに手や指を入れない

SxS メモリーカードスロットに手や指を入れると、けがの原因となることがあります。

禁止

指定以外のケーブル / 機器を接続しない

カムコーダーの外部端子に規定以外のケーブル／機器を接続した場合、発煙、発火の恐れがあります。

禁止

レンズやビューファインダーの接眼レンズを太陽に向けて放置しない

太陽光がレンズやビューファインダーの接眼レンズを通して内部に焦点を結び、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

通風孔をふさいだまま使用すると、内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

指示

指定された動作温度・動作湿度で使用する

動作温度・動作湿度を超えた環境、またはほこりや油煙・湯気が極端に多い場所で使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

指示

部品の取り付けを正しく行う

本機に以下の部品を取り付けるときは、取扱説明書の該当するページをよく読んだうえ、確実に取り付けてください。取り付け方法を誤ると部品やカムコーダー本体が落下し、けがの原因となることがあります。

- レンズ
- ショルダーベルト
- バッテリーパック
- アダプター類
- ビューファインダー
- ライト
- 三脚アタッチメント

注意

三脚アタッチメントは重心を考慮して取り付ける

三脚アタッチメントを三脚に取り付けるとき、カムコーダーと三脚アタッチメントの重心を考慮して適切な位置の穴を選び、カムコーダーを三脚アタッチメントに確実に取り付けないと、カムコーダーが転倒・落下しけがの原因となることがあります。

指示

保管するときは安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、カムコーダーが落下してけがの原因となることがあります。

指示

コード類は正しく配置する

DC 電源接続コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分注意して接続・配置してください。

指示

正しい姿勢でカムコーダーを担ぐ

カムコーダーの突起部を体に強くぶつけると、けがの恐れがあります。

高温

ビデオライト使用時は、高温部分に触れない

ビデオライト使用時または使用直後は、ライト本体およびその周辺部が高温になっているため、やけどをすることがあります。カムコーダーの取っ手を持って運搬するときなどは、ライト本体およびその周辺部に触れないよう注意して運搬してください。

指示

運搬するときは、取っ手を持つ

取っ手以外のところを持って運ぶと、カムコーダーが落下してけがの原因をなることがあります。

電池についての安全上のご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れ・発熱・破裂・発火・誤飲による大けがや失明の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
  1. 機器の電源スイッチを切るか、バッテリーチャージャーの電源プラグを抜く。
  2. お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。
- 電池の液が目に入ったら
  すぐきれいな水で洗い、直ちに医師の治療を受ける。
- 電池の液が皮膚や衣服に付いたら
  すぐにきれいな水で洗い流す。
- バッテリー収納部内で液が漏れたら
  よくふきとってから、新しい電池を入れる。

ここでは、本機で使用可能なソニー製リチウムイオン電池についての注意事項を記載しています。

⚠危険

- 充電には、ソニーの専用バッテリーチャージャーを使用する。
- 火の中に投げ入れたり、加熱、半田付け、分解、改造をしない。
- 直射日光の当たるところ、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で、使用・放置・充電をしない。

⚠警告

- ハンマーでたたくなどの強い衝撃を与えたり、踏みつけたりしない。
- 接点部や⊕極と⊖極をショートさせたり、金属製のものと一緒に携帯・保管をしない。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめる。
- 電池使用中や充電、保管時に異臭がしたり、発熱・液漏れ・変色・変形などがあったときは、すぐに使用や充電をやめる。
- 水や海水につけたり、濡らしたりしない。

⚠注意

充電のしかたについてはバッテリーチャージャーの取扱説明書をよく読む。

ご注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。
必ず指定の電池に交換してください。
使用済みの電池は、国または地域の法令にしたがって処理してください。

Li-ion

リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

その他の安全上のご注意

警告

イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

はじめに

ご使用の前に

ソニーソリッドステートメモリーカムコーダー PMW-320K/320Lをお買い上げ後、ご使用になるためには、使用地域の設定が必要です。

（使用地域が未設定の状態で本機を使用することはできません。）

◆設定のしかたについて詳しくは「使用地域の設定」（45 ページ）をご覧ください。

ご注意

PMW-320K/320L（以下、「本機」）に対して周辺機器やアクセサリーの取り付け／取りはずしを行うときは、必ず本機の電源をオフにしてください。

1章 概要

特長

本機は、1/2型（対角8mm）のフルHD（1920×1080）“Exmor”CMOSイメージセンサーを搭載したショルダータイプの3CMOS HDメモリーカードカムコーダーです。

1/2型バヨネットマウントを採用

1/2型バヨネットマウント（フランジバック38mm）を採用し、ソニー1/2型バヨネットマウントの交換レンズを使用できます。

記録メディアにSxSメモリーカードを採用

記録画像へのランダムアクセスやファイルベースの操作が可能なSxSメモリーカードを採用しています。

軽量・低消費電力

CMOSイメージセンサー、専用の映像信号処理LSI、およびSxSメモリーカードの採用によって、消費電力を15W以下に抑え、ファンレス構造を実現しました。さらに本体の軽量化（3.2kg）と低重心設計によって、担いだときの肩への負担の軽減と安定感を両立しています。

MPEG-2 Long GOP画像圧縮によるHD記録

MPEG-2 Long GOP方式により、1920×1080、1440×1080、1280×720のHD画像を記録します。ビットレートは、35Mbps（HQモード）または25Mbps（SPモード）に設定できます。
高効率の圧縮方式によって、高画質のHD画像を32GBのSxSメモリーカード1枚に35Mbps（HQモード）で約100分、25Mbps（SPモード）で約140分記録できます。

マルチフォーマット対応

インターレース方式（1080/59.94iまたは1080/50i）、プログレッシブ方式（1080/29.97P、1080/23.98P、720/59.94P、720/29.97P、720/23.98P、または1080/25P、720/50P、720/25P）に対応し、各種のHD記録方式をワールドワイドでカバーしています。（23.98Pはネイティブ周波数での記録が可能です。）
また、NTSC/PAL方式のSD信号にも対応しており、SD信号をDVCAM-AVIフォーマットで記録・再生したり、HD信号をSD信号にダウンコンバートして出力することもできます。

専用オートフォーカスレンズ

広角から望遠まで高品質な撮影が可能な1/2型オートフォーカスレンズを装備しています（PMW-320Kのみ）。

充実した機能（操作性の向上とさまざまな撮影シーンに対応）

- ピクチャーキャッシュ機能
- 光学NDフィルターと電気的CCフィルター
- ハイパーガンマ
- スローシャッター機能
- フレームレック機能
- インターバルレック（間欠記録）機能
- スロー&クイックモーション機能
- フリーズミックス機能
- 拡大フォーカス機能
- 画像反転機能
- アサイナブルスイッチ
- 3.5型高解像度カラー LCDビューファインダー
- リモートコントロール

XDCAM EXならではの従来機能を踏襲

サムネイル表示、メタデータの管理など、従来のXDCAM EXのワークフローを継承しながら、マンマシンインターフェースの充実を図っています。

XDCAM EX web site

XDCAM EXに関連する情報については下記URLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/XDCAMEX

ソフトウェアの使いかた

付属のCD-ROM（ラベル表示「Utility Software for Solid-State Memory Camcorder and Recorder」）には、コンピューター上でSxSメモリーカードにアクセスしたり、撮影素材を管理するときに必要な、アプリケーションソフトウェアやドライバーソフトウェアが収納されています。また、ソフトウェアのインストール方法についての情報が、PDF形式で記録されています。

ご注意

SxSメモリーカードをExpressCardスロットが標準搭載されているコンピューターで使用するときは、コンピューターにSxSデバイスドライバーソフトウェアをインストールする必要があります。

CD-ROMマニュアルを読むには

準備

CD-ROMに収納されているRead Meやユーザーガイドをご覧いただくためには、以下のソフトウェアがインストールされている必要があります。
Adobe Reader 6.0 以上

メモ

Adobe Reader がインストールされていない場合は、下記URLよりダウンロードできます。

http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html

Adobe、およびAdobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

マニュアルを読む

次のようにします。

1 **CD-ROMをCD-ROMドライブに入れる。**
表紙ページが自動的にブラウザーで表示されます。
ブラウザーで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

2 **読みたいRead Me／ユーザーガイドを選択してクリックする。**
PDFファイルが開きます。

メモ

Adobe Readerのバージョンによって、ファイルが正しく表示されないことがあります。
正しく表示されない場合は、「準備」の項のURLより最新のソフトウェアをダウンロードしてお使いください。

ご注意

CD-ROMが破損または紛失したため、新しいCD-ROMをご希望の場合は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください（有料）。

ソフトウェアの動作環境

CD-ROMに収録されているソフトウェアを使用するための推奨動作環境は以下のとおりです。

SxSデバイスドライバーソフトウェア

対応機種

ExpressCard/34またはExpressCard/54標準搭載コンピューター

OS

- Microsoft Windows XP SP2以降、Microsoft Windows Vista、Microsoft Windows 7
- Mac OS X v10.4.9以降、v10.5.0以降、v10.6.0以降

SxSデバイスドライバーソフトウェアのサポート関連情報については、下記URLをご覧ください。
http://www.sony.net/SxS-Support/

ソフトウェアのインストール

CD-ROM に入っているソフトウェアをコンピューターにインストールするには、次のようにします。

1 **CD-ROM をCD-ROMドライブに入れる。**
表紙ページが自動的にブラウザーで表示されます。
ブラウザーで自動的に表示されないときは、CD-ROM に入っている index.htm ファイルをダブルクリックしてください。

2 **インストールするソフトを選択してクリックする。**
ソフトウェアのインストーラーが起動します。表示にしたがってインストールしてください。

◆詳しくは各ソフトウェアのユーザーガイドまたはReadMeをご覧ください。

ソフトウェアをアンインストールするには

Windowsの場合

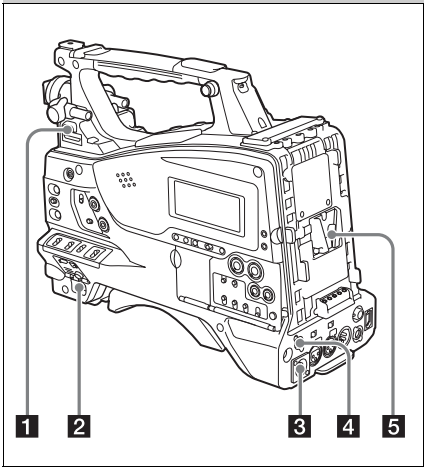
「スタート」>「コントロールパネル」>「プログラムの削除と変更」を選択し、削除したいソフトウェアを選択してください。

Macintoshの場合

インストール先フォルダーをゴミ箱に移動します。

各部の名称と働き

電源部



1 LIGHT（ビデオライト動作モード切り換え）スイッチ

LIGHT端子（19ページ参照）に接続したビデオライトのオン／オフのしかたを選択します。

AUTO：ビデオライトのPOWERスイッチをONにしておくと、本機で記録しているときにライトが点灯する。

MANUAL：ビデオライトのPOWERスイッチでライトをオン／オフする。

ご注意

ピクチャーキャッシュモードでの記録時は、記録開始の操作をする前（メモリーにデータを蓄積している期間）にライトを点灯させることはできません。

2 POWER（電源）スイッチ

主電源をオン／オフします。

3 DC IN（DC電源入力）端子（XLR 4ピン、凸）

本機をAC電源で動作させるとき、この端子に別売のDC電源コードを差し込み、バッテリーチャージャー BC-L70、BC-L160などのDC出力端子に接続します。

4 DC OUT 12V（DC電源出力）端子（4ピン、凹）

UHFシンセサイザーダイバーシティーチューナー WRR-860A/861/862（別売）用の電源を供給します（最大0.5A）。
UHFシンセサイザーダイバーシティーチューナー以外の機器は接続しないでください。

5 バッテリー取り付け部

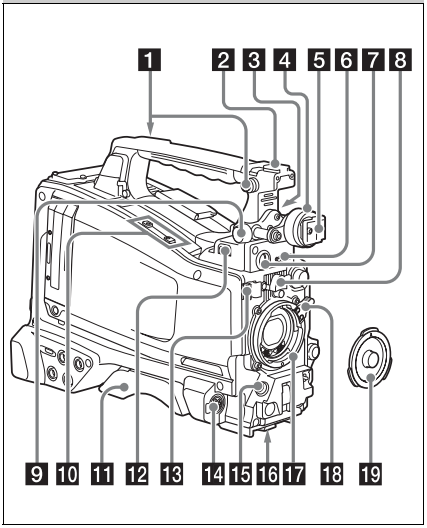
バッテリーパックBP-GL95/GL65/L80S/L60Sを取り付けます。また、ACアダプター AC-DN2B/DN10を取り付けて、AC電源で本機を動作させることもできます。

◆「電源の準備」（38ページ）
◆「UHFポータブルチューナーを取り付ける（UHFワイヤレスマイクロホン使用時）」（50ページ）

ご注意

本機を安全かつ正常な動作状態でお使いいただくために、BP-GL95、BP-GL65、BP-L60S/L80Sのいずれかのバッテリーパックの使用を推奨します。

アクセサリー取り付け部



1 ショルダーベルト取り付け金具

付属のショルダーベルトを取り付けます（53ページ参照）。

2 アクセサリーシュー

ビデオライトなどを取り付けます（53ページ参照）。

3 ビューファインダー前後位置固定レバー

ビューファインダーの位置を前後方向に調整するとき、このレバーとLOCK つまみをゆるめて調整します。調整後、LOCKつまみと共にロックします。

4 ビューファインダー左右位置固定リング

ビューファインダーの位置を左右方向に調整するときゆるめます（40ページ参照）。

5 ビューファインダー取り付けシュー

ビューファインダーを取り付けます。

6 VF（ビューファインダー）端子（角型26ピン）

付属のビューファインダーの接続ケーブルを接続します。

7 VF（ビューファインダー）端子（丸型20ピン）

別売のビューファインダー（DXF-51、DXF-C50WまたはDXF-20W）の接続ケーブルを接続します。

◆DXF-51またはDXF-C50Wの取り付けには、別売のパーツが必要です。詳しくは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

8 レンズマウントゆるみ止めゴム

レンズ固定レバーでレンズを固定した後に、このゴムを2つある突起の下側の突起にはめ込みます。レンズマウントが固定され、レンズマウントがゆるむのを防ぎます。

9 ビューファインダー前後位置LOCKつまみ

ビューファインダーの位置を前後方向に調整するときゆるめます（40ページ参照）。

10 別売マイクホルダー取り付け部

別売のマイクホルダー CAC-12を取り付けます（49ページ参照）。

11 ショルダーパッド

ショルダーパッド固定レバーを持ち上げると、前後方向に位置を調節できます。本機を肩にのせたとき操作しやすくなるように、適当な位置に調節します（54ページ参照）。

12 LIGHT（ライト）端子（2ピン、凹）

アントンバウアー社製のウルトラライト2または同等品で、50W以下のビデオライトを接続します（53ページ参照）。

13 レンズケーブルクランプ

レンズケーブルを固定します。

14 MIC IN（マイク入力）（+48V）端子（XLR型、5ピン、凹）

ステレオマイクを接続する端子です。マイク用の電源（+48V）はこの端子から供給されます。

15 LENS（レンズ接続用）端子（12ピン）

レンズケーブルを接続します。
レンズマウントの内側にホットシューのある$^{1}/_{2}$型レンズを使用する場合は、この端子は使用しません。

ご注意

本機にレンズケーブルの接続／取りはずしを行うときは、本機の電源を切ってから行ってください。

16 三脚マウント

本機を三脚に固定するとき、三脚アタッチメント（別売）を取り付けます。

17 レンズマウント（特殊バヨネット型）

レンズを取り付けます。
レンズマウントの内側に、レンズ接続用の14ピン端子（7ピン端子2個）があります。

◆使用できるレンズについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

ご注意

カメラ接続用端子が7ピンのレンズを取り付けたときは、オートアイリス機能が動作しません。
また、映像レベル注意表示とアイリスポジション表示が無効になります。

18 レンズ固定レバー

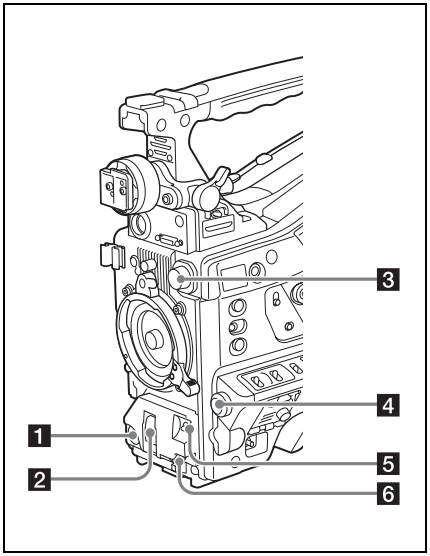
レンズをレンズマウントに差し込んだ後、このレバーでレンズマウントリングを回してレンズを固定します。
レンズを固定した後は、必ずレンズマウントゆるみ止めゴムを使用してください。

19 レンズマウントキャップ

レンズ固定レバーを押し上げると取りはずせます。レンズを取り付けていないときは、はめ込んでおきます。

操作・端子部

前面



1 REC START（記録開始）ボタン

押すと記録が始まり、もう一度押すと止まります。レンズにあるRECボタンと同じ動作をします。

2 SHUTTER（シャッター）スイッチ

電子シャッターを使うときにONにします。SELECT側に押すと、シャッタースピードとシャッターモードの表示が切り替わります。スイッチの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面に約3秒間表示されます。

◆「電子シャッターの設定」（60ページ）

3 FILTER（フィルター切り換え）つまみ

本機に内蔵されている4種類のNDフィルターを切り換えるためのつまみです。
このつまみの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面に約3秒間表示されます。

FILTER つまみの設定	ND フィルターの種類
1	CLEAR（素通し）
2	1/4 ND（光を約1/4に減衰させる）
3	1/16 ND（光を約1/16に減衰させる）
4	1/64 ND（光を約1/64に減衰させる）

MAINTENANCEメニューの設定を変更することにより、つまみの各位置にホワイトバランスの設定値を個別に記憶させておくことができるため、フィルターの切り換えに連動して、撮影条件に応じた最適なホワイトバランスが得られます。

◆「ホワイトバランスを調整する」（57ページ）

4 MENUつまみ

各メニュー内の項目選択や設定値の変更をするときに使います（106ページ参照）。

5 AUTO W/B BAL（ホワイトバランス／ブラックバランス自動調整）スイッチ

次のようにホワイトバランスやブラックバランスを自動調整します。

WHITE：ホワイトバランスを自動調整する。このとき WHITE BALスイッチ（22ページ参照）をAまたはBにしておくと、調整された値がメモリー AまたはBに記憶される。WHITE BALスイッチがPRSTのときは動作しない。

BLACK：ブラックセットとブラックバランスを自動調整する。

自動追尾ホワイトバランス（ATW)時も動作します。

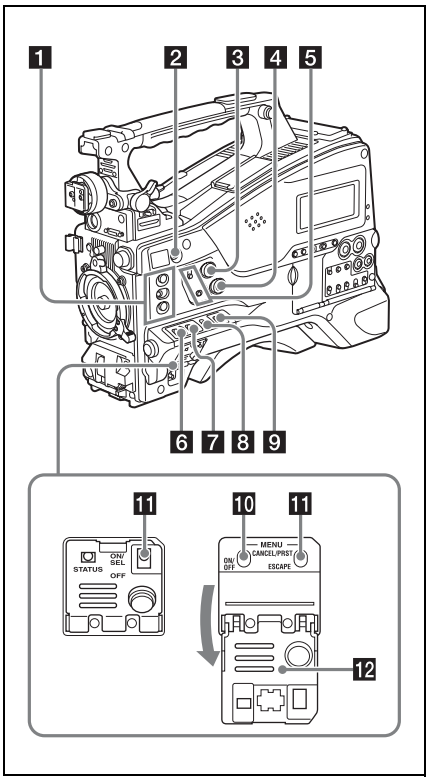
オートホワイトバランス実行中に再度WHITE側に倒すと、オートホワイトバランスは中止され、元のホワイトバランス状態に戻ります。

オートブラックバランス実行中に再度BLACK側に倒すと、オートブラックバランスは中止され、元のブラックバランス状態に戻ります。

6 MIC LEVEL（マイクレベル）つまみ

音声チャンネル1/2/3/4の入力レベルを調整します（65ページ参照）。

右側面（前部）



1 ASSIGN.（アサイナブル）1/2/3スイッチ

メニューのOPERATION >Assignable SWで機能を割り当てます（138ページ参照）。工場出荷時には、ASSIGN. 1にEZ Mode、ASSIGN. 2/3にOffが割り当てられています。ASSIGN. 1/3スイッチには、オン／オフが確認できるインジケーターが付いています。

2 COLOR TEMP.（色温度切り換え）ボタン

押すと点灯し、撮影するときの色温度を変更できます（工場出荷時）。また、アサイナブルスイッチとして使用することができます（139ページ参照）。

3 ALARM（警告音量調節）つまみ

内蔵スピーカーやイヤホンから聞こえる警告音の音量を調節します。最小にすると、警告音は聞こえなくなります。

ただし、メニューのMAINTENANCE >Audio >Min Alarm VolumeをSetに変更すると、このつまみが最小の位置でも警告音が聞こえるようになります。

4 MONITOR（音量調節）つまみ

内蔵スピーカーやイヤホンから聞こえる警告音以外の音声の音量を調節します。最小にすると、音声は聞こえなくなります。

5 MONITOR（オーディオモニター選択）スイッチ

2つのスイッチの組み合わせによって、内蔵スピーカーやイヤホンから聞こえる音声を以下のように選択します。

下側のスイッチ：CH-1/2

上側のスイッチ	音声出力
CH-1/CH-3	チャンネル1の音声
MIX	チャンネル1と2の混合音声（ステレオ）a)
CH-2/CH-4	チャンネル2の音声

下側のスイッチ：CH-3/4

上側のスイッチ	音声出力
CH-1/CH-3	チャンネル3の音声
MIX	チャンネル3と4の混合音声（ステレオ）a)
CH-2/CH-4	チャンネル4の音声

a)EARPHONE端子にステレオヘッドホンを接続すると、音声をステレオで聞くことができます。（メニューのMAINTENANCE >Audio >Headphone OutをStereoに設定する必要があります。）

6 ASSIGN.（アサイナブル）0スイッチ

メニューのOPERATION >Assignable SWで機能を割り当てます（138ページ参照）。

工場出荷時には、Offが割り当てられています。
押すたびに動作が切り替わるモーメンタリータイプのスイッチです。

7 GAIN（ゲイン切り換え）スイッチ

撮影時の照明状態に合わせて、映像アンプのゲイン（利得）を切り換えます。L、M、H の設定に対応するゲイン値は、あらかじめメニューのOPERATION >Gain Switchで（114ページ参照）指定します（工場出荷時の設定は、L=0dB、M=6dB、H=12dB）。
このスイッチの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面に約3秒間表示されます。

8 OUTPUT（出力信号切り換え）/DCC（ダイナミックコントラストコントロール機能切り換え）スイッチ

カメラ部から出力する信号を以下の2つから選択します。

BARS：カラーバー信号を出力する。

CAM：撮影中の映像信号を出力し、DCC機能[1)]のオン／オフを切り換えることができる。

1)**DCC（Dynamic Contrast Control）機能**：高輝度の背景で人物や風景などにレベルを合わせて撮影すると、背景が白くつぶれ、背景にある建物や風景がぼやける。このようなときにDCC 機能を動作させると、高輝度部分を自動的に抑え、背景をくっきりと再現できる。次のような場面の撮影に効果を発揮する。

- 晴天時に日陰の人物を撮るとき
- 車内または屋内の人物と窓越しの屋外の風景を同時に撮影したいとき
- コントラストの強い場面を撮るとき

9 WHITE BAL（ホワイトバランスメモリー切り換え）スイッチ

以下のようにホワイトバランスの調整方法を切り換えます。

PRST：色温度をプリセット値（工場出荷時の設定は3200K）に調整する。ホワイトバランスを調整する時間がないときなどに合わせる。

AまたはB：あらかじめAまたはBに保存しておいたホワイトバランスの調整値を呼び出す。AUTO W/B BALスイッチ（20ページ参照）をWHITE側に押すと、ホワイトバランスを自動的に調整し、調整値をメモリー AまたはメモリーBに記憶する。

B（ATW [1)]）：OPERATIONメニューのWhite SettingでWhite Switch <B>をATWに設定しておくと、ATWが動作する。
なお、ATWが動作中でも、AUTO W/B BALスイッチは機能する。

このスイッチの設定を切り換えると、新しい設定がビューファインダー画面に約3秒間表示されます。

1)**ATW（Auto Tracing White balance）**：照明条件の変化に応じて画像のホワイトバランスを自動的に追従させる機能

10 MENU ON/OFF（メニュー表示オン／オフ）スイッチ

スイッチカバーを開けると使用できるようになります。
ビューファインダー画面やテスト出力画面上に設定メニューを表示するときに使用します。スイッチを押し下げるたびに、メニューの表示／非表示が切り替わります。サムネイル画面操作部のMENUボタンも同じ働きです。

11 STATUS ON/SEL/OFF（メニュー設定表示オン／ページ選択／表示オフ）スイッチ
MENU CANCEL/PRST/ESCAPE（メニュー設定取消し／プリセット／戻る）スイッチ

メニューが表示されていないときはSTATUS ON/SEL/OFFスイッチとして機能します。メニューが表示されているときはMENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチとして機能します。（スイッチカバーを開けると使用できるようになります。）

STATUS ON/SEL/OFFスイッチは、次のように使用します。

ON/SEL：この位置に押し上げると、本機の各種設定や状態を確認するための画面がビューファインダーに表示される（70ページ参照）。この画面は5ページあり、押し上げるごとに、ページが変わる。画面は約10秒間表示される。

OFF：画面を表示させた直後に、画面を消したいとき、この位置に押し下げる。

MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチは、次のように使用します。

CANCEL/PRST：メニューの設定変更後にこの位置へ押し上げると、変更した設定を取り消すかどうかを確認する表示が出る。再度押し上げると設定が取り消される。

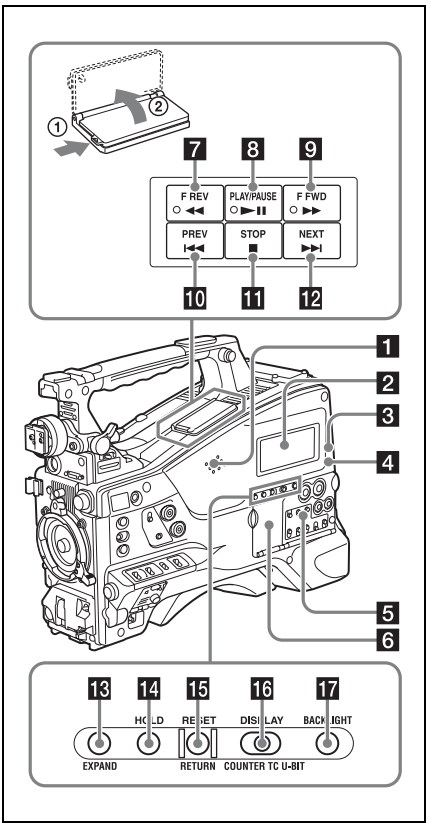
メニューの設定変更前または設定変更を取り消した後にこの位置へ押し上げると、現在の設定を標準設定（初期設定値）にリセットするかどうかを確認する表示が出る。再度押し上げると現在の設定が標準設定にリセットされる。

ESCAPE：階層構造を持つメニューを開いているときに使用する。この位置に押し下げるたびに、現在の階層から1つ上の階層に戻る。

12 スイッチカバー

MENU ON/OFFスイッチ、またはMENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチを操作するとき、このカバーを開けます。

右側面（後部）



1 内蔵スピーカー

記録中はE-E音 1)を、再生中は再生音をモニターできます。警告ランプや警告表示の点滅・点灯に合わせて警告音も聞こえます（156ページ参照）。

なお、EARPHONE端子にイヤホンをつなぐと、内蔵スピーカーからは音が聞こえなくなります。

1)**E-E**：「Electric to Electric」の略。本機に入力され、本機内部の電気回路のみを通って出力端子から出てくる映像信号または音声信号のこと。これによって入力信号を確認できる。

2 白黒液晶表示部

バッテリー残量、メディア残量、音声レベル、タイムデータなどを表示します（29ページ参照）。

3 WARNING（警告）ランプ

異常が発生すると、点滅または点灯します（156ページ参照）。

4 ACCESS（アクセス）ランプ

記録メディアに書き込みや読み出しが行われているときに点灯します。

5 オーディオ調整部の保護カバー

開くとオーディオ調整部が現れます（25ページ参照）。

6 サムネイル画面操作部の保護カバー

開くとサムネイル画面の操作部が現れます（25ページ参照）。

7 F REV（逆高速再生）ボタンとランプ

逆方向に高速再生します。再生速度は、ボタンを押すたびに約4倍速→約15倍速→約24倍速の順に切り替わります。逆方向高速再生中はランプが点灯します。

8 PLAY/PAUSE（再生／一時停止）ボタンとランプ

再生するときに押します。再生中はランプが点灯します。

再生中に再度このボタンを押すと一時停止状態となり、静止画が出力されます。このとき、ランプが毎秒1回の速さで点滅します。

再生／一時停止中にF REVボタンまたはF FWDボタンを押すと、逆方向または順方向の高速再生になります。

9 F FWD（高速再生）ボタンとランプ

順方向に高速再生します。再生速度は、ボタンを押すたびに約4倍速→約15倍速→約24倍速の順に切り替わります。順方向高速再生中はランプが点灯します。

10 PREV（逆方向クリップジャンプ）ボタン

現在のクリップの先頭にジャンプします。

F REVボタンと同時に押すと、記録メディア内で最初に記録されたクリップの先頭画にジャンプします。

このボタンをすばやく2回押すと、直前のクリップ（存在しない場合は現在のクリップ）の先頭画にジャンプします。

11 STOP（停止）ボタン

再生をやめるときに押します。

12 NEXT（順方向クリップジャンプ）ボタン

次のクリップの先頭にジャンプします。

F FWDボタンと同時に押すと、記録メディア内の最後に記録されたクリップの先頭画にジャンプします。

13 EXPAND（エクスパンド）ボタン

サムネイル画面表示中に押すと、選択したクリップを分割し、分割されたそれぞれの先頭フレームをさらにサムネイルとして一覧表示します（エクスパンド機能）。HD記録されたMP4クリップは時間で12分割、SD記録されたAVIクリップは、複数ファイルで構成されている場合のみ、ファイルごとに分割表示されます。

MP4クリップの場合は、押すたびに分割を繰り返します。SHIFTボタンを押したままこのボタンを押すと、押すたびに1つ前の分割状態に戻ります。

14 HOLD（データ表示保持）ボタン

押した瞬間に、白黒液晶表示部のタイムデータの表示が保持されます。（ただし、タイムコードジェネレーターは歩進し続けます。）もう一度押すと、保持状態が解除されます。

◆カウンター表示について詳しくは、30 ページをご覧ください。

15 RESET/RETURN（リセット／リターン）ボタン

白黒液晶表示部のタイムカウンター表示部に表示されている値をリセットします。PRESET/REGEN/CLOCKスイッチ（26ページ参照）とF-RUN/SET/R-RUNスイッチ（26ページ参照）の設定に応じて、次のように働きます。

スイッチの設定	RESET/RETURN ボタンの働き
DISPLAYスイッチ： COUNTER	カウンターを0：00：00：00にリセットする。
DISPLAYスイッチ： TC **PRESET/REGEN/CLOCKスイッチ：** PRESET **F-RUN/SET/R-RUNスイッチ：** SET	タイムコードを00：00：00：00にリセットする。
DISPLAYスイッチ： U-BIT **PRESET/REGEN/CLOCKスイッチ：** PRESET **F-RUN/SET/R-RUNスイッチ：** SET	ユーザービット[a]データを00 00 00 00にリセットする。

a)メディアに記録されるタイムコードビットのうち、ユーザーが必要な情報を記録するために使うことのできるビット。

◆「タイムデータの設定」（68ページ）

エクスパンドサムネイル画面やショットマークサムネイル画面の表示中に押すと、1つ前の画面に戻ります。

16 DISPLAY（カウンター表示切り換え）スイッチ

白黒液晶表示部のタイムカウンター表示部の表示をCOUNTER、TC、U-BITの順に切り換えます（29ページ参照）。

COUNTER：記録・再生経過時間のカウンターを表示する。

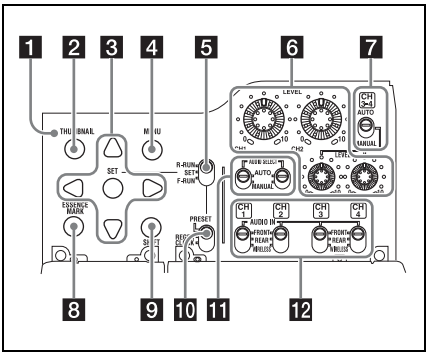
TC：タイムコードを表示する。

U-BIT：ユーザービットを表示する。

17 BACKLIGHT（バックライト）ボタン

白黒液晶表示部のバックライトの点灯／消灯を切り換えます。工場出荷時は点灯に設定されています。

サムネイル画面操作部とオーディオ調整部



1 サムネイルインジケーター

サムネイル画面が表示されているときに点灯します。

2 THUMBNAIL（サムネイル）ボタン

サムネイル操作を行うとき、このボタンを押してサムネイル画面（88ページ参照）を表示します。

もう一度押すと、元の画面に戻ります。

3 SET（設定）ボタンと矢印ボタン

タイムコードやユーザービットの数値の設定、およびサムネイル画面での操作に使用します（95ページ参照）。

セットアップメニューを表示しているときは、このボタンを押して項目の選択や設定変更を確定します。

4 MENU（メニュー）ボタン

押すたびに、セットアップメニューの表示／非表示が切り替わります。

MENU ON/OFFスイッチと同じ働きです。

5 F-RUN/SET/R-RUN（フリーラン／セット／レックラン切り換え）スイッチ

内蔵タイムコードジェネレーターの歩進モードを選択します。スイッチの位置によって、歩進モードは以下のように変わります。

F-RUN：連続してタイムコードが歩進する。タイムコードを外部ロックさせるときなどに合わせる。

SET：タイムコードやユーザービットを設定する。

R-RUN：記録中のみタイムコードが歩進する。記録メディア上のタイムコードを、連続して記録する。

◆「タイムコードを設定する」（68ページ）
◆「ユーザービットを設定する」（68ページ）

6 LEVEL CH-1/CH-2/CH-3/CH-4（音声チャンネル1/2/3/4録音レベル調整）つまみ

AUDIO SELECT CH-1/CH-2スイッチ、およびAUDIO SELECT CH 3-4スイッチをMANUALにすると、音声チャンネル1、2、3、4に記録する音声レベルを調整できます。

7 AUDIO SELECT CH 3-4（音声チャンネル3-4自動／手動レベル調整切り換え）スイッチ

音声チャンネル3と4の音声レベル調整方法を個別に選択します。

AUTO：自動

MANUAL：手動

8 ESSENCE MARK（エッセンスマーク）ボタン

サムネイル画面表示中に押すと、リストの選択項目に応じて、選択したクリップのショットマークサムネイル画面を表示することができます。

Shot Mark1：ショットマーク1が設定されたフレームの一覧

Shot Mark2：ショットマーク2が設定されたフレームの一覧

Shot Mark：ショットマーク1またはショットマーク2が設定されたフレームの一覧

9 SHIFT（シフト）ボタン

各種のボタンと組み合わせて使用します。

10 PRESET/REGEN/CLOCK（プリセット／リジェネレート／クロック）スイッチ

タイムコードを記録する方法を選択します。

PRESET：新たに設定されたタイムコードをメディアに記録する。

REGEN：メディアに記録されたタイムコードを読み取り、その値に連続するようにタイムコードを記録する。F-RUN/SET/R-RUN スイッチの設定にかかわらず、本機はR-RUNモードで歩進する。

CLOCK：タイムコードを内蔵の時計と合わせる。F-RUN/SET/R-RUN スイッチの設定にかかわらず、本機はF-RUNモードで歩進する。

11 AUDIO SELECT CH-1/CH-2（音声チャンネル1/2自動／手動レベル調整切り換え）スイッチ

音声チャンネル1と2の音声レベル調整方法を個別に選択します。

AUTO：自動

MANUAL：手動

12 AUDIO IN CH1/CH2/CH3/CH4（音声入力切り換えチャンネル1/2/3/4）スイッチ

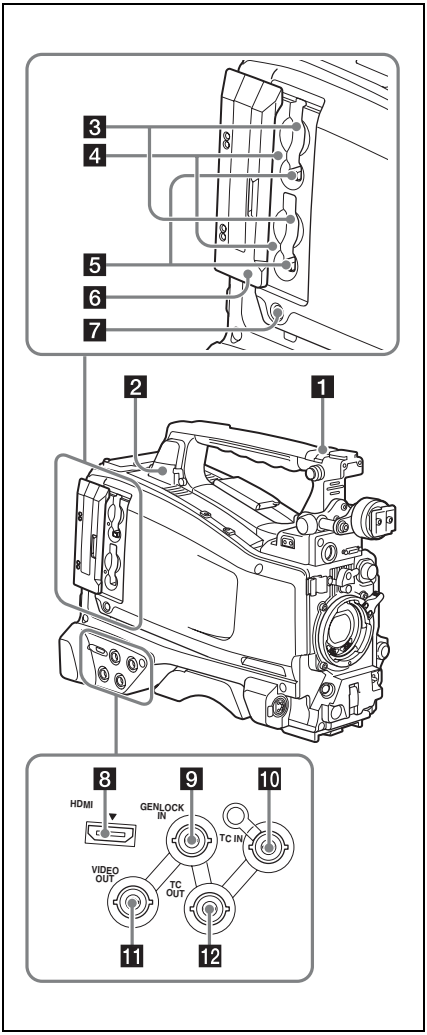
音声チャンネル1、2、3、4に記録する入力信号を選択します。

FRONT：MIC IN端子に接続したマイクからの音声入力信号

REAR：AUDIO IN CH1/CH2端子に接続したオーディオ機器からの音声入力信号

WIRELESS：本機にスロットインUHFポータブルチューナーを装着したときの音声入力信号

左側面と上部



1 ASSIGNABLE（アサイナブル）4/5 スイッチ

メニューのOPERATION >Assignable SWで機能を割り当てます（139ページ参照）。工場出荷時には、Offが割り当てられています。

2 USB端子

本機をUSB接続モードに切り換えてコンピューターの外部記憶装置として使用するための端子です。ExpressCardスロットを持たないコンピューターとこの端子を接続すると、本機に挿入されたメモリーカードが、カードごとにドライブとして認識されます。

3 SxSメモリーカードスロット

上下に2つのスロット（AとB）があり、SxSメモリーカードなどの記録メディアを挿入します（73ページ参照）。

4 ACCESS（アクセス）ランプ

スロットA/Bの状態を示します（73ページ参照）。ランプの点灯状態はスロットカバーを閉めていても確認できます。

5 EJECT（SxSメモリーカード取り出し）ボタン

一度押してロックを解除し、再度押し込むと記録メディアが手前に引き出されます（74ページ参照）。

6 スロットカバー

左右にスライドして開閉します。

7 SLOT SELECT（SxSメモリーカード選択）ボタン

スロットAとBの両方に記録メディアが装着されているとき、使用する記録メディアを切り換えます（74ページ参照）。

8 HDMI出力端子

ビデオモニター用のHDMI信号を出力します。HDMI信号入力端子付きのビデオモニターを接続して、撮影中の映像（カメラ画）または再生画をモニターすることができます。

9 GENLOCK IN（ゲンロック用入力）端子（BNC型）

カメラ部にゲンロックをかけるとき、またはタイムコードを外部ロックさせるとき、

基準信号を入力します。入力できる基準信号は、設定されているシステム周波数によって次表のように異なります。

システム周波数	入力できる基準信号
1080/59.94i	1080/59.94i、480/59.94i
1080/29.97P	1080/59.94i、480/59.94i
1080/23.98P（PsF出力時）	1080/23.98PsF、480/59.94i
1080/23.98P（プルダウン出力時）	1080/59.94i、480/59.94i
720/59.94P	1080/59.94i、720/59.94P、480/59.94i
720/29.97P	1080/59.94i、720/59.94P、480/59.94i
720/23.98P	1080/59.94i、720/59.94P、480/59.94i
480/59.94i	1080/59.94i、480/59.94i
480/29.97P	1080/59.94i、480/59.94i
1080/50i	1080/50i、576/50i
1080/25P	1080/50i、576/50i
720/50P	1080/50i、720/50P、576/50i
720/25P	1080/50i、720/50P、576/50i
576/50i	1080/50i、576/50i
576/25P	1080/50i、576/50i

（カメラ部へのゲンロックは、水平同期信号のみに対応しています。）ゲンロックのHフェーズ（水平同期信号の位相）の調整はメニューのMAINTENANCE >Genlockで行います。

10 TC IN（タイムコード入力）端子（BNC型）

タイムコードを外部ロックさせるとき、基準となるタイムコードを入力します。

◆「タイムコードを設定する」（68ページ）

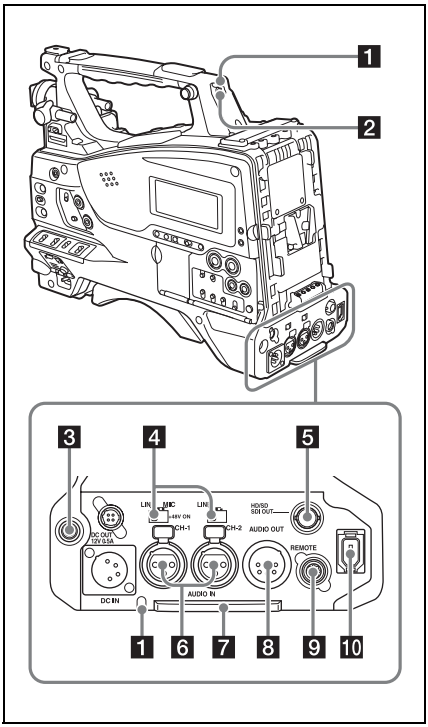
11 VIDEO OUT（ビデオ出力）端子（BNC型）

ビデオモニター用のビデオ信号を出力します。メニューのOPERATION >Input/Output >Output&i.LINKの設定により、コンポジットビデオまたはHD-Yのいずれかを選択できます。

12 TC OUT（タイムコード出力）端子（BNC型）

外部VTRのタイムコードを本機のタイムコードにロックさせるとき、外部VTRのタイムコードロック用TC IN（タイムコード入力）端子と接続します。

後面



1 TALLY（バックタリー）ランプ（赤）

記録中に点灯します。ただし、TALLYスイッチがOFFになっていると点灯しません。WARNINGランプ（24ページ参照）が動作しているときは点滅します。なお、ビューファインダー前面のタリーランプ、ビューファインダー画面のREC表示も同様に点灯／点滅します。

◆「警告システム」（156ページ）

2 TALLY（タリー）スイッチ

TALLYランプを使用するとき、ONに設定します。

3 EARPHONE（イヤホン）端子（ステレオ、ミニジャック）

イヤホンを接続すると、記録中はE-E音を、再生中は再生音をモニターできます。警告ランプや警告表示の点滅・点灯に合わせて警告音も聞こえます。内蔵スピーカーからの音は自動的に聞こえなくなります。
メニューのMAINTENANCE >Audioでモノラル／ステレオを切り換えることができます。

4 AUDIO IN（音声入力）切り換えスイッチ

AUDIO IN CH1/CH2端子に入力される音声の音源を切り換えます。

LINE：ステレオアンプなど、外部のオーディオ信号源を接続する場合

MIC：48V対応マイク以外のマイクを接続する場合

＋48V：48V対応マイクを接続する場合

5 HD/SD SDI OUT端子（BNC型）

HDSDI信号（エンベデッドオーディオ）またはSDSDI信号（エンベデッドオーディオ）を出力します。本端子からの出力信号は、メニューのOPERATION >Input/Output >SDI Outputでオン／オフすることができます。

6 AUDIO IN CH1/CH2（音声入力チャンネル1/2）端子（XLR型、3ピン、凹）

オーディオ機器やマイクを接続します。

7 ボトムカバー

後面の端子に接続するケーブル類を保護するためのパーツです。
カムコーダー底面の取り付けネジをゆるめると、接続するマイクケーブルまたはオーディオケーブルのプラグの形状に応じて、ボトムカバーの位置を調整することができます。調整後は、ネジを締めてカバーを固定してください。

8 AUDIO OUT（音声出力）端子（XLR型、5ピン、凸）

オーディオチャンネル1、2または、オーディオチャンネル3、4に記録された音声信号を出力します。
出力する音声信号は、MONITORスイッチで選択します。

9 REMOTE（リモートコントロール）端子（8ピン）

本機の遠隔操作が可能なリモートコントロールユニットを接続します。

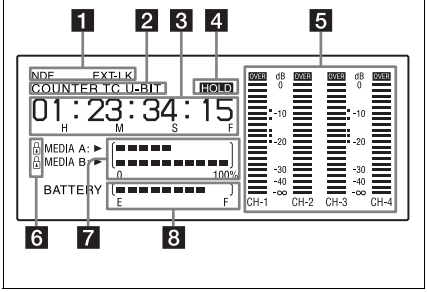
ご注意

本機にリモートコントロールユニットの接続／取りはずしを行うときは、本機の電源を切ってから行ってください。

10 i.LINK（HDV/DV）端子（6ピン、IEEE1394準拠S400）

HDV/DV機器と接続し、HDV/DVストリームを入出力します。

白黒液晶表示部



1 状態表示

NDF：タイムコードがノンドロップフレームモードのとき表示されます。

EXT-LK：内蔵のタイムコードジェネレーターがTC IN端子に接続した外部信号にロックしているとき表示されます。

2 カウンター表示種別

DISPLAYスイッチによって選択されているカウンター表示部の種別を表示します。

COUNTER：カウンター
TC：タイムコード
U-BIT：ユーザービット

3 タイムカウンター表示

DISPLAYスイッチのポジションにより、タイムカウンター、タイムコード、ユーザービットを切り換えて表示します。
タイムコード表示中にHOLDボタンが押されたときは、次のフォーマットで表示されます。HOLDボタンを再度押して保持状態を解除すると、通常の表示に戻ります。

カウンター歩進が保持状態であることを3つのドットで表す

4 HOLD表示

タイムコードジェネレーターの歩進表示を止めているとき表示されます。

5 音声レベルメーター

音声記録レベルまたは再生レベルが表示されます。「1」～「4」は音声チャンネル1～4を示します。

6 ロックマーク表示

記録メディアがプロテクトされているとき表示されます。

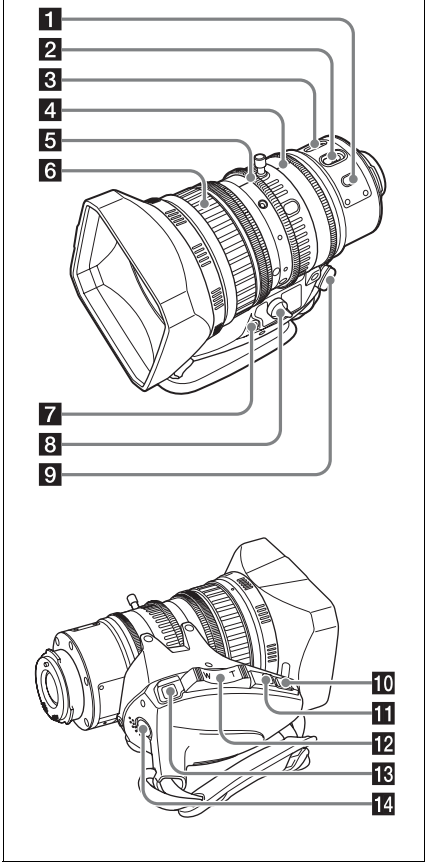
7 メディア残量表示

記録メディアの残量がスロットごとにバーグラフで表示されます。

8 バッテリー残量表示

バッテリーの残量がバーグラフで表示されます。

オートフォーカスレンズ（PMW-320Kに付属）



1 PUSH AF（オートフォーカス）ボタン

フォーカス調整がマニュアルモードのときは、このボタンを押すことによって押した時点の被写体へのオートフォーカス調整が可能です。
ボタンを押すとオートフォーカスが起動し、フォーカスが合うと停止します。
FOCUSスイッチがA（オート）側になっていても、このボタンを押すことによって、オートフォーカスが再起動します。

2 FOCUS（フォーカス調整モード）スイッチ

A（オート）：常時オートフォーカス機能が働きます。スイッチがA側になっていても、フォーカスリングを操作することによって、マニュアルでフォーカスを調整することもできます。

M（マニュアル）：マニュアルモードになり、フォーカスリングでフォーカスを調整します。
マニュアルモードでは、PUSH AFボタンによるオートフォーカス調整も可能です。

3 MACRO（マクロ）スイッチ

スイッチをON側にするとマクロ有効モードになり、マクロ領域（レンズ先端から5cm [1]～90cm）を含めた範囲（5cm [1]～∞）でのフォーカス操作が可能になります。
この動作は、フォーカス調整モードがオート／マニュアルに関わらず有効です。
マクロ領域では、オートフォーカスの動作速度が遅くなります。
1)ワイド（広角）端時

4 絞りリング

マニュアルで絞りを調整するとき、IRISスイッチをM（マニュアル）側に切り換えてから、このリングを回します。

5 ズームリング

マニュアルでズームを調整するとき、ZOOMスイッチをMANUAL側に切り換えてから、このリングを回します。

6 フォーカスリング

フォーカスを調整するとき、このリングを回します。
このリングは、双方向にエンドレスで回転します。速く回転させるほどフォーカス動作が速くなり、少ない回転量でフォーカスが合うように設計されています。
フォーカスリングを後方（本体側）に引くと、常にマニュアルでフォーカスを合わせるFull MFモードになります（64ページ参照）。

7 フランジバック調整ボタン

フランジバック（レンズ取り付け面から結像面までの距離）を調整するとき押します（47ページ参照）。

8 ズームコントロール端子（8ピン）

別売のズームサーボコントローラーを接続することによって、ズームの遠隔操作が可能です。

9 ZOOM（ズーム操作モード）スイッチ

SERVO（サーボ）：電動ズームを選択します。電動ズームレバーを使って操作します。

MANUAL（マニュアル）：手動ズームを選択します。ズームリングを使って操作します。

10 PUSH AUTO（インスタント自動絞り）ボタン

IRISスイッチをM側にして絞りを手動で調整している間に一時的に自動調整を行いたいとき、このボタンを押します。ボタンを押している間、絞りが自動調整されます。

11 IRIS（絞り調整モード選択）スイッチ

A（オート）：絞りが自動調整されます。

M（マニュアル）：絞りリングで絞りを調整します。

12 電動ズームレバー

ZOOMスイッチがSERVO側に設定されているとき、有効です。広角にしたいときW（ワイド）側を、望遠にしたいときT（テレ）側を押します。
レバーを深く押すとズーム速度が早くなり、浅く押すと遅くなります。

オートフォーカスについてのご注意

- 以下のような場合、被写体にフォーカスが合いにくいことがあります。このような場合は、マニュアル操作でフォーカスを合わせてください。

- 被写体にコントラストがないとき
- 被写体の動きが速いとき
- 街灯や夜景などの点灯源を撮影するとき
- 被写体の近くに極端に明るいものがあるとき
- ガラス窓越しに撮影するとき

- 画面内に遠いものと近いものが複数あるときは、意図しない被写体にフォーカスが合う場合があります。この場合は、フォーカスを合わせたい被写体を画面中央に映し、PUSH AFボタンを押してください。
- PUSH AFボタンでフォーカスを合わせた後、ズーム操作や絞り調整を行うと、被写界深度が浅くなることによってフォーカスが甘くなる場合があります。この場合は、もう一度PUSH AFボタンを押して、フォーカスを合わせ直してください。
- ワイド（広角）側でフォーカスを合わせてテレ（望遠）側にズームすると、フォーカスが合わない場合があります。
- スローシャッターモード使用中は、フォーカスが合うまでに時間がかかることがあります。

ズームスピードについてのご注意

撮影距離によっては、テレ（望遠）側にズームしていくうちにズームスピードが低下する場合があります。

13 RET（リターンビデオ）ボタン

アサイナブルスイッチとして、機能を割り当てて使用することができます（140ページ参照）。

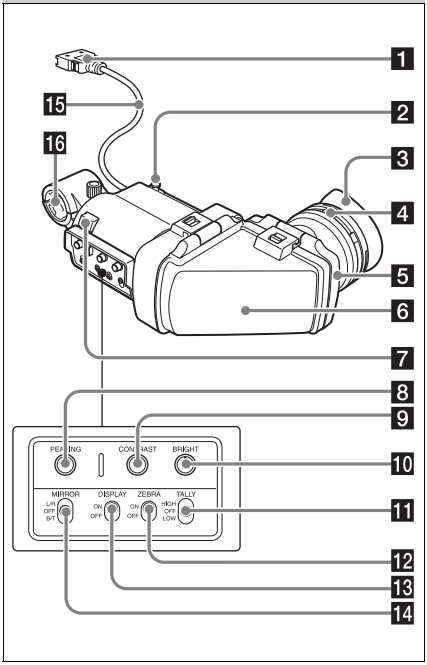
「Lens RET」が割り当てられているときは（工場出荷時）、記録一時停止中に押すと、記録した最後の数秒間をビューファインダーでみる（レックレビューする）ことができます（77ページ参照）。

また、記録／再生中に押す（クリックする）とショットマーク1が、すばやく2回押す（ダブルクリックする）とショットマーク2が記録されます（79ページ参照）。

14 VTRボタン

記録の開始／停止に使用します。一度押すと記録が始まり、もう一度押すと停止します。

ビューファインダー



1 コネクター

本機のVF端子（角型）に接続します。

2 スライドストッパー

ビューファインダーを本機に取り付けて左右にスライドさせるとき、ビューファインダーが本機からはずれるのを防ぎます。

3 アイカップ

4 視度調整リング

画面の映像が最もはっきり見えるように、このリングを回して視度を調整します。

5 アイピース部

使用状況に応じて、跳ね上げることができます。

6 VF筒部
使用状況に応じて、跳ね上げたり、回転させたりすることができます。

7 タリーランプ
本機のREC STARTボタン、レンズのVTRボタン、またはリモートコントロールユニットのVTRボタンを押して、記録が始まると点灯します。
異常発生時は、点滅して警告表示を行います。

8 PEAKING（ピーキング調整）つまみ
時計方向に回すと、画面の映像の輪郭が強調され、レンズのフォーカス合わせが容易になります。本機の出力信号には影響しません。

9 CONTRAST（コントラスト調整）つまみ
画面のコントラストを調整します。本機の出力信号には影響しません。

10 BRIGHT（明るさ調整）つまみ
画面の明るさを調整します。本機の出力信号には影響しません。

11 TALLY（タリー）スイッチ
ビューファインダー前面のタリーランプをコントロールします。
HIGH：タリーランプが明るくなる
OFF：タリーランプが機能しなくなる
LOW：タリーランプが暗くなる

12 ZEBRA（ゼブラパターン）スイッチ
ゼブラパターンの表示をコントロールします。
ON：ゼブラパターンを表示する
OFF：ゼブラパターンを表示しない

13 DISPLAY（ディスプレイ）スイッチ
文字情報の表示をコントロールします。
ON：文字情報を表示する
OFF：文字情報を表示しない

14 MIRROR（反転）スイッチ
VF筒部を跳ね上げたり、回転させたりして画像が左右または上下に反転しているときに使用します。
L/R：画像を左右に反転させる
OFF：画像を反転させない
B/T：画像を上下に反転させる

15 ビューファインダーケーブル

16 マイクホルダー

画面表示

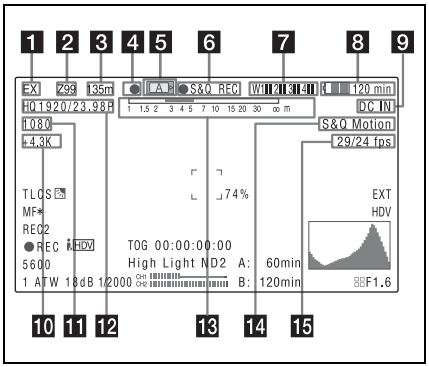
ビューファインダー画面には、映像のほかに本機の設定や動作の状態を示す文字やメッセージ、センターマーカー、セーフティーゾーンマーカーなどが表示されます。セットアップメニューを表示していない状態で、DISPLAYスイッチがONに設定されているとき、画面の上端と下端に表示される内容は、OPERATIONメニューのSuper Imposeの設定や、関連するスイッチでの設定に連動しています。

また、設定変更時は注意メッセージを3秒間、調整経過中は実行中を示すメッセージ、調整完了後はその内容や結果を知らせるメッセージを3秒間表示します。

これらの表示はビューファインダーだけでなく、メニュー設定により、ビデオ出力することもできます。

表示できる項目は、次図のように配置されています。

画面上部



1 エクステンダー表示

本機のデジタルエクステンダー機能（デジタルエクステンダー用のオプション）およびレンズのエクステンダー機能の設定状態が表示されます。

EX：レンズのエクステンダーがONのとき

08：レンズのシュリンカーがONのとき

x2D：本機のデジタルエクステンダー機能（オプション）がONのとき

Ex2D：レンズのエクステンダーおよび本機のデジタルエクステンダー機能（オプション）の両方がONのとき

2 ズームポジション表示（シリアルレンズ装着時のみ）

ズームレンズのズームポジションが0～99の範囲で表示されます。

3 フォーカスポジション表示（シリアルレンズ装着時のみ）

フォーカスポジションが、被写体までの距離（単位：m）で表示されます。

4 グリーンタリー表示

本機が次の状態のときに表示されます。

- メニューのMAINTENANCE >Camera Config >HD-SDI Remote I/FがG-Tallyに設定されており、HD/SD SDI OUT端子から記録の制御信号が出力されているとき
- ピクチャーキャッシュモードが有効なとき

5 メディア状態表示

アクティブなメディアのスロット名（AまたはB）が表示されます。

6 記録モード／動作状態表示

本機の記録モードと動作状態が以下のように表示されます。

表示	意味
●REC	記録中
STBY	記録待機中
●CACHE	ピクチャーキャッシュモードで記録待機中
●INT REC	インターバルレックモードで記録中
●INT STBY	インターバルレックモードで次の記録開始待ち

表示	意味
INT STBY	インターバルレックモードで記録待機中
●FRM REC	フレームレックモードで記録中
●FRM STBY	フレームレックモードで次の記録開始待ち
FRM STBY	フレームレックモードで記録待機中
●S&Q REC	スロー &クイックモーションモードで記録中
S&Q STBY	スロー &クイックモーションモードで記録待機中
●CALL	外部接続機器からのコール時
▶REVIEW	レックレビュー中

7 ワイヤレスレシーバー受信レベル表示

本機にスロットインレシーバーが装着されているとき「W」が表示され、レシーバーが使用できるチャンネル数（1ch、2ch、または4ch）に応じて、各チャンネルの受信レベルが4つのセグメントから成るインジケーターで次のように表示されます。

通常：白色セグメントの表示数で受信レベルの強度を示す

アナログレシーバーのミューティング時／デジタルレシーバーのエラーレート悪化時：灰色セグメントの表示数で受信レベルの強度を示す

8 バッテリー残量／電圧表示

本機を駆動している電源の種類に応じて以下のように表示されます。

電源の種類	表示
インフォバッテリー	バッテリー残量アイコンと記録可能な残り時間
アントンバウアー社製バッテリー	バッテリー残量（%表示）
その他の電源	入力電圧

9 外部電源入力表示

DC IN端子に接続した外部電源から電源が供給されると表示されます。

10 色温度表示

R/Bのゲインから計算された色温度が1.5K～50.0Kの範囲（0.1K刻み）で表示されます。また、Offset Whiteの設定（104ページ参照）によって、+/−が表示されます。

表示なし：Offset WhiteがOFF

＋：Offset Whiteの設定値が3200Kより大きいとき

−：Offset Whiteの設定値が3200Kより小さいとき

11 システムライン数表示

記録中または再生中の映像のシステムライン数（1080/720/576/480）が表示されます。

12 ビデオフォーマット表示

記録中または再生中のビデオフォーマットが表示されます（55ページ参照）。

ビデオフォーマットがDVCAMに設定されているときは、映像のアスペクト比（16:9/4:3）を表示することもできます。

13 被写界深度表示（シリアルレンズ装着時のみ）／エラー／警告表示

被写界深度がバーで表示されます。表示の単位は、メニューのOPERATION >Display On/Off >Lens Infoの設定により、メートルまたはフィートを選択できます。

エラーまたは警告が発生すると、このエリアにメッセージが表示されます。

14 特殊記録モード表示

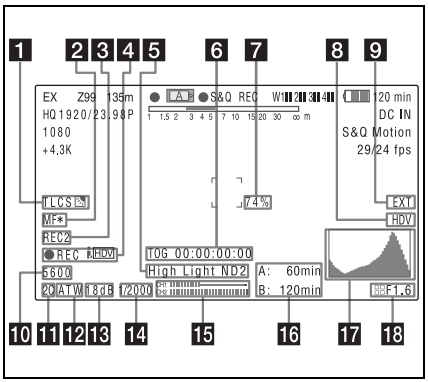
本機が特殊記録モードのときに表示されます。

- Frame Rec（フレームレックモード）
- Interval Rec（インターバルレックモード）
- S&Q Motion（スロー &クイックモーションモード）

15 特殊記録モードの設定表示

本機が特殊記録モードのとき、その設定内容が表示されます。

画面下部



1 TLCS制御モード表示

TLCS（トータルレベルコントロールシステム）による映像レベルの制御モードがアイコンで表示されます。

アイコン	TLCS の制御モード
	バックライトモード
STD	標準モード
	スポットライトモード

2 フォーカスモード表示（オートフォーカスレンズ装着時のみ）

本機のフォーカス調整モードが表示されます。

- AF（オートフォーカス）
- MF（マニュアルフォーカス）
- MF*（マニュアルフォーカス、MFアシスト機能がON）
- Full MF（フルマニュアルフォーカス）

3 外部機器制御表示

メニューのMAINTENANCE >Camera Config >HD-SDI Remote I/FがCharaに設定されており、HD/SD SDI OUT端子から記録の制御信号が出力されているとき、「REC2」と表示されます。

4 i.LINK接続機器の動作状態表示

i.LINK（HDV/DV）端子に接続した機器の種類（HDVまたはDV）と、その動作状態が以下のように表示されます。

表示	意味
●REC i HDV	HDV記録中
STBY i HDV	HDV記録待機中
●REC i DV	DV記録中
STBY i DV	DV記録待機中

5 映像レベル注意表示

映像レベルが高すぎるときや低すぎるときに、適切なNDフィルターの番号を注意表示します。

6 タイムコード表示 注意表示

DISPLAYスイッチ（25ページ参照）の設定に応じて、記録・再生経過時間、タイムコード、ユーザービットなどが表示されます。

設定を変更するときなど、注意を要するとき、このエリアに注意メッセージが表示されます。

7 輝度レベル表示

検出枠内の輝度レベルの平均値が%で表示されます。

8 外部入力ソース表示

外部入力信号を記録するとき、信号の種類（HDV）が表示されます。

9 外部入力設定表示

外部入力信号を記録するとき、「EXT」と表示されます。

10 電気色温度フィルター表示

CC5600K機能がオンのとき表示されます。

11 フィルター表示

現在選択されているNDフィルターのポジション番号が表示されます（20ページ参照）。

Electrical CCをアサイナブルスイッチに割り当てているときは、前ページの図のように、NDフィルター表示（1〜4）の右側に電気的CCフィルターのポジション（A/B/C/D）が表示されます。

12 ホワイトバランスメモリー表示

現在選択されているホワイトバランスの自動調整メモリーが表示されます。

ATW：ATW（自動追尾ホワイトバランス）モード
W:A：メモリー Aモード
W:B：メモリー Bモード
W:P：プリセットモード
3200：Color Temp SW 3200Kを割り当てたアサイナブルスイッチがオンのとき
4300：Color Temp SW 4300Kを割り当てたアサイナブルスイッチがオンのとき
5600：Color Temp SW 5600Kを割り当てたアサイナブルスイッチがオンのとき
6300：Color Temp SW 6300Kを割り当てたアサイナブルスイッチがオンのとき

13 ゲイン値表示

GAINスイッチによる映像アンプのゲイン設定値（dB）が表示されます。

14 シャッター表示

シャッタースピードまたはシャッターモードが表示されます。

◆「電子シャッターの設定」（60ページ）

15 オーディオレベルメーター

音声チャンネル1、2のレベルが表示されます。

16 メディア残量表示

現在設定されているビデオフォーマット（記録ビットレート）で撮影した場合に記録可能な時間が、スロットごとに分単位で表示されます。記録メディアがプロテクトされているときは、ロックマークが表示されます。

17 ヒストグラム表示

映像の明るさのピクセル分布がグラフ表示されます（HDモードのみ）。

18 アイリスポジション表示（レンズ装着時のみ）

アイリスポジション、およびアイリスオーバーライド（絞りの基準値）の設定状態（62ページ参照）が表示されます。
アイリスオーバーライドの設定状態は、4つのセグメントから成るインジケーターで次のように表示されます。

基準値	インジケーター	
+0.25	■ □ □ □	左側下の灰色セグメントが点灯
+0.5	■ ■ □ □	左側上下の灰色セグメントが点灯
+0.75	■ ■■ □ □	左側上下と右側下の灰色セグメントが点灯
+1	■■ ■■ □ □	灰色セグメントがすべて点灯
−0.25	□ □ □ □	左側下の白色セグメントが点灯
−0.5	□ □ □ □	左側上下の白色セグメントが点灯
−0.75	□ □□ □ □	左側上下と右側下の白色セグメントが点灯
−1	□□ □□ □ □	白色セグメントがすべて点灯

2章 準備

電源の準備

安全のため、下記ソニー純正以外のバッテリーおよびAC電源を使用しないでください。

- リチウムイオンバッテリーパック：BP-GL95/GL65/L60S/L80S
- ACアダプター：AC-DN2B、AC-DN10

バッテリーパックを使用する

バッテリーパックBP-GL95/GL65/L60S/L80Sを使った場合、連続記録での動作時間は以下のとおりです。

商品名	動作時間
BP-GL95	約310分
BP-GL65	約210分
BP-L60S	約210分
BP-L80S	約270分

⚠警告

直射日光の下や火気の近くなど、高温のところにバッテリーを置かないでください。

ご注意

バッテリーパックの動作時間は、バッテリーパックの使用頻度や使用時の周囲温度によって変化します。

ご使用になる前に、各バッテリーパックに適したバッテリーチャージャーで充電してください。

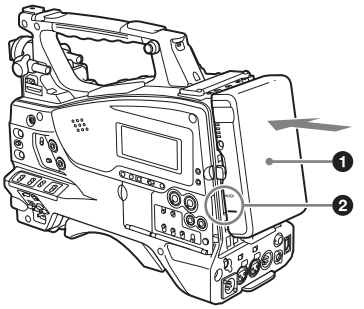
◆充電方法について詳しくは、バッテリーチャージャーの取扱説明書をご覧ください。

バッテリーパック使用上のご注意

使用直後、バッテリーパックの温度が上昇した状態で充電すると、完全に充電されないことがあります。

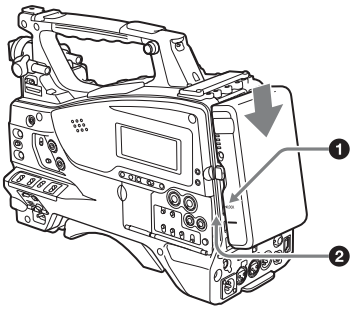
バッテリーパックを取り付けるには

1 バッテリーパックの側面のラインを本体のラインに合わせて、バッテリーパックを本体の後面に押し当てる。



❶ BP-GL95/GL65/L60S/L80S
❷ 本体／バッテリーパックのライン

2 バッテリーパックを押し下げて、バッテリーパックの「LOCK」表示部の矢印を本体のラインに合わせる。



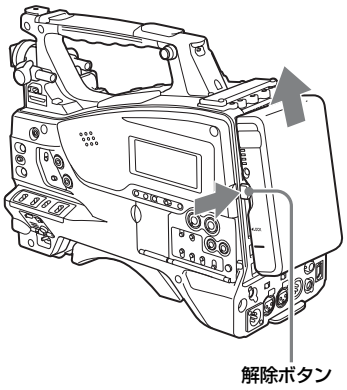
❶「LOCK」表示部の矢印
❷ 本体のライン

ご注意

バッテリーパックは、正しく取り付けないと端子を破損することがあります。

バッテリーパックを取りはずすには

解除ボタンを押し込んだままバッテリーパックを押し上げます。

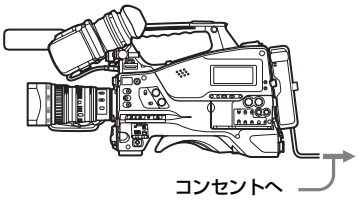


ご注意

- 記録・再生が行われている（ACCESSランプが点灯している）ときは、絶対にバッテリーパックを抜かないでください。
- バッテリーは、必ず本機の電源をオフにしてから交換してください。

AC電源を使用する

ACアダプター AC-DN2B/DN10をバッテリーと同様に本体に装着し、AC電源に接続します。
AC-DN2B/DN10は最大100Wまでの電源を供給できます。



ビューファインダーの取り付け

⚠注意

ビューファインダーを取り付けたあと、接眼レンズを太陽に向けて放置しないでください。
太陽光が接眼レンズを通して焦点を結び、火災の原因になることがあります。

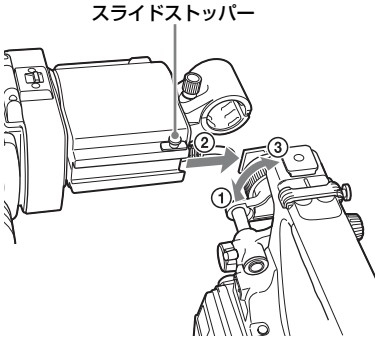
付属のビューファインダーを取り付ける

ご注意

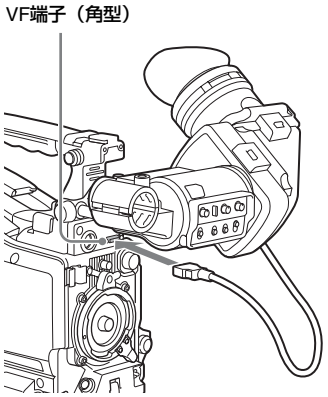
ビューファインダーを取り付けるときは、以下の点にご注意ください。

- 必ず本機の電源をオフにしてから、ビューファインダーコネクターを本機のVF端子（角型）に差し込んでください。電源がオンの状態でコネクターを差し込むと、ビューファインダーが正常に動作しないことがあります。
- ビューファインダーコネクターを本機のVF端子（角型）の奥まで確実に差し込んでください。コネクターが確実に接続されていないと、画像が乱れたり、タリーランプが正常に点灯しないことがあります。

1 ①左右位置固定リングをゆるめる。②ビューファインダー取り付けシューにビューファインダーを取り付け、③左右位置固定リングを締める。



2 ビューファインダーコネクターをVF端子（角型）に接続する。

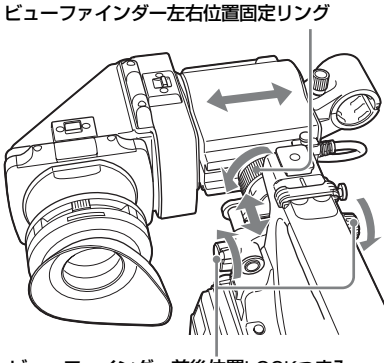


ビューファインダーを取りはずすには

取り付けと逆の手順で行います。ただし、ビューファインダーを取り付けシューから取りはずすときに、スライドストッパーを引き上げてください（40ページ参照）。

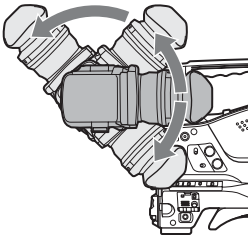
位置を調整する

左右位置を調整するときはビューファインダー左右位置固定リングを、前後位置を調整するときはビューファインダー前後位置LOCKつまみを、それぞれゆるめます。



角度を調整する

ビューファインダーの角度を調整します。

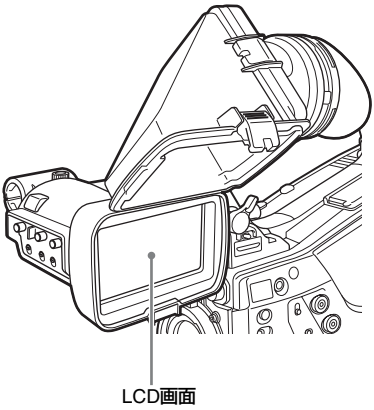


画像／文字表示を上下反転させるには

ビューファインダーは、被写体側からみることもできるように180°回転します。
この場合、ビューファインダー画面上の画像や文字表示の上下が逆になります。
ビューファインダー背面のMIRRORスイッチをB/Tにすると、画像や文字表示の上下を反転させて、通常の状態に戻すことができます。

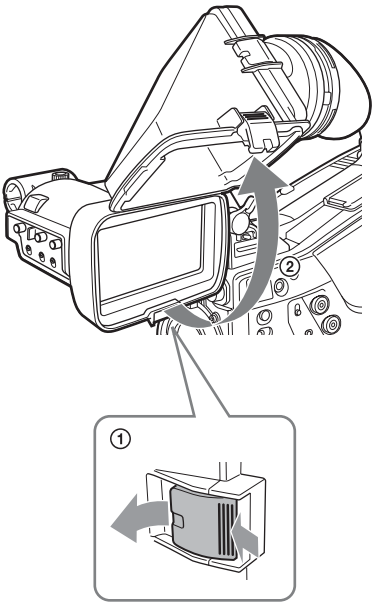
VF筒部／アイピース部を跳ね上げる

VF筒部／アイピース部を跳ね上げると、内部のLCD画面またはその鏡像をみることができます。
ここでは、VF筒部の跳ね上げ／取りはずしについて説明します。アイピース部も同様に跳ね上げたり、取りはずしたりすることができます。



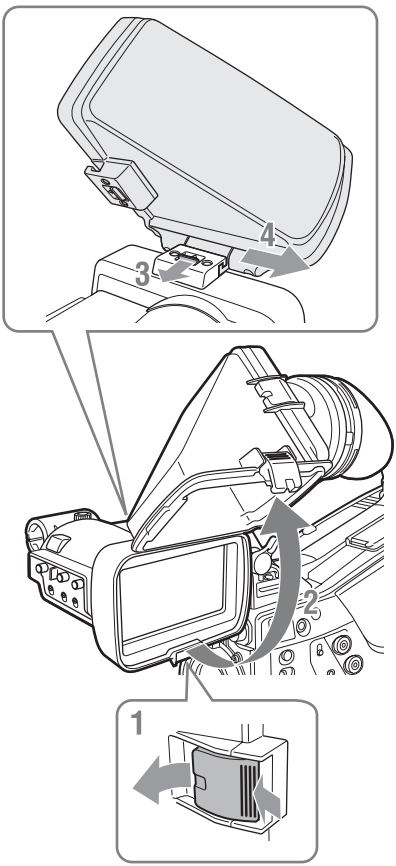
跳ね上げるには

底のクリップを押してはずし（①）、上に開きます（②）。
120°開いた位置でロックします。



通常はロック位置で使用してください。
ロック位置からさらに開くこともできますが、再度120°の位置でロックしたい場合は、いったん元の閉じた位置まで戻してから開き直してください。

取りはずすには



1 底のクリップを押してはずす。

2 VF筒部を上げる。

3 上のボタンをVF筒部と反対の方向にスライドさせてロックをはずす。

4 VF筒部を水平にスライドさせて取りはずす。

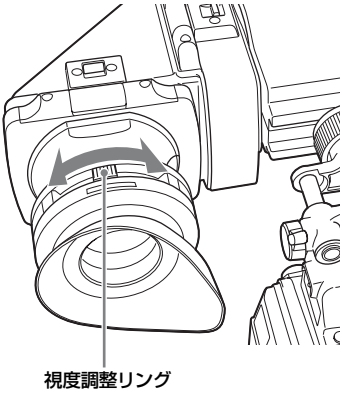
画像／文字表示を左右反転させるには

ビューファインダー背面のMIRRORスイッチをL/Rにすると、ビューファインダー画面上の画像や文字表示の左右を反転させることができます。

視度と画面を調整する

視度を調整するには

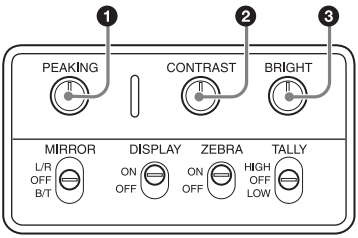
視度調整リングを回して、ビューファインダー内の画像がはっきり見えるように調整します。



画面を調整するには

ビューファインダー画面の状態を、次の項目について調整できます。

輪郭：PEAKINGつまみで調整する。
濃淡：CONTRASTつまみで調整する。
明るさ：BRIGHTつまみで調整する。

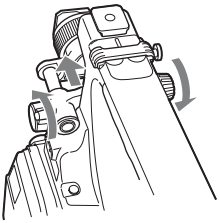


❶ PEAKINGつまみ
❷ CONTRASTつまみ
❸ BRIGHTつまみ

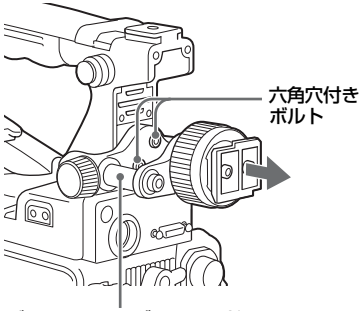
ビューファインダー回転収納機構BKW-401を取り付ける

ビューファインダー回転収納機構BKW-401（別売）を取り付けると、ビューファインダーを垂直位置まで回転させることができます。ビューファインダーをこの位置にしておけば、本機のグリップを持ったときにビューファインダーが脚に当たらないため、速やかに移動できます。

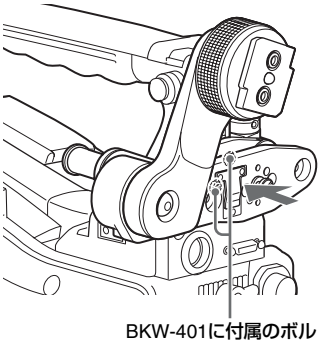
1 ビューファインダー前後位置固定レバーとビューファインダー前後位置LOCKつまみをゆるめ、ビューファインダースライドAssyを手前に引き出す。



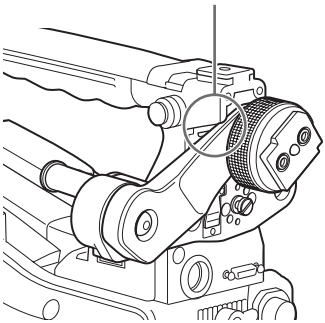
2 対辺2.5ミリの六角レンチを使用して、ビューファインダースライドAssyを取りはずす。



3 BKW-401を付属のボルトで取り付ける。



4 BKW-401のアームを跳ね上げたとき、ハンドルと干渉しないように前後位置を調整する。



5型エレクトロニックビューファインダーを取り付ける

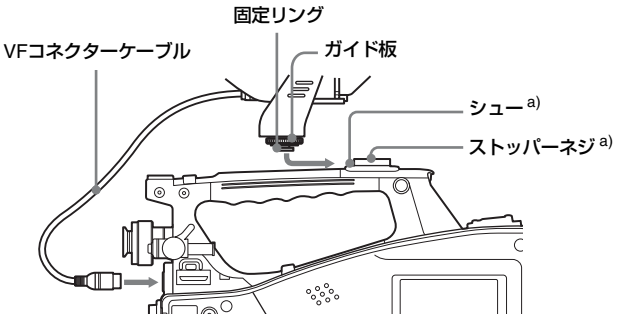
別売のエレクトロニックビューファインダー DXF-51またはDXF-C50W（5型）を取り付けることができます。取り付けにはアクセサリーシューキット（サービスパーツ番号：A-8274-968-B）が必要です。

◆詳しくは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

ご注意

付属のビューファインダーと5型ビューファインダーを同時に使用することはできません。

取っ手上部のカバーをはずして、アクセサリーシューキットのシューとストッパーネジを取り付けます。



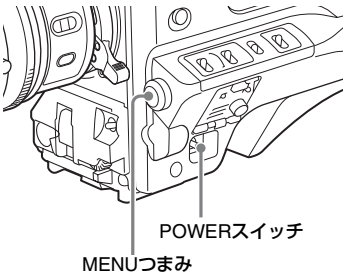
a)アクセサリーシューキットに付属

使用地域の設定

本機を初めて使用するとき

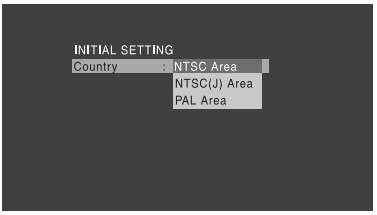
本機は、使用地域が未設定の状態で出荷されています。したがって、本機をご使用になるには、初めに使用地域を設定する必要があります。（使用地域を設定しないと、本機を使用することはできません。）

使用地域を設定するには



1 **POWERスイッチをONにする。**
ビューファインダーに使用地域の設定画面が表示されます。

2 **MENUつまみを押す。**
選択可能な使用地域の設定値が表示されます。



3 **MENUつまみを回して、希望の使用地域を選択する。**

設定値	使用地域
NTSC Area	NTSC地域（日本以外の地域向け）a)
NTSC(J) Area	NTSC地域（日本国内向け）b)
PAL Area	PAL地域 c)

a)本機から出力されるコンポジット信号はSetup（7.5IRE）が付いたNTSC信号。システム周波数は59.94i

b)本機から出力されるコンポジット信号はSetupがないNTSC信号。システム周波数は59.94i

c)本機から出力されるコンポジット信号はPAL信号。システム周波数は50i

4 **以下の項目を設定する。**
- Time Zone（タイムゾーン）
- Date/Time（日付／時刻）

◆「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）

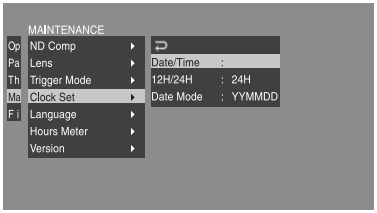
5 **MENUつまみを回して「Finish」を選択し、つまみを押す。**
本機が使用できる状態になります。

内蔵時計の日付と時刻の設定

内蔵時計の年、月、日、および時刻を設定します。ここで合わせた時刻がタイムコードに実時刻として反映されます。

◆メニューの操作について詳しくは、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）

1 **MAINTENANCEメニューのClock Set >Date/Timeを選択する。**



2 **MENUつまみを押す。**
Date/Time画面が表示されます。

3 **MENUつまみを回して希望の値を表示させ、つまみを押す。**
右隣の項目に選択が移動します。

4 **手順3を繰り返して残りの設定を行う。**

5 **「SET」が選択された状態でMENUつまみを押す。**
手順3、4で設定した日付、時刻が内蔵時計に反映されます。

設定を取り消すには

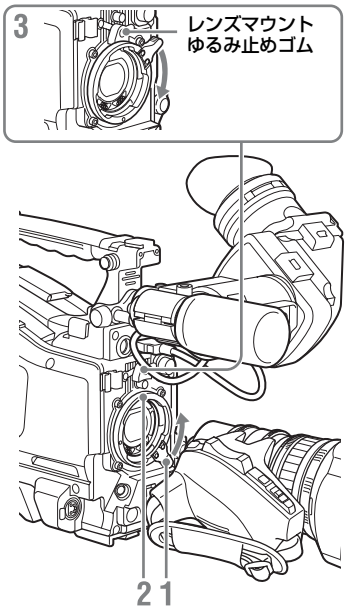
上記の手順5の操作を行う前にMENU CANCEL/PRST/CANCEL/PRSTスイッチをCANCEL/PRST側に押し上げます。

レンズの取り付けと調整

ご注意

レンズの取り付け／取りはずしは、必ず電源をオフにしてから行ってください。

◆レンズの取り扱いについては、レンズの取扱説明書をご覧ください。



1 レンズ固定レバーを押し上げて、レンズマウントからレンズマウントキャップをはずす。

2 レンズマウント上部中央の凹部にレンズのセンターピンを合わせ、レンズをマウントに差し込む。

3 レンズを支えながら、レンズ固定レバーを押し下げてレンズを固定する。

⚠注意

レンズがしっかり固定されていないと、本機の使用中にレンズがはずれて、大きな事故につながることがあります。レンズが固定されているか充分に確認してください。前図のように、レンズマウントゆるみ止めゴムをはめ込んで使用することをおすすめします。

収差補正対応レンズを取り付けたときは

自動的に収差補正機能が働きます。本機の起動時にデータ読み込みを行うため、起動に時間がかかることがあります。

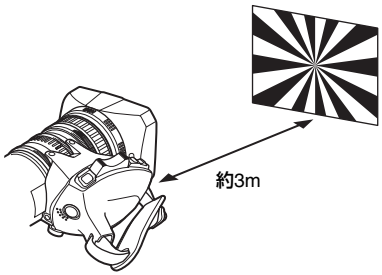
PMW-320Kに付属のレンズは収差補正対応レンズです。その他の収差補正対応レンズについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

フランジバックの調整

ズーム操作の際に望遠・広角の両方でフォーカスがきちんと合わない場合は、フランジバック（レンズ取り付け面から結像面までの距離）の調整を行います。

一度調整すれば、レンズを交換しない限り再調整の必要はありません。

調整を行うときは、付属のフランジバック調整用チャートを被写体として使用してください。



ご注意

- コントラストの不鮮明な被写体を使用したり、調整中に本機や被写体を動かすと、調整がエラーになりますので、ご注意ください。

- テレ端では画面中央になるように被写体（フランジバック調整用チャート）を置いてください。ワイド端では被写体よりもカムコーダーとの距離が近いものが画面内に入らないようにしてください。

調整する

オートフォーカスレンズを使用する場合

PMW-320Kに付属のレンズでは、自動的にズームとフォーカスを操作してフランジバックを調整します。

1. **絞りを開き、付属のフランジバック調整用チャートを約3m離れた位置に置き、適正な映像出力が得られるように照明する。**
2. **ZOOMスイッチをSERVO側にする（電動ズームモード）。**
3. **フランジバック調整ボタンを3秒間押し続ける。**
   フランジバック調整が始まります。

   調整中は
   ビューファインダーには、メッセージ「AUTO Adjust EXECUTING」が表示されます。

   調整が正常に終了すると
   ビューファインダーのメッセージが「Auto FB Adjust: OK」に変わります。

   フランジバック調整が正しく行われなかった場合は
   被写体や照明の状態を確認して、調整をもう一度やり直してください。

オートフォーカスレンズ以外のレンズを使用する場合

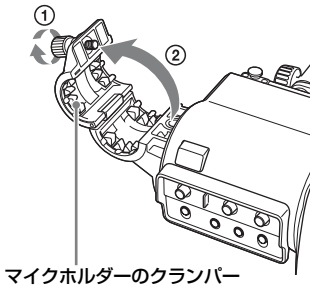
1. **レンズの絞りを手動にする。**
2. **絞りを開き、付属のフランジバック調整用チャートを約3m離れた位置に置き、適正な映像出力が得られるように照明する。**
3. **F.fまたはF.B（フランジバック調整）リング固定ネジをゆるめる。**
4. **手動または電動でズームリングを望遠位置にする。**
5. **フランジバック調整用チャートを写し、フォーカスリングを回して焦点を合わせる。**
6. **ズームリングを広角位置にする。**
7. **F.fまたはF.Bリングを回し、チャートに焦点を合わせる。このときフォーカスリングは動かさないように注意する。**
8. **望遠と広角の両方で焦点が合うようになるまで、手順4〜7の操作を繰り返す。**
9. **F.fまたはF.Bリング固定ネジをしっかり締める。**

音声入力の準備

MIC IN端子にマイクロホンを接続する

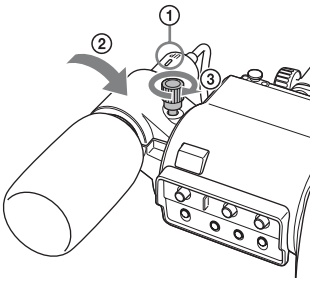
付属のビューファインダーのマイクホルダーに付属のステレオマイクロホンを取り付けます。

1 ネジをゆるめて（①）マイクホルダーのクランパーを開く（②）。

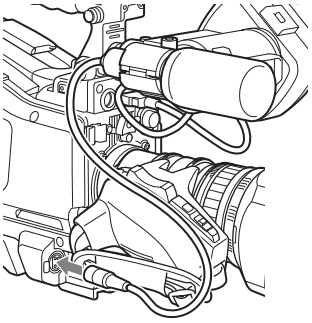


2 マイクロホンをマイクホルダーに取り付ける。

①「UP」の文字を上に向けてマイクを入れる。
②マイクホルダーを閉める。
③ネジを締める。



3 マイクケーブルをMIC IN端子に接続し、このマイクロホンの音声を記録したいチャンネルのAUDIO IN CH1/CH2/CH3/CH4スイッチをFRONTに設定する。



4 マイクケーブルをケーブルクランプに固定する。

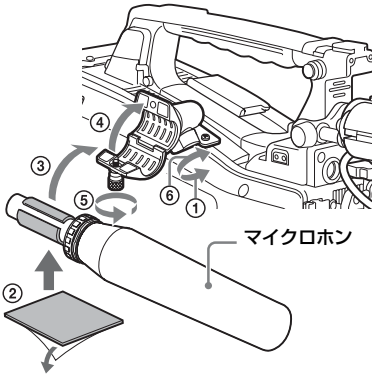
AUDIO IN端子にマイクロホンを接続する

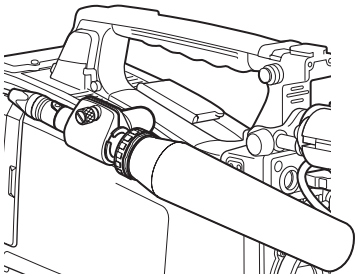
マイクホルダー CAC-12（別売）でAUDIO IN CH1/CH2端子に、モノラルのマイクロホンを2本まで接続できます。
ここでは、エレクトレットコンデンサーマイクロホンECM-674/678などを取り付けるときの例を説明します。

◆CAC-12の取り付けかたについて詳しくは、CAC-12の取扱説明書をご覧ください。

1 エレクトレットコンデンサーマイクロホンを取り付ける。

①ボールジョイント固定レバーをゆるめておく。
②マイクスペーサー（シートタイプ、マイクロホンに付属）を、両面に貼ってある保護シートをはがしてからマイクロホンに巻く。
③「UP」の文字を上に向けてマイクを入れる。
④マイクホルダーを閉める。
⑤ネジを締める。
⑥マイクロホンがビューファインダーと干渉しない位置でボールジョイント固定レバーを締める。

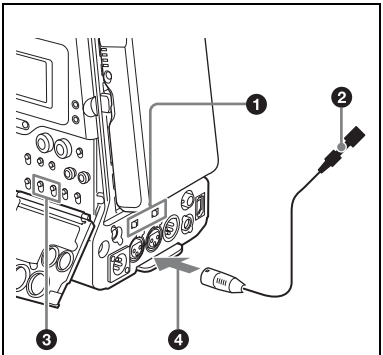




2 マイクケーブルを本機のAUDIO IN CH1またはCH2端子に接続する。

3 スイッチを以下のように設定する。

- 使用するマイクロホンによって、AUDIO IN入力切り換えスイッチを、以下のように設定する。
  内部電源供給式マイクロホンを使用する場合：MIC
  外部電源供給式マイクロホンを使用する場合：+48V
- マイクロホンを接続したチャンネルに該当するAUDIO IN CH1/CH2スイッチをREARに設定する。



❶AUDIO IN切り換えスイッチ
❷モノラルマイク
❸AUDIO IN CH1/CH2スイッチ
❹AUDIO IN CH1またはCH2端子へ

4 使用するマイクロホンの感度に合わせて、入力レベルを切り換える。

◆ 入力レベルの切り換えは、メニューのMAINTENANCE >Audio >Rear MIC > CH1/CH2 Refの設定値（工場出荷時は−60dB）を変更することによって行います。詳しくは、128 ページをご覧ください。

ご注意

- マイクロホンの感度に対して本機の入力レベルが適切に設定されていない場合、音が大きく歪んだり、SN比が悪化することがあります。
- 本機のAUDIO IN CH1またはCH2端子は、ファンタム方式の48V電源を供給できるようにするため、凹のXLRコネクター（3ピン）を装備しています。マイクケーブルのコネクターが凹の場合は、変換アダプターをご用意ください。
- マイクホルダー CAC-12をはずす場合は、取り付けに使ったネジ（手順1ではずしたネジ）を元の位置に必ず取り付けてください。

UHFポータブルチューナーを取り付ける（UHFワイヤレスマイクロホン使用時）

ソニー UHFワイヤレスマイクロホンシステムを使用するときは、本機の電源をオフに

してから次のいずれかのUHFポータブルチューナーを取り付けます。

- デジタルワイヤレスレシーバー DWR-S01D
- UHFシンセサイザーチューナーユニット WRR-855S
- UHFシンセサイザーダイバーシティーチューナー WRR-860A/861/862

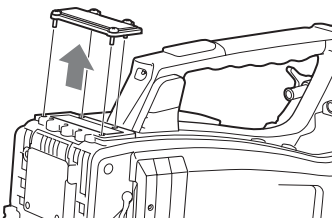
◆UHFポータブルチューナーの取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意

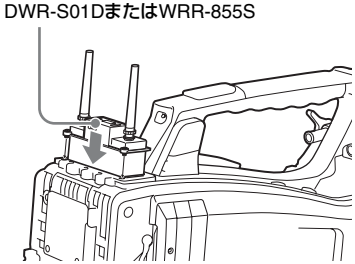
WRR-862を取り付けるには、別売のWRR取り付け金具（サービスパーツ番号：A-8278-057-B）が必要です。
詳しくは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

DWR-S01D/WRR-855Sを取り付けるには

1 **挿入口のカバーを固定している4本のネジをゆるめ、カバーを取りはずす。**



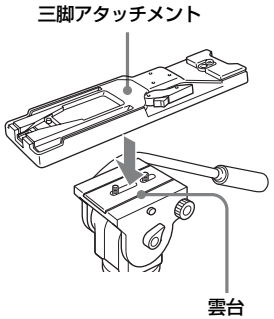
2 **DWR-S01DまたはWRR-855Sを挿入し、4本のネジを締めて固定する。**



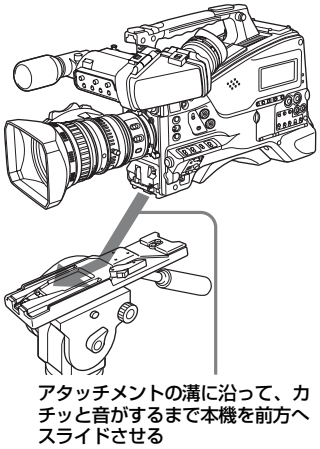
3 **入力したいチャンネルのAUDIO INスイッチ（26ページ参照）をWIRELESSに設定する。**

三脚への取り付け

1 三脚アタッチメントVCT-14/U14（別売）を雲台に取り付ける。

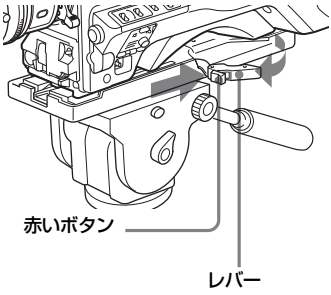


2 本機を三脚アタッチメントに取り付ける。



三脚アタッチメントから本機を取りはずすには

赤いボタンを押したまま、レバーを矢印の方向へ動かします。



ご注意

本機を取りはずした後、三脚アタッチメントのピンが元の位置に戻らないときは、赤いボタンを押したままレバーを矢印の方向へ動かして、ピンを元の位置に戻します。ピンが残ったままでは、取り付けができません。

ビデオライトの接続

本機には、アントンバウアー社製のウルトラライト2または同等品のビデオライト（電源電圧12V、最大消費電力50W）を取り付けて使用できます。

- ビデオライトのコネクターを本機のLIGHT端子に接続した場合は、LIGHTスイッチをAUTO側に設定すると、本機のスタート／ストップに連動して、ライトを点灯／消灯できます。
- 本機のLIGHT端子は、入力電圧（DC入力またはバッテリー電圧）が12V以上の場合は12Vに安定化されるため、バッテリー電圧の変化によってライトの明るさや色温度が変化することはありません。

ご注意

- 消費電力が50Wより大きいビデオライトを接続しないでください。
- 入力電圧（DC入力またはバッテリー電圧）が12V以下になった場合は、入力電圧の変化によってライトの明るさや色温度が変化します。

ビデオライトを取り付けるには

ビデオライトを取っ手のアクセサリーシューに取り付け、ビデオライトコネクターをLIGHT端子に接続します。

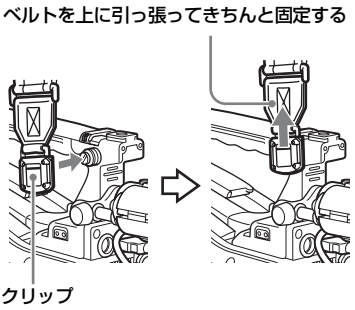
ご注意

アクセサリーシューは$^1/_4$型ネジタイプです。スライドシュータイプに変更する場合は、本機に付属のコールドシューキットを使用してください。取り付け方法については、「Manuals for Solid-State Memory Camcorder」のCD-ROMに収録されているSupplement（サプリメント）の「外部ハードディスクを使う」をご覧ください。

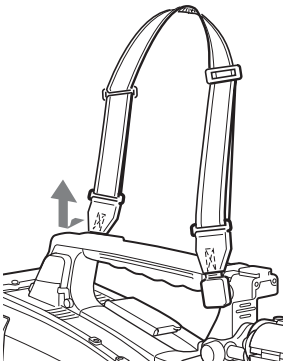
ショルダーベルトの取り付け

ショルダーベルトを取り付けるには

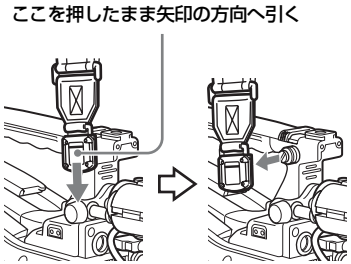
1 **片方のクリップをショルダーベルト取り付け金具に取り付ける。**



2 **同様にもう一方のクリップを、反対側のショルダーベルト取り付け金具に取り付ける。**

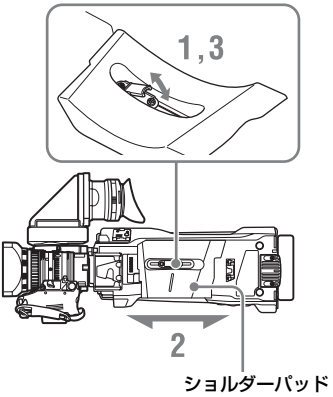


ショルダーベルトを取りはずすには



ショルダーパッドの位置調整

ショルダーパッドは、前後に40mmの範囲でスライドさせることができます。本機を肩にのせた状態で操作しやすくなるように、ショルダーパッドの位置を調整してください。



1 ショルダーパッドの中央のレバーを引き上げてロックをはずす。

2 前後方向にスライドして、適当な位置を選ぶ。

3 レバーを倒して固定する。

3章 撮影のための調整と設定

◆メニューの操作について詳しくは、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

ビデオフォーマットの設定

ビデオ解像度やシステム周波数の組み合わせによって、以下のビデオフォーマットの設定が可能です。

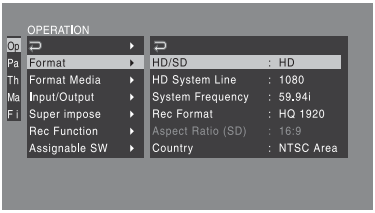
メニューの OPERATION >Format の設定項目				ビデオフォーマット（記録フォーマット／システム周波数）	フレームサイズ
HD/SD	System Line	Rec Format	System Frequency [a]		
HD	1080	HQ 1920	59.94i	HQ 1920/59.94i	1920×1080
			50i	HQ 1920/50i	
			29.97P	HQ 1920/29.97P	
			25P	HQ 1920/25P	
			23.98P	HQ 1920/23.98P	
		HQ 1440	59.94i	HQ 1440/59.94i	1440×1080
			50i	HQ 1440/50i	
			29.97P	HQ 1440/29.97P	
			25P	HQ 1440/25P	
			23.98P	HQ 1440/23.98P	
		SP 1440	59.94i	SP 1440/59.94i	
			50i	SP 1440/50i	
			23.98P [b]	SP 1440/23.98P	
	720	HQ 1280	59.94P	HQ 1280/59.94P	720×1280
			50P	HQ 1280/50P	
			29.97P	HQ 1280/29.97P	
			25P	HQ 1280/25P	
			23.98P	HQ 1280/23.98P	
SD	—	DVCAM	59.94i	DVCAM/59.94i	720×480
			50i	DVCAM/50i	720×576
			29.97P [c]	DVCAM/29.97P	720×480
			25P [c]	DVCAM/25P	720×576

a)**59.94i/29.97P/59.94P/23.98P**：メニューのOPERATION >Format >CountryがNTSC Area/NTSC(J) Areaに設定されているとき
50i/25P/50P：メニューのOPERATION >Format >CountryがPAL Areaに設定されているとき
b)2-3プルダウン変換された59.94iで記録される
c)PsFで記録される

ビデオフォーマットを変更する

前記の表を参照し、該当する項目の設定値を変更します。

1 **メニューのOPERATION >Formatを選択する（109ページ参照）。**



2 **MENUつまみを回して変更したい項目を選択し、つまみを押す。**

3 **MENUつまみを回して設定値を選択し、つまみを押す。**
確認のメッセージが表示されます。

4 **実行するには「Execute」を、中止するには「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。**

5 **HD/SDまたはCountryを変更したときは、本機の電源を入れ直す。**

ブラックバランス／ホワイトバランスの調整

本機を使用し、常に高画質の映像を得るためには、状況に応じたブラックバランスとホワイトバランスの調整が必要です。
本機で自動調整される調整値や各設定値は、本機のメモリーに記憶され、電源を切っても保持されます。

ブラックバランスの調整

次のような場合に調整が必要です。

- 本機を初めて使用するとき
- 長時間使用しなかった後に使用するとき
- 周囲の温度が大幅に変化した状況で使用するとき
- メニューのOPERATION >Gain SwitchでGAINスイッチ（L/M/H/Turbo）に設定しているゲイン値を変更したとき

通常は、電源を再び入れた場合でも調整し直す必要はありません。

ホワイトバランスの調整

照明条件が変わったときには、必ず調整し直してください。

ブラックバランスを調整する

ブラックバランスの自動調整は、ブラックセット、ブラックバランスの順に実行されます。ブラックバランスは、設定メニューの操作によって手動調整することもできます。

◆ブラックバランスの手動調整については、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

以下の場合は、ブラックバランスの自動調整ができません。

- 記録中

- 特殊記録モード（Picture Cache Rec、Interval Rec、Frame Rec、Slow & Quick）時
- シャッターモードがSLSモードの場合

1 OUTPUT/DCCスイッチをCAMにする。

2 AUTO W/B BALスイッチをBLACK側に押して、指を離す。

調整中は「Executing…」と表示され、「Done」に変われば終了です。
調整値は自動的にメモリーに記憶されます。

ご注意

- ブラックバランス調整中、絞りは自動的に遮光状態になります。
- ブラックバランス調整中、ゲイン切り換え回路が自動的に働き、ビューファインダー画面上にフリッカーが数回現れますが、故障ではありません。
- i.LINK出力中にブラックバランスを実行すると、i.LINK端子からの出力が一時的に停止します。ブラックバランスが終了するとi.LINK端子からの出力が再開されます。

ブラックバランスの自動調整ができないとき

ブラックバランスの調整が正常に終了しなかったときは、ビューファインダー画面に約3秒間エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーメッセージは次のとおりです。

エラーメッセージ	意味
NG: Iris Not Closed	レンズの絞りが閉らなかったため、調整できなかった。
NG: Timeout	規定された調整回数以内で調整が終了しなかった。
NG: Out of Range	現在値と基準値の差が大きく、調整範囲を超えていたため、調整できなかった。

上記のエラーメッセージが表示されたら、再度ブラックバランスの調整を試みてください。

繰り返し調整を試みてもエラーメッセージが表示されるときは、内部点検をする必要があります。

◆内部点検については、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

ご注意

レンズの接続ケーブルがLENS端子にしっかり接続されていないと、レンズの絞りが遮光状態にならず、ブラックバランスはエラーになります。

ホワイトバランスを調整する

1 以下のようにスイッチを設定する。

- GAINスイッチ：L（できるだけ小さいゲイン値に設定）
- OUTPUT/DCCスイッチ：CAM
- WHITE BALスイッチ：AまたはB a)

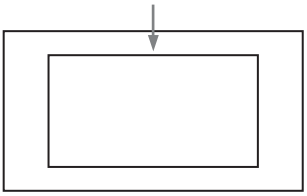
a)メモリー Bに設定値が記憶されるのは、メニューのOPERATION >White Setting >White Switch<B>がMemoryに設定されているときのみです。

2 照明条件に合わせて、FILTERつまみの設定を切り換える。

3 被写体の照明光源と同じ条件のところにホワイトパターンを置き、ズームアップして画面に白を映す。

被写体の近くの白いもの(白布、白壁)で代用することもできます。
最小限必要な白の面積は、図のとおりです。

画面センターを中心とする長方形
各辺の長さは、画面の高さ、または幅の70%



ご注意

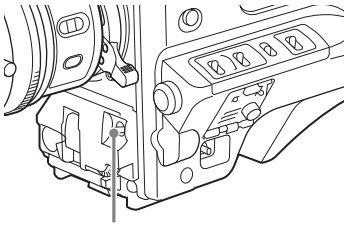
長方形内に高輝度スポットを入れないようにしてください。

4 レンズの絞りを調整する。

手動調整レンズの場合：絞りを適正値に合わせる。

自動絞り調整機能付きレンズの場合：レンズ側の絞り自動／手動切換スイッチを自動に設定する。

5 **AUTO W/B BALスイッチをWHITE側に押して、指を離す。**



AUTO W/B BALスイッチ

調整中は「Executing…」と表示され、「OK: （被写体の色温度）」と表示されれば終了です。
調整値は、手順1で選択したメモリー (AまたはB)に自動的に記憶されます。

ご注意

自動絞り機能付きズームレンズを使用した場合、絞りがハンチング [1] を起こすことがあります。このような場合は、レンズに付いている絞りのゲインつまみ（IG、IS、Sなどと表示されている）を調整してください。

◆詳しくは、レンズの取扱説明書をご覧ください。

1)**ハンチング**：オートアイリスの応答を繰り返し、映像が暗くなったり明るくなったりすること。

ホワイトバランスの自動調整ができないときは

ホワイトバランスの調整が正常に終了しなかったときは、ビューファインダー画面に約3秒間エラーメッセージが表示されます。表示されるエラーメッセージは次のとおりです。

エラーメッセージ	意味
NG: Low Light	白の映像レベルが低すぎる。レンズの絞りを開けるか、ゲインを上げる。
NG: Timeout	規定された調整回数以内で調整が終了しなかった。
NG: High Light	白の映像レベルが高すぎる。レンズを絞るか、NDフィルターを変える。

エラーメッセージが表示されたら、再度ホワイトバランスの調整を試みてください。繰り返し調整を試みてもエラーメッセージが表示されるときは、内部点検をする必要があります。

◆内部点検については、メンテナンスマニュアルをご覧ください。

ホワイトバランスを調整する時間がないときは

WHITE BALスイッチをPRSTにします。
COLOR TEMP.ボタンを押すことにより、5600Kにホワイトバランスが自動的に調整されます。
COLOR TEMP.ボタンを押したときの色温度は、OPERATIONメニューのAssignable SWで3200K、4300K、5600K、または6300Kから選択することができます。また、ASSIGN.1/3スイッチまたはASSIGNABLE 4/5スイッチに各色温度を割り当てることもできます。

NDフィルターの切り換えに合わせて色温度を変更するには

電気的CC（色補正）フィルターをNDフィルター（20ページ参照）に割り当てることによって、NDフィルターの切り換えに合わせて色温度を変更することができます。

1 **メニューのMAINTENANCE >White Filter >ND Filter C.TempをOnに設定する（132ページ参照）。**

2 **電気的CCフィルターをFILTERつまみのポジション番号1に割り当てるときはND FLT C.Temp<1>を、ポジ**

ション番号2～4に割り当てるときは ND FLT C.Temp<2-4>を選択する。

3 MENUつまみを回して希望の色温度を選択する。
3200K ↔ 4300K ↔ 5600K ↔ 6300Kと切り替わります。

4 必要に応じて、手順2と3を繰り返す。

電気的CCフィルターをアサイナブルスイッチで切り換えるには

電気的CCフィルターの切り換え機能をアサイナブルスイッチに割り当てることによって、アサイナブルスイッチを押すたびに最大で4つのポジション（A～D）に設定された色温度（3200K/4300K/5600K/6300K）を切り換えることができます。
また、アサイナブルスイッチへの機能割り当てにかかわらず、リモートコントロールユニットRM-B150/B750から各ポジションに設定された色温度を切り換えることもできます。

1 メニューのMAINTENANCE >White Filterを選択する（132ページ参照）。

2 CCフィルターを設定したいポジションElectrical CC<A>～<D>を選択し、MENUつまみを回して希望の色温度を選択する。
3200K ↔ 4300K ↔ 5600K ↔ 6300K と切り替わります。

色温度を設定しないときは
Electrical CC<C>、<D>の設定時に「-----」を選択します。
アサイナブルスイッチを押しても、そのポジションの設定は表示されません。たとえば、1つのポジションに「-----」を設定したときは、3つのポジションの切り換えになります。

3 必要に応じて、手順2を繰り返す。

4 アサイナブルスイッチに電気的CCフィルターの切り換え機能（ELECTRICAL CC）を割り当てる（138ページ参照）。

ホワイトバランスのメモリーについて

メモリーに記憶された値は、本機の電源を切った状態でも、再度ホワイトバランスを調整するまで保存されます。
ホワイトバランスのメモリーは、A、Bの2系統があり、WHITE BALスイッチの設定（AまたはB）に対応するメモリーに、NDフィルターごとの調整値を自動的に記憶させることができます。本機は4つのNDフィルターを内蔵しているので、合計8個（4×2）の調整値を記憶できます。ただし、次の場合、メモリーの内容はNDフィルターに連動しません。

- メニューのOPERATION >White Setting >Filter White MemoryをOffに設定することによって、A、B両系統のメモリー数を1個に限定したとき
- 電気的CCフィルター切り換え機能がアサイナブルスイッチに割り当てられているとき、またはリモートコントロールユニット接続時（この場合、メモリーの内容は電気的CCフィルターのポジション（A～D）に連動します。）

また、メニューのOPERATION >White Setting >White Switch<B>をATWに設定すると、WHITE BALスイッチがBの位置でATW（自動追尾ホワイトバランス）が動作し、照明条件の変化に応じて画像のホワイトバランスが自動追従します。

電子シャッターの設定

シャッターモードについて

本機の電子シャッターで使用できるシャッターモードと、選択できるシャッタースピードは次のとおりです。

標準モード

動きの速い被写体を鮮明に撮影したい場合などに使用します。
秒数でシャッター速度を設定するSpeed（スピード）モードと開角度でシャッター速度を設定するAngle（角度）モードを選択できます。

Speedモード

システム周波数	シャッタースピード（単位：秒）
59.94i 59.94P 50i 50P	1/60、1/100、1/120、1/125、1/250、1/500、1/1000、1/2000
29.97P	1/40 a)、1/50 a)、1/60、1/100、1/120、1/125、1/250、1/500、1/1000、1/2000
25P	1/33 a)、1/50 a)、1/60、1/100、1/120、1/125、1/250、1/500、1/1000、1/2000
23.98P	1/32 a)、1/48 a)、1/50 a)、1/60、1/96、1/100、1/120、1/125、1/250、1/500、1/1000、1/2000

a)スロー&クイックモーション撮影時、メニューのOPERATION >Rec Function >Frame Rateをシステム周波数より大きい値に設定している場合は選択できません。

Angleモード

180°、90°、45°、22.5°、11.25°

ECS（拡張クリアスキャン）モード

モニター画面を、水平方向の縞模様が出ないように走査したい場合などに使用します。設定可能なシャッタースピードの範囲は、スロー&クイックモーション（S&Q）機能のオフ／オンによって、次表のように変わります。

システムライン：1080

システム周波数	シャッタースピード（単位：Hz）	
	S&Q：オフ	S&Q：オン
59.94i	60.00～3800	—
50i	50.00～3500	—
29.97P	29.99～4100	32.01～4100
23.98P	23.99～3700	32.02～3700
25P	25.00～3900	32.03～3900

システムライン：720

システム周波数	シャッタースピード（単位：Hz）	
	S&Q：オフ	S&Q：オン
59.94P	60.07～4100	32.01～4100
50P	50.03～3900	32.03～3900
29.97P	29.99～4100	32.01～4100
23.98P	23.99～3700	32.02～3700
25P	25.00～3900	32.03～3900

SLS（スロースピードシャッター）モード

低照度の被写体を撮影したいときに使用します。

蓄積フレーム数
2、3、4、5、6、7、8、16、32、64

ご注意

- ビデオフォーマットがSP 1440/23.98Pの場合や、スロー&クイックモーション撮影時は、SLSモードを使用することができません。
- 蓄積フレーム数が16、32、64の場合は、カラーバーを表示することができません。また、記録中にSLSモードをオン／オフしたり、蓄積フレーム数を変更することができません。

シャッターモード／シャッタースピードを設定する

ご注意

- 絞りが自動のときは、シャッタースピードが速くなるにつれ、絞りが開き、被写界深度も浅くなります。
- 選択できるシャッタースピードは、設定されているシステム周波数によって異なります。

SpeedモードとAngleモードを切り換えるには

1 **メニューのOPERATION >Shutter Select >Shutter Selectを選択する（118ページ参照）。**

2 **MENUつまみを回して、SecondまたはDegreeを選択し、つまみを押す。**

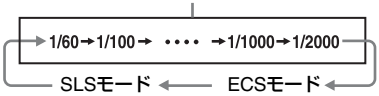
シャッターモードおよびシャッタースピード（標準モード）を設定するには

一度選択したシャッタースピードは、本機の電源を切った状態でも保持されます。

1 **SHUTTERスイッチを、ONの位置からSELECT側に押す。**
シャッターの現在の設定が約3秒間表示されます。

2 **手順1の表示が消える前に、もう一度SHUTTERスイッチをSELECT側に押す。希望のモードまたはスピードが表示されるまで、この操作を繰り返す。**
すべてのモードとスピードが表示される場合は、以下の順序で表示が切り替わります。

Speedモード（システム周波数：59.94iの場合）の表示例



ご注意

スロー&クイックモーションモード時のフレームレートの設定によっては（86ページ参照）、特定のシャッタースピードが選択できなくなることがあります。選択できないシャッタースピードは、選択可能な最も遅いシャッタースピードに置き換わります。

例：HQ 1280/29.97P、フレームレート60でスロー&クイックモーション撮影を行う場合
シャッタースピードは次のように表示されます。
スロー&クイックモーションモード：オフ
1/40→1/50→1/60→1/100→...

スロー&クイックモーションモード：オン
1/60→1/60→1/60→1/100→...

シャッタースピード（ECSモード／SLSモード）を設定するには

1 **シャッターモードをECSまたはSLSに設定する（前項参照）。**

2 **MENUつまみを回して、希望の周波数またはフレーム数を表示させる。**

オートアイリスの設定

逆光の被写体を適正な明るさで撮るときや、スポットライトが当てられた被写体の白つぶれなどを防ぐときなど、被写体の照明条件によってはオートアイリスの設定を変更する必要があります。レンズ絞りの基準値は、標準値に対して次の範囲に設定できます。

- 0.25～1（0.25刻み）：約0.25～1絞り分開きぎみになる。
- －0.25～－1（0.25刻み）：約0.25～1絞り分閉じぎみになる。

また、オートアイリスの対象となる範囲を設定しておくこともできます。

基準値を変更するには

1 メニューのOPERATION >Auto Iris >Iris OverrideをOnに設定する（117ページ参照）。

2 MENU ON/OFFスイッチをOFFにする。

3 MENUつまみを回して基準値を変更する。

ご注意

このとき、シャッターモードがECS以外のモードになっていることを確認してください。

現在の基準値は、ビューファインダー画面のアイリスポジション表示（37ページ参照）位置に表示されるインジケーターで確認することができます。

絞りを開きぎみにする場合

MENUつまみを本機正面から見て反時計方向に回します。

0.25、0.5、0.75、1のいずれかに設定します。

絞りを閉じぎみにする場合

MENUつまみを本機正面から見て時計方向に回します。

－0.25、－0.5、－0.75、－1のいずれかに設定します。

変更した基準値は電源を切るまで保持されます。基準値を変更しても、電源を入れるたびに標準値に戻ります。

オートアイリス検出ウィンドウを設定するには

1 メニューのOPERATION >Auto Iris >Iris Window IndicationをOnに設定する。

ビューファインダー画面上に現在選択されているオートアイリスウィンドウが表示されます。

オートアイリスウィンドウを常に表示しておく必要がない場合は、Offに設定します。

2 MENUつまみを回してIris Windowを選択し、つまみを押す。

3 MENUつまみを回して希望のオートアイリスウィンドウを選択し、つまみを押す。

図の網かけ部で光を検出する

Varを選ぶと、次表の項目が有効となり、希望の大きさのウィンドウを作成できます。メニューのMAINTENANCE >Auto Iris2の以下の項目を設定してください。

項目	設定
Iris Var Width	ウィンドウの幅
Iris Var Height	ウィンドウの高さ
Iris Var H Pos	ウィンドウの横方向の位置
Iris Var V Pos.	ウィンドウの縦方向の位置

メニューを終了すると、手順3で選択したオートアイリスウィンドウが表示されます。

常に表示しておく必要がない場合は、メニューのOPERATION >Auto Iris >Iris Window Indicationの設定をOffに変更します。

高輝度の外乱による影響を軽減させるには

高輝度の画像が入ってきたためオートアイリスが閉じ過ぎて全体的に暗くなり過ぎ、白つぶれという状態になることがあります。このような場合は、ハイライトクリップ機能をONに設定すると、あるレベル以上のものにクリップをかけて、オートアイリスへの影響を低減することができます。
メニューのOPERATION >Auto Iris >Clip High LightをOnに設定します。

ズームを操作する

PMW-320Kでは、付属のレンズを装着して、手動または電動でズームを操作できます。

操作モードを切り換える

ZOOMスイッチを、SERVO（電動ズーム）またはMANU.（手動ズーム）に設定します。

手動でズームを操作する

ZOOMスイッチがMANU.に設定された状態で、ズームリングを回します。

電動でズームを操作する

ZOOMスイッチがSERVOに設定された状態で、電動ズームレバーを操作します。
ビューファインダーに現在のレンズズームの位置が0（広角端）～99（望遠端）の範囲で表示されます（34ページ参照）。
広角にしたいときW（ワイド）側を、望遠にしたいときT（テレ）側を押します。レバーを深く押すとズーム速度が早くなり、浅く押すと遅くなります。

フォーカスを調整する

PMW-320Kでは、付属のレンズを装着して、次の3つの方法でフォーカスを調整することができます。

Full MF（フルマニュアルフォーカス）モード

フォーカスリングによるフォーカス合わせのみ有効なモードです。
∞～最短撮影距離までリングを持ち直さずに回してフォーカス合わせが可能です。

MF（マニュアルフォーカス）モード

PUSH AFボタンを押した時のみ一時的にオートフォーカスが起動するモードです。
MFアシスト機能も使用できます。

AF（オートフォーカス）モード

常にオートフォーカスが働くモードです。
フォーカスリングおよびPUSH AFボタンも有効です。

ご注意

温度変化によるフォーカスの移動を補正するため、無限遠（∞）位置には余裕を持たせています。無限遠の被写体をMFまたはFull MFモードで撮影する場合は、ビューファインダーで確認しながらフォーカスを合わせてください。

Full MFモードで調整する

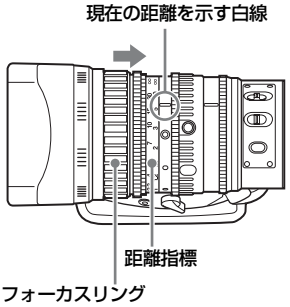
フォーカスリングを後方（本体側）に引くと常にマニュアルでフォーカスを合わせるFull MFモードになります。

ご注意

フォーカスリングを後方にスライドさせると、フォーカスが目盛の位置に瞬時に移動します。

ビューファインダーを見ながら、フォーカスリングを回してフォーカスを合わせます。

Full MFモードでは、リングの距離指標が有効です。フォーカスの合う距離はフォーカスリングの絶対位置に対応します。



ピーキング

ビューファインダーのPEAKINGつまみを回すと、ピーキング機能が働いて、モニター画像の輪郭が強調され、マニュアルでのフォーカス調整が容易になります。
記録される映像信号には影響しません。

MFモードで調整する

フォーカスリングを前方（レンズフード側）にスライドさせ、FOCUSスイッチをM（マニュアル）にすると、必要なときのみオートフォーカスを働かせることができるMFモードになります。

フォーカスリングを使う

ビューファインダーの画像を見ながら、フォーカスリングを回してフォーカスを合わせます。
MFモードでは、リングの距離指標は無効となります。

ワンプッシュオートフォーカス

PUSH AFボタンを押します。一時的にオートフォーカスが起動します（ワンプッシュオートフォーカス）。

ワンプッシュオートフォーカスは、フォーカスが合った時点で終了します。

MFアシスト機能

MFアシスト機能をONにしておくと、フォーカスリングでのフォーカス合わせを止めた時点でオートフォーカスが起動し、画面中央部の被写体に対してフォーカスの微調整（フォーカスの追い込み）を行います。
微調整が終了した時点でMFアシストによるオートフォーカス動作は終了します。

AFモードで調整する

フォーカスリングを前方にスライドさせ、FOCUSスイッチをA（オート）にすると、常にオートフォーカスを働かせることができるAFモードになります。
AFモードでは、リングの距離指標は無効となります。

AFモードでフォーカスを合わせる

AFモードでは、映像の変化を常に観測し、変化があったと判断するたびにオートフォーカスを起動します。フォーカスが合った時点でフォーカス動作を終了して、また映像に変化があるまで待機します。
AFモードでは、PUSH AFボタンを押したり、フォーカスリングを操作した場合も、直後にオートフォーカスが起動します。

マクロモードを使う

フォーカス調整モードがMFまたはAFのときは、MACROスイッチをON側にするとマクロモードになり、マクロ領域を含めた範囲でのフォーカス操作が可能になります。
マクロモードは、Full MFモードでは無効になります。

音声レベルの調整

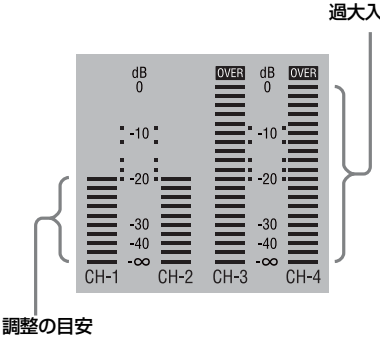
AUDIO SELECTスイッチをAUTOにすると、各チャンネルに記録されるアナログ音声信号の入力レベルは自動的に調整されます。
また、手動で調整することもできます。

ご注意

AUDIO SELECTスイッチをAUTOにしても、デジタル音声信号の入力レベルは自動調整されません。

手動調整時の音声レベルの目安

−20 dBを目安に調整します。
音声レベルメーターが0 dBまで表示されるときは、入力音量が過大です。



AUDIO IN CH1/CH2端子からの音声レベルを手動調整する

1 **AUDIO IN CH1/CH2端子への入力信号を記録、調整したいチャンネルに相当するAUDIO IN CH1/CH2スイッチをREARにする。**

1、2チャンネルとも記録、調整する場合は、両方のAUDIO IN CH1/CH2スイッチをREARにする。

2 **手順1で選んだチャンネルのAUDIO SELECTスイッチをMANUALにする。**

3 手順1で選んだチャンネルのLEVELつまみで、通常の入力音量のときの音声レベルメーターが−20 dBまで表示されるように調整する。

記録レベル調整とつまみの対応について

メニューのMAINTENANCE >Audioで、AUDIO IN CH1/CH2端子に入力される音声の記録レベルの調整をどのつまみで行うか、選択することができます。各メニュー項目の設定値とつまみの対応は以下のとおりです。

Rear1/WRR Level：チャンネル1の記録レベル

設定値	つまみ
Side1	LEVEL（CH1）つまみ
Front	MIC LEVELつまみ
Front+Side1	LEVEL（CH1）つまみとMIC LEVELつまみの連動

Rear2/WRR Level：チャンネル2の記録レベル

設定値	つまみ
Side2	LEVEL（CH2）つまみ
Front	MIC LEVELつまみ
Front+Side2	LEVEL（CH2）つまみとMIC LEVELつまみの連動

ご注意

LEVEL（CH-1/CH-2）つまみとMIC LEVELつまみの連動を選択した場合、MIC LEVELつまみが「0」に絞られているとチャンネル1、2の音声を記録できません。MIC LEVELつまみの位置を確認してから、LEVEL（CH-1/CH-2）つまみで調整してください。

MIC IN端子からの音声レベルを手動調整する

1 使用するチャンネルのAUDIO INスイッチをFRONTに設定する。

2 手順1で選んだチャンネルのAUDIO SELECTスイッチをMANUALに設定する。

3 MIC LEVELつまみを回して、通常の入力音量のとき音声レベルメーターが−20 dBまで表示されるように調整する。

記録レベル調整とつまみの対応について

メニューのMAINTENANCE >Audioで、フロントマイクから入力する音声の記録レベルの調整をどのつまみに割り当てるかを設定できます。各メニュー項目の設定値とつまみの対応は以下のとおりです。

MIC CH1 Level：チャンネル1の記録レベル

設定値	つまみ
Side1	LEVEL（CH1）つまみ
Front	MIC LEVELつまみ
Front+Side1	LEVEL（CH1）つまみとMIC LEVELつまみの連動

MIC CH2 Level：チャンネル2の記録レベル

設定値	つまみ
Side2	LEVEL（CH2）つまみ
Front	MIC LEVELつまみ
Front+Side2	LEVEL（CH2）つまみとMIC LEVELつまみの連動

ご注意

MIC LEVELつまみとLEVEL（CH-1/CH-2）つまみの連動を選択した場合、LEVEL（CH1/CH-2）つまみが「0」に絞られているとチャンネル1、2の音声が記録できません。LEVEL（CH-1/CH-2）つまみの位置を確認してから、MIC LEVELつまみで調整してください。

チャンネル3、4への音声の記録について

記録音声の選択について

音声チャンネル3、4に記録される音声は、AUIDO IN CH 3/CH4スイッチで選ぶことができます。

CH3 スイッチ	チャンネル 3 の記録対象
FRONT	フロントマイクロホンの音声
REAR	AUDIO IN CH1端子に入力される音声信号
WIRELESS	ワイヤレスマイクロホンの音声

CH4 スイッチ	チャンネル 4 の記録対象
FRONT	フロントマイクロホンの音声
REAR	AUDIO IN CH2端子に入力される音声信号
WIRELESS	ワイヤレスマイクロホンの音声

また、以下のように自動で選択されるようにすることもできます。

チャンネル1、2と同じ音声が自動で選択されるようにするには

メニューのMAINTENANCE >Audio >Audio CH3/4 ModeをCh1/2に設定します。

記録音声レベルを調整するには

自動調整するには

AUDIO SELECT CH 3-4スイッチをAUTOにします。

手動調整するには

1 AUDIO SELECT CH 3-4スイッチをMANUALにする。

2 レベル調整を行うつまみを、MAINTENANCEメニューのAudioのAudio CH3 LevelおよびAudio CH4 Levelで選択する。

Audio CH3 Level：チャンネル3の記録レベル

設定値	つまみ
Side3	LEVEL（CH3）つまみ
Front	MIC LEVELつまみ
Front+Side3	LEVEL（CH3）つまみとMIC LEVELつまみの連動

Audio CH4 Level：チャンネル4の記録レベル

設定値	つまみ
Side4	LEVEL（CH4）つまみ
Front	MIC LEVELつまみ
Front+Side4	LEVEL（CH4）つまみとMIC LEVELつまみの連動

音声チャンネル3、4の音声レベルが、ここで選択したつまみで調整できるようになります。

タイムデータの設定

ご注意

ピクチャーキャッシュモードが有効なときは、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにしてもタイムデータの設定を行うことはできません。タイムデータを設定する場合は、ピクチャーキャッシュモードをオフにしてください。

タイムコードを設定する

タイムコードの設定可能範囲は、00:00:00:00～23:59:59:29（時：分：秒：フレーム）です。

1 **DISPLAYスイッチをTCにする。**

2 **PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをPRESETにする。**

3 **F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにする。**
タイムコードの最上桁が点滅します。

4 **上下矢印ボタンで数値を変更し、左右矢印ボタンで桁を移動して、すべての桁を設定する。**

数値を00:00:00:00にリセットするには
RESET/RETURNボタンを押します。

5 **希望の数値に設定した後、F-RUN/SET/R-RUNスイッチを切り換える。**
F-RUN：タイムコードは常に歩進する
R-RUN：タイムコードは記録時に歩進する

DF/NDFの切り換えについて

メニューのMAINTENANCE >Timecodeで、DF（ドロップフレームモード）/NDF（ノンドロップフレームモード）を切り換えることができます。

タイムコードを連続させるには

F-RUN/SET/R-RUNスイッチがR-RUNに設定されているときは、タイムコードは連続して記録されます。ただし、途中でメディアを交換して記録を行うと、再び元のメディアを入れてもタイムコードは連続しません。
このようなときは、PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをREGENにするとタイムコードを連続させることができます。

タイムコードに実時刻を入れるには

PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをCLOCKにすると、タイムコードに実時刻が入ります。実時刻の設定が必要な場合は、メニューのMAINTENANCE >Clock Set >Date/Timeを使用します。

◆詳しくは、「内蔵時計の日付と時刻の設定」（46ページ）をご覧ください。

ユーザービットを設定する

ユーザービットを設定することにより、16進数8桁までのメモ（日付、時刻、シーン番号）などの情報をタイムコードトラックに記録することができます。

1 **DISPLAYスイッチをU-BITにする。**

2 **F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにする。**
ユーザービットの最上桁が点滅します。

3 **上下矢印ボタンで数値を変更し、左右矢印ボタンで桁を移動して、すべての桁を設定する。**

数値を00 00 00 00にリセットするには
RESET/RETURNボタンを押します。

4 **希望の数値に設定した後、F-RUN/SET/R-RUNスイッチを希望のタイムコードの歩進モードに応じてF-RUNまたはR-RUNにする。**

ユーザービットのメモリー機能について

ユーザービットの設定内容（実時刻以外）は自動的にメモリーに記憶され、電源を切った後も保持されます。

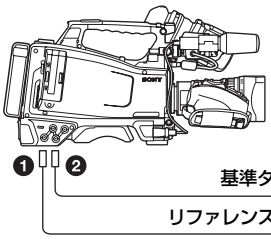
タイムコードを外部ロックさせる

本機の内部タイムコードジェネレーターを外部ジェネレーターにロックさせることができます。また、外部VTRのタイムコードジェネレーターを本機の内部ジェネレーターにロックさせることもできます。

接続例

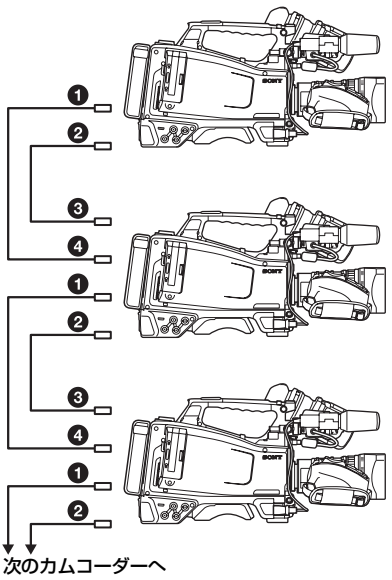
次図のように、リファレンスビデオ信号と基準タイムコードの両方を接続します。

例1：外部の信号にロックさせる場合



❶ GENLOCK IN端子
❷ TC IN端子

例2：本機を複数台接続し、1台をリファレンスとする場合



❶ VIDEO OUT端子
❷ TC OUT端子
❸ TC IN端子
❹ GENLOCK IN端子

タイムコードを外部ロックさせるには

1. POWERスイッチをONにする。
2. PRESET/REGEN/CLOCKスイッチをPRESETにする。
3. F-RUN/SET/R-RUNスイッチをF-RUNにする。
4. DISPLAYスイッチをTCにする。
5. SMPTEタイムコードの規格を満たした位相関係にある基準タイムコードとリファレンスビデオ信号を、TC IN端子とGENLOCK IN端子へそれぞれ入力する。

これで内部タイムコードジェネレーターは、基準タイムコードにロックします。ロックしてから約10秒経過した後は、外部からの基準タイムコードの接続をはずしても、外部ロック状態は保たれます。

ご注意

- 外部ロックの操作をすると、タイムコードは瞬時に外部のタイムコードにロックし、外部タイムコードの値と同じ値がカウンター表示部に表示されますが、シンクジェネレーターが安定するまでの数秒間は、記録を開始しないでください。
- リファレンスビデオ信号の周波数と本機のシステム周波数が一致しないと、正しくゲンロックできません。この場合、タイムコードも外部のタイムコードに正しくロックできません。

外部ロック時のユーザービットの設定について

タイムコードの外部ロック時は、タイムデータのみが外部からのタイムコードのタイムデータにロックされます。

外部ロックを解除するには

外部タイムコードの入力を停止してから、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをR-RUNに設定します。

外部ロック中に、電源をバッテリーパックから外部電源に切り換えるとき

タイムコードジェネレーターの電源の連続性を保つため、DC IN端子に外部電源をつないでから、バッテリーパックをはずしてください。バッテリーパックを先にはずしたときは、タイムコードの外部ロックの連続性は保証されません。

外部ロック中のカメラ部の外部ロックについて

外部ロック中、カメラ部はGENLOCK IN端子に入力されるリファレンスビデオ信号によってゲンロックがかかります。

各種設定や状態を確認する（ステータス画面）

ステータス画面では、本機の設定や状態を確認することができます。
ステータス画面は、次の5種類の画面で構成されています。

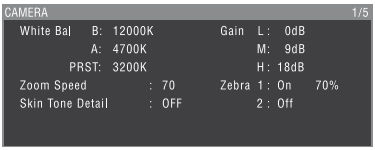
ステータス画面の種類	表示内容
カメラステータス	撮像に関する設定と状態
オーディオステータス	オーディオ入出力に関する設定と状態
ビデオステータス	記録・再生に関する設定と状態
アサイナブルスイッチステータス	アサイナブルスイッチに割り当てられている機能の名称
バッテリー／メディアステータス	装着されているバッテリーと記録メディアの状態

ステータス画面を表示するには

メニューが表示されていないとき、STATUS ON/SEL/OFFスイッチをON/SEL側に押し上げます。押し上げるごとに、ステータス画面が前表の順番に切り替わります。

カメラステータス画面

撮像に関する設定や状態を表示します。



White Bal：ホワイトバランスの状態
Gain：GAINスイッチの状態
Zoom Speed：レンズのZOOMボタンに設定されたズームスピード
Zebra：ゼブラの状態

Skin Tone Detail：スキントールディテールの状態

オーディオステータス画面

オーディオ入出力に関する設定や状態を表示します。

CH-1/CH-2/CH-3/CH-4：オーディオレベルメーターと入力ソース

Wind Filter：風音低減フィルター設定

ビデオステータス画面

記録・再生に関する設定や状態を表示します。

Video Format：ビデオフォーマット

Rec Mode：記録ビットレート（HDモードのみ）

Output&i.LINK：Output&i.LINK設定とi.LINK使用状況

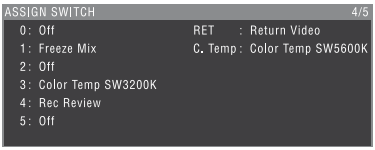
SDI Output：HD/SD SDI OUT端子の出力設定

HDMI Output：HDMI端子の出力設定

Down Converter：SD出力のダウンコンバーター設定（HDモードのみ）

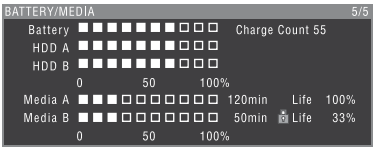
アサイナブルスイッチステータス画面

アサイナブルスイッチに割り当てられている機能の名称を表示します。



バッテリー／メディアステータス画面

装着されているバッテリーと記録メディアの状態を表示します。



Battery：バッテリーパック残量

Charge Count：充電繰り返し回数

HDD A/HDD B：PHU-60K/120K/120Rのバッテリー残量

Media A/Media B：

- メディアの残量
- 残記録可能時間
- メディアの書き換え寿命目安（Life）未使用のメディアでは「Life 100%」が表示される

4章 撮影

SxSメモリーカードの取り扱い

本機では、撮影した映像・音声を、カードスロット内のSxSメモリーカード（別売）に記録します。

なお、本機ではプロフェッショナルハードディスクユニットPHU-60K/120K/120RまたはメディアアダプターMEAD-MS01/SD01を使用して記録を行うこともできます。詳しくは、「Manuals for Solid-State Memory Camcorder」のCD-ROMに収録されているSupplement（サプリメント）をご覧ください。

SxSメモリーカードについて

本機で使用可能なSxSメモリーカード

本機では、ソニー製SxS PROまたはSxS-1メモリーカードをご使用ください。

SxS PRO

- SBP-8（8GB）
- SBP-16（16GB）
- SBP-32（32GB）

SxS-1

SBS-32G1（32GB）

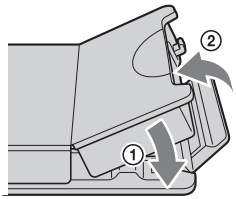
SxS PROまたはSxS-1以外のメモリーカードをご使用の場合、動作の保証はいたしかねます。

これらのメモリーカードは、ExpressCard規格に準拠したメモリーカードです。

- SxS、SxS PRO、およびSxS-1はソニー株式会社の商標です
- ExpressCardワードマークとロゴは、Personal Computer Memory Card International Association (PCMCIA) の所有であり、ソニーへライセンスされています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属します。

SxSメモリーカード使用上のご注意

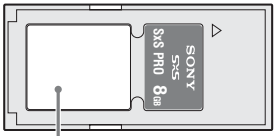
- 下記の場合、記録したデータが破壊（消滅）されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中、またはフォーマット中にSxSメモリーカードを抜いたり、振動、衝撃を与えたり、機器の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 以下のような場所でのご使用や保存はしないでください。
  - 使用条件範囲以外の場所
  - 炎天下や夏場の窓を閉め切った車の中／直射日光のあたる場所／熱器具の近くなど
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- ご使用の場合は、正しい挿入方向をご確認ください。
- SxSメモリーカードの保管時および携帯時は、専用ケースに入れて確実にロックしてください。



- SxSメモリーカードに保存しているデータは、万一の故障によるデータの損失に備えて、バックアップを取っておいてください。SxSメモリーカードに保存したデー

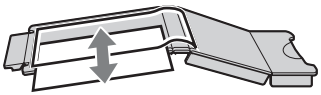
タの損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- ラベルシートの貼り付け部以外には専用ラベルシートを貼らないでください。専用ラベルシートを貼るときは、所定のラベルシート貼り付け部に、はみ出さないように貼ってください。



専用ラベルシート貼り付け部

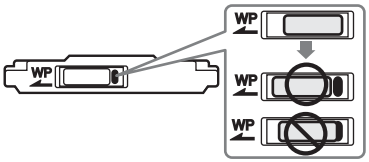
- 本機で使用するSxSメモリーカードは、本機のフォーマット機能を使用してフォーマットしてください。他の機器でフォーマットした場合は、異なるフォーマットとみなされ、本機で再度フォーマットする必要があります。
（本機の機能による「フォーマット」や「削除」では、カード内のデータは完全には消去されません。譲渡／廃棄の際は、市販のデータ消去専用ソフトを使用するか、カードを物理的に破壊するなどお客様の責任においてデータの処理をしてください。）
- メディア残量が少ないと、クリップを操作できないときがあります。そのような場合は、コンピューター で不要なファイルを削除してから再度操作を行ってください。
- 専用ケースカードの取り出し・再挿入の際は、専用ケースが完全に開いた状態で行ってください。



誤消去を防止する

SxSメモリーカードのライトプロテクトスイッチを「WP」側にすると、記録や編集、消去ができなくなります。

ライトプロテクトスイッチ



ご注意

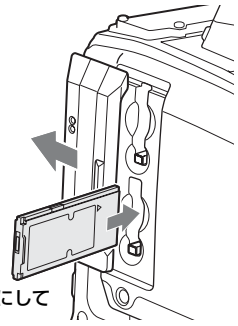
本機に挿入したままで、SxSメモリーカードのライトプロテクトスイッチを操作しないでください。本機から取り出してからスイッチを切り換えてください。

SxSメモリーカードを入れる／取り出す

SxSメモリーカードを入れる

1 カバーを左にスライドさせて開ける。

2 SxSメモリーカードをカードスロットに差し込む。



ラベルを右にして差し込む。

ACCESSランプがオレンジに点灯し、使用可能な状態になると緑で点灯します。

3 カバーを閉める。

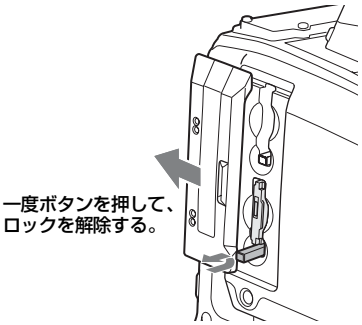
ACCESSランプによる状態表示

AとBのカードスロットの状態を示すために、それぞれにACCESSランプがあります。

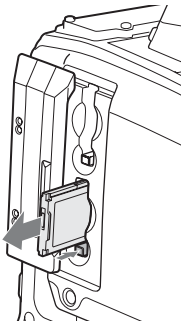
ランプ	スロットの状態
オレンジで点灯	装着されているSxSメモリーカードにアクセス中（データの書き込み／読み出し中）
緑で点灯	スタンバイ状態（装着されているSxSメモリーカードを使用して記録・再生を行います。）
消灯	• SxSメモリーカードが装着されていない。 • 使用できないカードが装着されている。 • SxSメモリーカードは装着されているが、別のスロットのカードが選択されている。

SxSメモリーカードを取り出す

1 カバーを開け、EJECTボタンを押してロックを解除してボタンを引き出す。



2 もう一度EJECTボタンを押し込んでカードを抜く。



ご注意

メモリーカードにアクセス中に本機の電源を切ったりメモリーカードを抜いた場合はデータは保証されません。カードに記録されたすべてのデータが壊れる可能性があります。電源を切ったり、カードを抜くときは、必ずACCESSランプが緑で点灯または消灯していることを確認してから操作してください。

使用するSxSメモリーカードを切り換える

カードスロットAとBの両方にSxSメモリーカードが装着されているときは、SLOT SELECTボタンを押して使用するカードを切り換えることができます。
記録実行中にカードがフルになったときは、自動的にもう1枚のカードに切り替わります。

ご注意

再生中は、SLOT SELECTボタンは無効になります。ボタンを押しても切り替わりません。サムネイル画面（88ページ）が表示されている場合は、ボタン操作が有効です。

SxSメモリーカードをフォーマット（初期化）する

フォーマットされていないSxSメモリーカード、または別の仕様でフォーマットされたSxSメモリーカードを装着すると、「Cannot Use Media(A)/Unsupported File System」のメッセージがビューファインダー画面に表示されます。その場合は、以下の操作を行ってメモリーカードをフォーマットします。

ご注意

XDCAM EX機器でフォーマットしたSxSメモリーカード以外は使用できません。

フォーマット（初期化）を実行する

1 メニューのOPERATION >Format Media（110ページ参照）を選択する。

2 Media(A)（スロットA）またはMedia(B)（スロットB）を選択する。

3 **MENUつまみを回して「Execute」を選択し、つまみを押す。**
フォーマットを実行するかどうかを確認するメッセージが、ビューファインダー画面に表示されます。

4 **MENUつまみを回して「Execute」を選択し、つまみを押す。**

フォーマットが始まります。
実行中メッセージと進捗状況（%）が表示され、ACCESSランプがオレンジに点灯します。

フォーマット実行中の記録・再生

フォーマット中でも、もう一方のカードスロットに装着したSxSメモリーカードを使用して記録・再生が可能です。

フォーマットできなかったときは

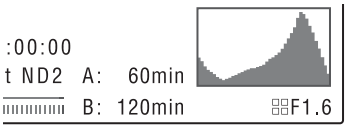
プロテクトされたSxSメモリーカードや本機で使用できないメモリーカードはフォーマットされません。
警告メッセージが表示されますので、メッセージにしたがって、使用できるSxSメモリーカードに交換してください。

ご注意

- メモリーカードをフォーマットすると、記録された映像データ、セットアップファイルなどを含む、すべてのデータが消去されます。
- 本機で使用するSxSメモリーカードは、本機のフォーマット機能を使用してフォーマットしてください。他の機器でフォーマットした場合は、異なるフォーマットとみなされ、本機で再度フォーマットする必要があります。

残りの記録可能時間を確認する

ビューファインダー画面の記録メディア残量表示部で、各スロットに装着したSxSメモリーカードの残量を確認することができます。



現在設定されているビデオフォーマット（記録ビットレート）で撮影した場合に記録可能な時間を、それぞれのスロット内のメディアの残量から計算して分単位で表示します。
バッテリー／メディアステータス画面（71ページ）を表示させると、残量をメーター形式で確認することもできます。

ご注意

メモリーカードがプロテクトされている場合は、 マークが表示されます。

SxSメモリーカードの交換時期

- 記録中に2枚のメモリーカードの残記録可能時間の合計が5分をきると、警告メッセージMedia Near Fullが表示され、WARNINGランプおよびビューファインダー画面のREC表示の点滅とブザー音で警告します。
  空きのあるメディアに交換してください。
- 記録を継続して、残記録可能時間の合計が0になると、メッセージがMedia Fullに変わり記録が停止します。

ご注意

1枚のSxSメモリーカードに約600個までのクリップを記録できます。
記録できるクリップ数の上限に達すると、残時間表示が「0」になり、メッセージMedia Fullが表示されます。

SxSメモリーカードを修復する

何らかの原因でメモリーカード内のデータに異常が発生した場合は、メモリーカードの修復が必要になります。
修復が必要なSxSメモリーカードを挿入したときは、修復を実行するかどうかを確認するメッセージがビューファインダー画面に表示されます。

修復を実行する

MENUつまみを回して「Execute」を選択し、つまみを押します。
修復が始まります。
実行中メッセージと進捗状況（%）が表示され、ACCESSランプがオレンジに点灯します。
修復が終了すると、完了メッセージが3秒間表示されます。

修復できなかったときは

- プロテクトされたSxSメモリーカードや、エラーが発生したSxSメモリーカードは修復できません。警告メッセージが表示されますので、メッセージにしたがって、プロテクトを解除するか、別のSxS メモリーカードに交換してください。
- エラーが発生したSxSメモリーカードは、フォーマットをし直すと再利用できる場合があります。
- 一部のクリップのみが修復できない場合もあります。修復できたクリップは再生可能になります。
- 修復を実行しても繰り返し“Could not Restore Some Clips”とメッセージが表示されるようになったSxSメモリーカードは、以下の手順で正常に戻せる場合があります。
  ①本機のコピー機能（98ページ）または付属の専用アプリケーションソフトウェアを用いて、必要なクリップを他のSxSメモリーカードへコピーする。
  ②問題のあるSxSメモリーカードを本機でフォーマットする。
  ③必要なクリップをフォーマットしたSxSメモリーカードにコピーして戻す。

修復中の記録・再生

修復中でも、もう一方のカードスロットに装着したSxSメモリーカードを使用して、記録・再生が可能です。

ご注意

本機で記録されたメディアは、本機で修復してください。
本機以外で記録されたメディアや、本機と同一機種であってもバージョンが異なる機器で記録されたメディアは、本機では修復できない場合があります。

基本操作

ここでは、撮影・記録の基本操作手順を説明します。
実際に撮影に出発する際は、事前に点検を行って、カメラシステムが正常に機能することを確認してください。

1 充電したバッテリーパックを取り付ける（38ページ参照）。

2 SxSメモリーカードを入れる（73ページ参照）。
2枚入れておくと、1枚目がフルになった時点で自動的に2枚目に切り換わります。

3 本機のPOWERスイッチ（17ページ参照）をONにする。

4 次の設定を行う。
マーカー表示：オン（114ページ参照）
アイリス：オート（62ページ参照）
ズーム：オート（63ページ参照）
カメラ出力：撮影中の映像（カメラ画）を選択し、DCC機能オン（22ページ参照）
タイムコードの歩進：F-RUN（フリーラン）またはR-RUN（レックラン）（68ページ参照）
オーディオ入力チャンネルの選択：オート（26ページ参照）

5 AUTO W/B BALスイッチを BLK側に押して、ブラックバランスを調整する（56ページ参照）。

6 照明条件に合わせてフィルターを選び、ホワイトバランスを調整する（57ページ参照）。

7 本機を被写体に向け、フォーカス（64ページ参照）とズームを調整する。

8 電子シャッターを使用する場合は、適切なシャッターモード／スピードに設定する（60ページ参照）。

9 次のいずれかの操作を行って記録を開始する。
- REC STARTボタン（20ページ参照）を押す。
- レンズのVTRボタン（32ページ参照）を押す。
- Rec機能が割り当てられたアサイナブルスイッチをオンにする（139ページ参照）。

記録中は、TALLYランプ、ビューファインダー前面のタリーランプ、ビューファインダー画面のREC表示が点灯します。必要に応じて、ズームとフォーカスを調整してください。

ご注意

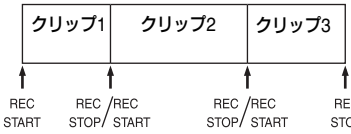
- 記録中（ACCESSランプの点灯中）は、絶対にバッテリーパックを取りはずさないでください。もし取りはずすと、記録処理が正常に終了しないため、記録中断直前の数秒間のデータが失われるおそれがあります。
- 記録中は、再生コントロールボタン（EJECT、F REV、F FWD、NEXT、PREV、PLAY/PAUSE、STOP）は働きません。

10 記録を停止するには、手順9のいずれかの操作を行う。
TALLYランプ、ビューファインダー前面のタリーランプ、ビューファインダー画面のREC表示が消えます、本機は記録待機（STBY）状態になります。手順9と10の間に記録した画像・音声と付随データが、1つのクリップとして記録されます。

記録内容を確認するには（レックレビュー）
記録待機中（STBY時）に、Rec Review機能またはFreeze Mix機能が割り当てられたアサイナブルスイッチをオンにします（138ページ参照）。
最終クリップの全体または最後の数秒（3秒または10秒）が再生され、STBY状態に戻ります。

再生時間は、メニューのMaintenance >Camera Config >Rec Review（131ページ参照）で変更することができます。
レンズのRETボタンにRec Review機能が割り当てられている場合は、レンズのRETボタンを押してレックレビューすることもできます。

11 手順9と10を繰り返して、記録を繰り返す。
メモリーカード上に順次クリップが作成されます。



ご注意

- 記録を停止してから約1秒間は次の記録を再開できません。
- 1枚のメモリーカードに記録できるクリップ数は、最大600個です。クリップが600個記録されると、メモリーカードに空き容量があっても、記録できなくなります。

クリップのファイルサイズについて

XDCAM EXシリーズでは、HDクリップのファイルサイズの上限は4GB、SDクリップのファイルサイズの上限は2GBです。
長時間の連続記録を行うと、ファイルサイズの関係で、記録された素材が複数のファイルに分割されることがあります（最大分割数は99）。
複数のファイルに分割された場合でも、本機上では1つのクリップとして扱います。

クリップ名について

本機で記録されるクリップには、自動的に8文字のクリップ名（前半4文字の英数字＋後半4桁の番号）が生成されます。

例：ABCD0001

クリップ名の前半部分（文字の英数字）は、メニューのOPERATION >Clip >Title Prefix（119ページ参照）で設定開始前に任意の文字列（4～46文字）にすることも可能です。（記録後に変更することはできません。）
クリップ名の後半部分（4桁の番号）は、記録順に自動的にカウントアップされます。

記録したクリップを再生する

本機が記録停止中（STBY時）の場合は、レックレビュー機能（77ページ参照）により最後に記録したクリップの全体または一部を再生することもできます。

1 再生するSxSメモリーカードを入れる（73ページ参照）。

2 PREVボタン（24ページ参照）またはF REVボタン（24ページ参照）を押して、再生したいクリップを頭出しする。

3 PLAY/PAUSEボタンを押す。
PLAY/PAUSEインジケーターが点灯し、ビューファインダー画面に再生画が表示されます。

再生を一時停止するには

PLAY/PAUSEボタンを押します。
一時停止中はPLAY/PAUSEインジケーターが点滅します。
もう一度押すと再生モードに戻ります。

高速再生するには

F FWDボタン（24ページ参照）またはF REVボタン（24ページ参照）を押します。
標準再生に戻るには、PLAY/PAUSEボタンを押します。

メモリーカードを切り換えるには

メモリーカードを2枚装着しているときは、SLOT SELECT ボタン（27ページ参照）を押して切り換えます。
再生中にメモリーカードを切り換えることはできません。

再生を終了するには

STOPボタンを押す：再生が停止し、本機はE-Eモードになります。
THUMBNAILボタンを押す：再生が停止し、ビューファインダー画面にサムネイル画面（88ページ参照）が表示されます。

再生中に記録を開始したりSxSメモリーカードを取り出した場合も、再生が停止し、ビューファインダー画面にカメラ画が表示されます。

記録したクリップを削除する

アサイナブルスイッチを使用して直前に記録したクリップを削除することができます（Last Clip DEL機能）。

◆THUMBNAILメニューを使用して、記録した全クリップを一括削除したり（All Clips DEL機能）、任意のクリップを選択して削除する方法については、「クリップを削除する」（99ページ）をご覧ください。

1 **Last Clip DEL機能が割り当てられたアサイナブルスイッチをオンにする（139ページ参照）。**
確認メッセージが表示されます。

2 **MENUつまみを回して「Execute」を選択し、つまみを押す。または、⇧、⇩ボタンを押して「Execute」を選択し、SETボタンを押す。**

応用操作

ショットマークを記録する

本機では、HDモードで記録したクリップに対して、2種類のショットマークを任意の位置に記録できます。ショットマークを記録しておくと、編集時にすばやく頭出しすることができます。１つのクリップに記録できるショットマークの数は127個です。

ご注意

SDモードでショットマークを記録することはできません。

◆THUMBNAILメニューを使用して、任意のクリップにショットマークを追加／削除することもできます。詳しくは、「ショットマークを追加／削除する（HDモードのみ）」（102ページ）をご覧ください。

ショットマークを記録するには

次の2つの方法があります。

- Shot Mark 1またはShot Mark 2機能が割り当てられたアサイナブルスイッチをオンにする（138ページ参照）。
- レンズのRETボタンにLens RET機能が割り当てられている場合は、レンズのRETボタンを次のように操作する。
  ショットマーク1を記録するには：1回押す。
  ショットマーク2を記録するには：すばやく2回押す。

ショットマークが記録されると、ビューファインダー画面のタイムコード表示付近に「ShotMark1」または「ShotMark2」が約3秒間表示されます。

OKマークを設定する

編集時にクリップを選別する目安として、HDモードで記録したクリップに対してOKマークを設定することができます。

ご注意

- SDモードでOKマークを記録することはできません。
- 記録または再生中にOKマークを設定／削除することはできません。

◆THUMBNAILメニューを使用して、任意のクリップに対してOKマークを設定／削除することもできます。詳しくは、「クリップにOKマークを付ける／削除する（HDモードのみ）」（98ページ）をご覧ください。

設定するには

クリップの記録終了後に、OK Mark機能が割り当てられたアサイナブルスイッチをオンにします（138ページ参照）。レンズのRETボタンにOK Mark機能が割り当てられている場合は、レンズRETボタンを押します。

直前に記録したクリップにOKマークが設定されます。

ビューファインダー画面のタイムコード表示付近に約3秒間「OK Mark」が表示されます。

削除するには

1 **直前に記録したクリップにOKマークが設定されているときに、OK Mark機能を割り当てたアサイナブルスイッチをオンにする（138ページ参照）。レンズのRETボタンにOK Mark機能が割り当てられている場合は、レンズのRETボタンを押す。**

確認メッセージが表示されます。

2 **MENUつまみを回してExecuteを選択し、つまみを押す。**

直前に記録したクリップのOKマークが削除されます。

数秒前の映像から記録する（ピクチャーキャッシュ機能）

本機では、内蔵の大容量メモリーに、本機で撮影している映像／音声データを常時数秒間（最大15秒間）分蓄えておくことにより、記録を開始したとき、その数秒前からの映像を記録することができます。

ピクチャーキャッシュモード／ピクチャーキャッシュ時間の設定

ピクチャーキャッシュモードで記録を始めるには、あらかじめOPERATIONメニューでピクチャーキャッシュモードおよびメモリーへの画像の蓄積時間（ピクチャーキャッシュ時間）を選択しておく必要があります。

記録を開始したときに、記録開始操作の実行から何秒前にさかのぼって記録できるかは、ピクチャーキャッシュ時間によって決まります。次の「ご注意」に挙げるような特殊な場合では、さかのぼって記録できる時間が短くなる場合があります。

ご注意

- メモリーへの画像の蓄積は、ピクチャーキャッシュモードを選択してから開始されます。したがって、選択後すぐに記録を開始した場合は、ピクチャーキャッシュモード選択以前に撮影した映像は記録されません。
- 再生、レックレビュー、およびサムネイル表示を行っている間は、メモリーに画像を蓄えないため、再生やレックレビューを行っていた間の映像をさかのぼって記録することはできません。

ピクチャーキャッシュモード／ピクチャーキャッシュ時間を設定するには

ご注意

- ピクチャーキャッシュレックは、フレームレック、インターバルレック、スロー&クイックモーションと同時に使用することはできません。ピクチャーキャッシュモードを選択すると、フレームレック、インターバルレック、スロー&クイックモーションは無効になります。

また、インターバルレック、フレームレック、スロー & クイックモーションのいずれかを有効にすると、ピクチャーキャッシュモードは自動的に解除されます。
- ビデオフォーマットなどのシステム設定を変更すると、メモリーに蓄えられていた画像がクリアされます。変更直後に記録を開始しても、変更前に撮影した映像は記録されません。ピクチャーキャッシュモードは自動的に解除されます。
- 記録中にピクチャーキャッシュ時間を設定することはできません。

1 **メニューのOPERATION >Rec Function >Picture Cache Recを選択する。**

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

2 **MENUつまみを回してOnを選択し、つまみを押す。**

3 **P. Cache Rec Timeを選択し、MENUつまみを回して希望のピクチャーキャッシュ時間を選択し、つまみを押す。**

0-2sec、2-4sec、4-6sec、6-8sec、8-10sec、10-12sec、12-14sec、13-15secから選択できます。

一度選択したピクチャーキャッシュモードは、設定を変更するまで保持されます。
手順1、2を行う代わりに、Picture Cache機能を割り当てたアサイナブルスイッチを使用して（138ページ参照）ピクチャーキャッシュモードを選択することもできます。

ピクチャーキャッシュモードで記録する場合の本機の動作について

記録の手順は通常とほぼ同じですが、本機の動作には通常と異なる点がありますので、以下の点に充分ご注意ください。
- メディアへのアクセスが行われている間に記録を開始した場合、実際に記録される映像の開始点が、設定されたピクチャーキャッシュ時間よりも遅くなる場合があります。記録クリップ数が多いほど遅くなるため、ピクチャーキャッシュモードでは、すばやい記録停止、記録開始操作はなるべく避けてください。
- F-RUN/SET/R-RUNスイッチの設定にかかわらず、F-RUNモードになります。
- ピクチャーキャッシュモードでは、F-RUN/SET/R-RUNスイッチをSETにしてタイムデータの設定を行うことはできません。
  タイムデータを設定する場合は、いったんピクチャーキャッシュモードを解除してください。
- 現在選択されているスロット内のメディアの記録可能残量がピクチャーキャッシュ時間よりも少ない場合は、選択されていないスロット内のメディア（充分な記録可能残量があれば）に対して記録が行われます。
  ただし、選択されていないスロット内にメディアがない場合や、スロット内のメディアの記録可能残量が不充分な場合は、記録は行われません。（ビューファインダー画面に、メディア残量が不足している旨を知らせるメッセージが表示されます。）
- 記録開始操作前にショットマークを設定しても、ショットマークは記録されません。
- ビデオフォーマットがi.LINK HDV出力可能な設定の場合に、ピクチャーキャッシュ記録したクリップを再生すると、同じ画像とタイムコードが数フレーム連続することがあります。
- ピクチャーキャッシュ記録中もi.LINK出力は可能です。ただしピクチャーキャッシュ時間に制限があります。

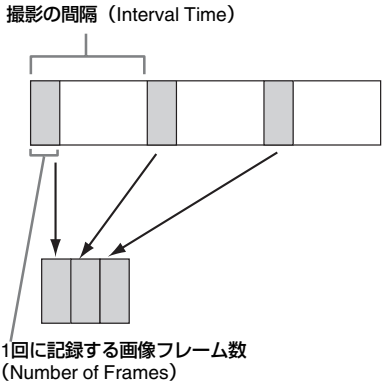
記録中に本機の電源が切れた場合

- 本機のPOWERスイッチをOFFにした場合は、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像を記録するため、数秒間メディアにアクセスしてから、自動的に電源が切れます。
- 記録中にバッテリーを取りはずしたり、DCケーブルを引き抜いたり、ACアダプター側の電源を切ったりした場合は、メモリーに蓄積されている映像／音声デー

タが消滅するため、その瞬間までの映像は記録されません。バッテリー交換の際は、充分ご注意ください。

間欠的に映像を記録する（インターバルレック機能）

本機のメモリーを利用して間欠的に映像を取り込み、記録するインターバルレック機能は、主に動きの少ない被写体を撮影するときに有効です。
記録を開始すると、設定したフレーム数（Number of Frames）分の映像を、任意のインターバル（Interval Time）で自動記録できます。



インターバルレックを有効にしているときは、撮影開始前にビデオライトを自動的に点灯させ、光量、色温度を安定させた状態で撮影を行うことができます（プリライティング機能）。

インターバルレックの設定と撮影

ご注意

- インターバルレックは、ピクチャーキャッシュレック、フレームレック、スロー&クイックモーションと同時に使用することはできません。インターバルレックモードを選択すると、ピクチャーキャッシュレック、フレームレック、スロー&クイックモーションは無効になります。また、ピクチャーキャッシュレック、フレームレック、スロー & クイックモーションのいずれかを有効にすると、インターバルレックモードは自動的に解除されます。
- ビデオフォーマットなどのシステム設定を変更すると、メモリーに蓄えられていた画像がクリアされます。変更直後に記録を開始しても、変更前に撮影した映像は記録されません。インターバルレックモードは自動的に解除されます。
- 記録中にインターバルレックの設定を変更することはできません。
- 以下のフォーマット設定ではインターバルレックは無効です。
  - SP 1440/59.94i または SP 1440/50i で、出力設定が HD、メニューの OPERATION >Input/Output >i.LINK I/O の設定が Enable
  - SP 1440/23.98P（プルダウン記録）
  - HQ 1920/23.98P または HQ 1280/23.98P 以外で、出力設定が SD、メニューの OPERATION >Input/Output >i.LINK I/O の設定が Enable

設定するには

1 **メニューのOPERATION >Rec Function >Interval Recを選択する。**
◆メニューの操作については、「セットアップメニューの構成と階層」（104ページ）をご覧ください。

2 **MENUつまみを回してOnを選択し、つまみを押す。**
本機はインターバルレックモードになり、ビューファインダー画面で「Interval」の表示が点滅します。

3 **Number of Framesを選択し、MENUつまみを回して1回に記録する希望のフレーム数を選択し、つまみを押す。**
1、3、6、9（フォーマットの設定が720/59.94Pまたは720/50Pの場合は2、6、12）から選択できます。

4 **Interval Timeを選択し、MENUつまみを回して希望のインターバル選択し、つまみを押す。**
1～10/15/20/30/40/50 sec、1～10/15/20/30/40/50 min、1～4/6/12/24 hourから選択できます。

5 必要に応じてPre-Lightingを選択し、MENUつまみを回して記録開始前のビデオライト点灯時間を選択し、つまみを押す。

1〜10/15/20/30/40/50 sec、1〜10/15/20/30/40/50 min、1〜4/6/12/24 hourから選択できます。

ご注意

- ビデオライトを記録前に点灯させる場合は、本機のLIGHTスイッチを「AUTO」に設定してください。ビデオライトのスイッチもオンにしておく必要があります。このときビデオライトが自動点灯／消灯します。ただし、消灯時間が5秒以下の場合、ビデオライトは連続して点灯します。
- LIGHTスイッチを「MANUAL」に設定し、ビデオライトのスイッチをオンにすると、ビデオライトは常時点灯します。（ビデオライトは自動点灯／消灯しません。）

本機の電源を切るとインターバルレックモードは解除されますが、Number of Frames、Interval Time、Pre-Lightingの設定は保持されます。次回インターバルレックモードで撮影するときに再設定する必要はありません。

撮影するには

「基本操作」（77ページ）にしたがって、記録のための設定や準備を行った後、本機が動かないように固定して撮影を行います。

記録を開始すると、ビューファインダー画面の「Interval」表示が点滅から点灯に変わり、REC表示位置に「INT REC」と「INT STBY」が交互に表示されます。通常の記録時と同様に、TALLYランプとビューファインダー前面のタリーランプが点灯します。プリライティング機能を使用する場合は、記録が始まる前にビデオライトが点灯します。

撮影を終了するには

記録停止の操作を行います。

撮影を終了すると、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像がメディアに記録されます。

インターバルレックモードを解除するには

次のいずれかを実行します。

- POWERスイッチをOFFにする。
- 記録待機中に、メニューのOPERATION >Rec Function >Interval RecをOffに設定する。

記録中の動作制限

- i.LINK（HDV/DV）端子を使用できません。
- 内蔵タイムコードジェネレーターの歩進モードは、F-RUN/SET/RRUNスイッチの設定にかかわらず、R-RUNモードになります。
- 音声は記録されません。
- レックレビュー操作は行えません。
- SLOT SELECTボタンを押すと、「Number of Frames」で設定されたフレーム数分の記録を終了してクリップを作成し、別のメディアに切り換えます。
- ゲンロックはかかりません。

本機の電源が切れた場合

- 本機のPOWERスイッチをOFFにした場合は、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像を記録するため、メディアにアクセスしてから、自動的に電源が切れます。
- 記録中にバッテリーを取りはずしたり、DCケーブルを引き抜いたり、ACアダプター側の電源を切ったりした場合は、その瞬間以前に撮影したショット（最大15秒）が記録されないことがあります。バッテリー交換の際は充分ご注意ください。

コマ撮りする（フレームレック機能）

フレームレック機能は、クレイアニメなどの撮影をするときに有効です。

記録開始ボタンを押すたびに、あらかじめ設定したフレーム数（Number of Frames）だけ間欠的に映像を記録します。

フレームレックの設定と撮影

ご注意

- フレームレックは、ピクチャーキャッシュレック、インターバルレック、スロー&クイックモーションと同時に使用することはできません。フレームレックモードを選択すると、ピクチャーキャッシュレック、インターバルレック、スロー&クイックモーションは無効になります。また、ピクチャーキャッシュレック、インターバルレック、スロー & クイックモーションのいずれかを有効にすると、フレームレックモードは自動的に解除されます。
- ビデオフォーマットなどのシステム設定を変更すると、メモリーに蓄えられていた画像がクリアされます。変更直後に記録を開始しても、変更前に撮影した映像は記録されません。フレームレックモードは自動的に解除されます。
- 記録中にフレームレックの設定を変更することはできません。
- 以下のフォーマット設定ではフレームレックは無効です。
  - SP 1440/59.94i または SP 1440/50i で、出力設定が HD、メニューの OPERATION >Input/Output >i.LINK I/O の設定が Enable
  - SP 1440/23.98P（プルダウン記録）
  - HQ 1920/23.98P または HQ 1280/23.98P 以外で、出力設定が SD、メニューの OPERATION >Input/Output >i.LINK I/O の設定が Enable

設定するには

1 **メニューのOPERATION >Rec Function >Frame Recを選択する。**

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

2 **MENUつまみを回してOnを選択し、つまみを押す。**

本機はフレームレックモードになり、ビューファインダー画面で「Frame Rec」の表示が点滅します。

3 **Number of Framesを選択し、MENUつまみを回して1回に記録する希望のフレーム数を選択し、つまみを押す。**

1、3、6、9（フォーマットの設定が720/59.94Pまたは720/50Pの場合は2、6、12）から選択できます。

本機の電源を切るとフレームレックモードは解除されますが、Number of Framesの設定は保持されます。次回フレームレックモードでの撮影時に再設定する必要はありません。

撮影するには

「基本操作」（77ページ）にしたがって、記録のための設定や準備を行った後、本機が動かないように固定して撮影を行います。

記録を開始すると、ビューファインダー画面の「Frame Rec」表示が点滅から点灯に変わり、REC表示位置に「FRM REC」と「FRM STBY」が交互に表示されます。通常の記録時と同様に、TALLYランプとビューファインダー前面のタリーランプが点灯します。

撮影を終了するには

記録停止の操作を行います。

撮影を終了すると、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像がメディアに記録されます。

フレームレックモードを終了するには

次のいずれかを実行します。

- POWERスイッチをOFFにする。
- 記録待機中に、メニューのOPERATION >Rec Function >Frame RecをOffに設定する。

記録中の動作制限

- i.LINK（HDV/DV）端子を使用できません。
- 内蔵タイムコードジェネレーターの歩進モードは、F-RUN/SET/RRUNスイッチの設定にかかわらず、R-RUNモードになります。

- 音声は記録されません。
- レックレビュー操作は行えません。
- SLOT SELECTボタンを押すと、「Number of Frames」で設定されたフレーム数分の記録を終了してクリップを作成し、別のメディアに切り換えます。
- ゲンロックはかかりません。

本機の電源が切れた場合

- 本機のPOWERスイッチをOFFにした場合は、その瞬間までメモリーに蓄えられていた映像を記録するため、メディアにアクセスしてから、自動的に電源が切れます。
- 記録中にバッテリーを取りはずしたり、DCケーブルを引き抜いたり、ACアダプター側の電源を切ったりした場合は、その瞬間以前に撮影したショット（最大10秒）が記録されないことがあります。バッテリー交換の際は充分ご注意ください。

スロー&クイックモーション撮影する

本機がHDモードで、ビデオフォーマット（55ページ）が下記のいずれかに設定されているときは、記録時のフレームレートを再生時のフレームレートと異なる値に設定することができます。

Countryの設定がNTSC Areaの場合：HQ 1920/29.97P、HQ 1920/23.98P、HQ 1280/59.94P、HQ 1280/29.97P、HQ 1280/23.98P

Countryの設定がPAL Areaの場合：HQ 1920/25P、HQ 1280/50P、HQ 1280/25P

再生フレームレートと異なるフレームレートで撮影することによって、通常の速度で撮影した映像を低速再生したり高速再生するよりも、滑らかなスローモーション、クイックモーション映像が得られます。

例

ビデオフォーマットがHQ 1280/23.98Pのとき、フレームレートを1～23に設定して撮影するとクイックモーション映像になり、フレームレートを25～60に設定して撮影するとスローモーション映像になります。

スロー&クイックモーションの設定と撮影

設定するには

ご注意

- スロー&クイックモーションは、ピクチャーキャッシュレック、インターバルレック、フレームレックと同時に使用することはできません。スロー&クイックモーションモードを選択すると、ピクチャーキャッシュレック、インターバルレック、フレームレックは無効になります。また、ピクチャーキャッシュレック、インターバルレック、フレームレックのいずれかを有効にすると、スロー&クイックモーションモードは自動的に解除されます。
- スローシャッター設定時(シャッター表示が「SLS」の場合)は、スロー&クイックモーションは無効になります。また、スロー&クイックモーションモード時は、スローシャッター設定は無効になります。
- メニューのOPERATION >Input/Output >i.LINK I/Oの設定がEnableの場合、スロー&クイックモーションは無効になります。また、スロー&クイックモーションモード時は、i.LINK I/OはDisableに固定されます。
- 記録中にスロー&クイックモーションの設定を変更することはできません。

1 メニューのOPERATION >Rec Function > Slow & Quickを選択する。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

2 MENUつまみを回してOnを選択し、つまみを押す。

本機はスロー&クイックモーションモードになり、ビューファインダー画面に「S&Q STBY」が表示されます。

3 **Frame Rateを選択し、MENUつまみを回して記録フレームレートを選択し、つまみを押す。**
フレームレートの設定範囲は次のとおりです。

システム周波数	フレームレート
1080	1～30
720	1～60

設定完了後、ビューファインダー画面上部にシステム周波数とフレームレートが表示されます。この表示を見ながら、MENUつまみ、⇧、⇩ボタンとSETボタンでフレームレートを変更することもできます。
本機の電源を切ってもスロー&クイックモーションモードとFrame Rateの設定は保持されます。

撮影するには
「基本操作」（77ページ）にしたがって撮影を行います。

記録を開始すると、ビューファインダー画面の「S&Q STBY」が「● S&Q REC」になります。通常の記録時と同様に、TALLYランプ、ビューファインダー前面のタリーランプも点灯します。

撮影を終了するには
記録停止の操作を行います。

ご注意

Frame Rateを小さい値（遅いフレームレート）に設定すると、記録停止操作を行ってから記録を停止するまでの時間が長くなります。

スロー&クイックモーションモードを終了するには
記録待機中に、メニューのOPERATION >Rec Function >Slow & QuickをOffに設定します。

記録中の動作制限
- i.LINK（HDV/DV）端子を使用できません。
- 内蔵タイムコードジェネレーターの歩進モードは、F-RUN/SET/RRUNスイッチの設定にかかわらず、R-RUNモードになります。
- 再生フレームレートと異なる記録フレームレートを選択した場合、音声は記録されません。
- レックレビュー操作は行えません。
- 記録フレームレートを現在のシャッタースピードの設定値より速い値に変更すると、シャッタースピードは撮影可能な最も遅い値に変更されます。
  例：フレームレート32でシャッタースピード$^{1}/_{40}$のときに、フレームレートを55に変更するとシャッタースピードは$^{1}/_{60}$に変更される。
  また、記録フレームレートより遅いシャッタースピードを選択することはできません。
- ゲンロックはかかりません。

フリーズミックス機能を使ってフレーミングする

フリーズミックス機能を使うと、HDモードで記録したクリップの映像の静止画（フリーズ画）と、カメラ入力画像を一時的に重ね合わせて表示することができるため、フレーミング（位置合わせ）が容易に行えます。

ご注意

以下の場合、フリーズミックス機能は使用できません。
- 記録フォーマットがSP 1440/23.98Pに設定されている
- 記録画像とカメラ画のビデオフォーマットが異なる
- スロー&クイックモーションモード時またはスローシャッター撮影時
- i.LINK入力時

フリーズミックス表示する

1 カメラ入力画像と同じフォーマットのクリップを再生またはレックレビューする。

2 位置合わせをしたい画像が表示されたら、Freeze Mix機能を割り当てたアサイナブルスイッチをオンにする。
レビュー画像が、フリーズ画としてカメラ画に重ねて表示されます。

ご注意

フリーズミックス表示中は、以下の操作や表示は無効になります。

- メニュー操作
- フォーカス拡大
- マーカー表示
- ゼブラ表示
- ピーキング表示
- スキントーンディテール表示

フリーズミックス表示を解除する

次のいずれかを行います。

- Freeze Mix機能を割り当てたアサイナブルスイッチを再度押す。
  フリーズミックス表示が解除され、通常のカメラ画が表示されます。
- 記録を開始する（77ページ参照）。
  通常の記録が始まります。

5章 クリップ操作

クリップの再生

E-E／再生モード時にTHUMBNAILボタンを押すと、「サムネイル画面」が表示され、SxSメモリーカードに収録されているクリップの代表画がサムネイル（縮小画）として一覧表示されます。（クリップが記録されていないメモリーカードを入れた場合は、メッセージが表示されます。）
サムネイル画面では、任意のクリップを選択し（91ページ参照）、そのクリップから再生を開始する（91ページ参照）ことができます。

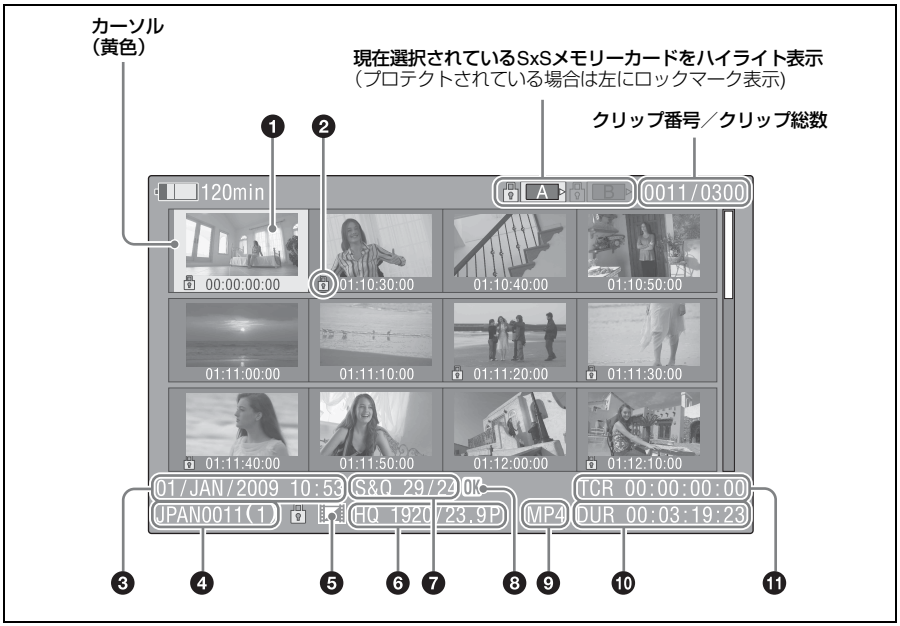
サムネイル画面

各クリップのサムネイルの下に、代表画のタイムコードが表示されます（OKマークが付加されている場合はOKマークも表示）。

ご注意

通常のサムネイル画面では、同じSxSメモリーカードにHDモードとSDモードのクリップが混在して記録されている場合でも、現在メニューのOPERATION >Format >HD/SD で選択されているモード（109ページ参照）のクリップのみ表示されます。
HD/SDモードにかかわらず記録されている全クリップを表示したい場合は、オールクリップサムネイル画面（96ページ）に切り換えます。ただし、オールクリップサムネイル画面から再生を開始することはできません。

HDモード時のサムネイル画面



❶ 代表画

記録時にはクリップの先頭フレームが自動的に代表画に設定されます。任意のフレームに変更することもできます（102ページ参照）。

❷ ロックマーク

選択したクリップにOKマークが付加され、かつプロテクトされていることを示します。

❸ 収録日と録画開始時刻

❹ クリップ名

❺ AV単独ファイルアイコン

選択したクリップがAV単独ファイルの場合のみ表示されます。コンピューターでSxSメモリーカードに直接追加したファイルなど正規の管理ファイルがない場合で、すべての操作と表示ができない可能性があることを示します。

❻ 記録時のビデオフォーマット

❼ 特殊記録撮影情報

特殊記録モード（スロー&クイックモーション／インターバルレック／フレームレック）で記録されたクリップの場合は、そのモードが表示されます。
スロー&クイックモーション記録されたクリップの場合は、右に[撮影フレームレート／再生フレームレート]が表示されます。

❽ OKマーク

選択したクリップにOKマーク（98ページ参照）が付加されている場合のみ表示されます。

❾ ファイルフォーマット表示

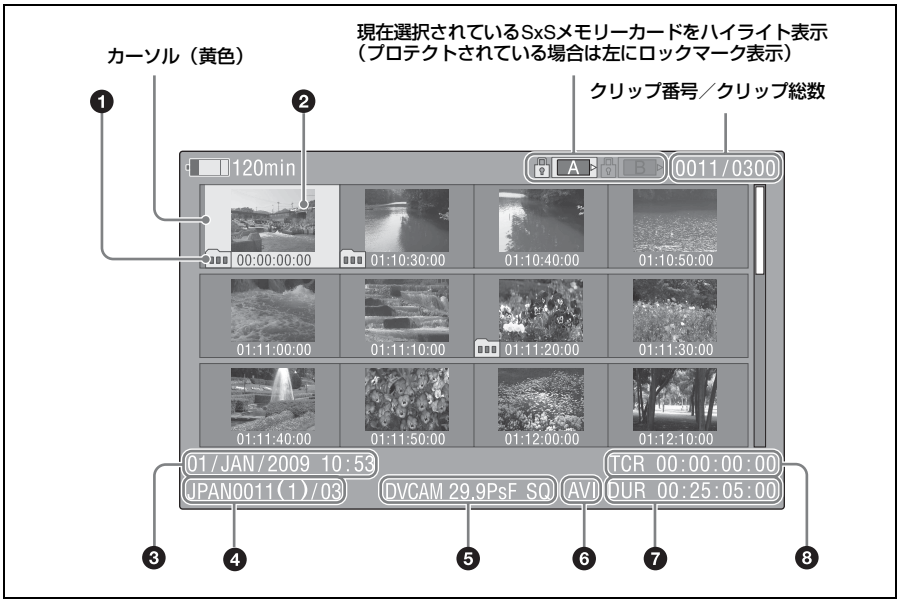
選択したクリップのファイルフォーマット（MP4）が表示されます。

❿ クリップの収録時間（Duration）

⓫ タイムコード

代表画のタイムコードが表示されます。

SDモード時のサムネイル画面



❶ テイクマーク

ファイルサイズが2GBを超えて分割保存されたクリップであることを示します。
それぞれの分割ファイルは、エクスパンドサムネイル画面（100ページ参照）でみることができます。

❷ 代表画

記録時にはクリップの先頭フレームが自動的に代表画に設定されます。

❸ 収録日と録画開始時刻

❹ クリップ名／分割数

ファイルサイズが2GBを超えて分割保存されたクリップの場合のみ、クリップ名の後に（/スラッシュ）で区切ってクリップの分割数を表示します。

❺ 記録時のビデオフォーマット

❻ ファイルフォーマット表示

選択したクリップのファイルフォーマット（AVI）が表示されます。

❼ クリップの収録時間（Duration）

❽ タイムコード

代表画のタイムコードが表示されます。

SxSメモリーカードを切り換えるには

SxSメモリーカードが2枚装着されているときは、SLOT SELECTボタンを押して切り換えます。

ご注意

通常のサムネイル画面、OKクリップサムネイル画面、オールクリップサムネイル画面を表示しているとき、またはSTOPボタンを押してカメラ画が表示されているときのみ、切り換え可能です。

サムネイル画面を消すには

THUMBNAILボタンを押します。

クリップを再生する

クリップのサムネイルを選択するには

以下のいずれかの操作により、選択したいサムネイルに黄色いカーソルを合わせます。

- 矢印（⇧、⇩、⇦、⇨）ボタンを押す。
- MENUつまみを回す。
- PREVまたはNEXTボタンを押す。

先頭のサムネイルを選択するには

F REVボタンを押したままPREVボタンを押します。

最終のサムネイルを選択するには

F FWDボタンを押したままNEXTボタンを押します。

選択したクリップ以降のクリップを連続再生するには

1 **再生を開始したいクリップのサムネイルを選択する。**

2 **PLAY/PAUSEボタンを押す。**
選択したクリップの先頭から再生が始まります。

選択したクリップ以降のすべてのクリップを連続再生します。
最後のクリップの再生が終わると、最後のクリップの最終フレームで一時停止（静止画）モードになります。
THUMBNAILボタンを押すと、サムネイル画面に戻ります。

ご注意

- クリップとクリップの境界では、一時的に画像が乱れたり、静止画になる場合があります。またこの間は、再生コントロールボタンやTHUMBNAILボタンは操作できません。
- サムネイル画面でクリップを選択して再生を開始すると、クリップの先頭部分の再生映像が乱れる場合があります。クリップの先頭から乱れのない映像で再生するには、一度再生モードにした後で一時停止にし、PREVボタンを押してクリップの先頭に戻して再生を行ってください。
- HDモードとSDモードのクリップが混在記録されているSxSメモリーカードでは、すべてのクリップを連続して再生することはできません。たとえば、HDモード時のサムネイル画面が表示されている場合は、HDモードのクリップのみが連続再生されます。

再生を一時停止するには

PLAY/PAUSEボタンを押します。
一時停止中はPLAY/PAUSEインジケーターが点滅します。
もう一度押すと再生モードに戻ります。

高速再生するには

F FWDボタン（24ページ参照）またはF REVボタン（24ページ参照）を押します。
標準再生に戻るには、PLAY/PAUSEボタンを押します。

再生を終了するには

STOPボタンを押す：再生が停止し本機はE-Eモードになります。

THUMBNAILボタンを押す：再生が停止し、ビューファインダー画面にサムネイル画面（88ページ参照）が表示されます。

再生中にメモリーカードを取り出した場合も、再生が停止し、ビューファインダー画面にカメラ画が表示されます。

頭出しするには

現在のクリップの先頭に戻るには

PREVボタンを押します。

- 再生中またはF FWD中に押すと、現在のクリップの先頭にジャンプして再生を開始します。
- F REV中または一時停止中に押すと、現在のクリップの先頭にジャンプして静止画を表示します。
- 続けて押すと、押すたびに1つずつ前のクリップに移動します。

最初のクリップの先頭から再生するには

PREVボタンとF REVボタンを同時に押すと、SxSメモリーカードの最初に記録されたクリップの先頭にジャンプします。

後ろのクリップの先頭にジャンプするには

NEXTボタンを押します。

- 再生中またはF FWD中に押すと、次のクリップの先頭にジャンプして再生を開始します。
- F REV中または一時停止中に押すと、次のクリップの先頭にジャンプして静止画を表示します。
- 続けて押すと、押すたびに1つずつ後ろのクリップに移動します。

最後のクリップの先頭から再生するには

F FWDボタンとNEXTボタンを同時に押すと、SxSメモリーカードの最後に記録されたクリップの先頭にジャンプします。

再生中にショットマークを追加するには（HDモード）

記録時と同じ操作で（79ページ参照）、再生中のクリップにショットマークを追加することができます。

ご注意

- SxSメモリーカードがプロテクトされている場合にはショットマークは記録できません。
- クリップの先頭と末尾にはショットマークは記録できません。

クリップをサムネイルサーチする

サムネイル画面を次のようなサーチ画面に切り換えて、目的のクリップを見つけやすくすることができます。

- エクスパンドサムネイル画面
- ショットマークサムネイル画面（HDモード時）

いずれの画面でも、通常のサムネイル画面やOKクリップサムネイル画面と同様に、クリップのサムネイルを選択したり（91ページ参照）、クリップの再生を開始する（91ページ参照）ことができます。

エクスパンドサムネイル画面でクリップをサーチするには

エクスパンドサムネイル画面は、サムネイル画面でクリップを選択し、EXPANDボタン（24ページ参照）を押すかメニューのTHUMBNAIL >Thumbnail View >Forward Expansionを選択すると、次のように表示されます。

HDモード時：選択したクリップを時間で12分割し、各ブロックの先頭フレームをサムネイルとして表示します。

SDモード時：ファイルサイズが2GBを超えて分割保存されたクリップの場合のみ、分割されたファイルの先頭のフレームをサムネイルとして表示します。

記録時間の長いクリップの目的のシーンをすばやく頭出ししたい場合に有効です。

◆エクスパンドサムネイル画面について詳しくは、「エクスパンドサムネイル画面を表示する」（100ページ）をご覧ください。

ショットマークサムネイル画面でクリップをサーチするには（HDモード時）

ショットマークサムネイル画面は、クリップに1 つ以上のショットマークが記録されている場合に、ショットマークの付加されているフレームだけをサムネイル形式で表示します。サムネイル画面を表示して、ESSENCE MARKボタン（26ページ参照）を押すかメニューのTHUMBNAIL >Thumbnail View >Essence Mark Thumbnailを選択すると表示されます。

◆ショットマークサムネイル画面について詳しくは、「ショットマークサムネイル画面を表示する（HDモードのみ）」（101ページ）をご覧ください。

サムネイル操作

THUMBNAILメニューを使用してクリップのサムネイル操作、詳細情報の確認、付随データの変更などが可能です。

THUMBNAILメニュー構成

メニュー項目	細目	内容
Clip Properties	—	詳細情報を表示する（97ページ参照）
Set Index Picture a)	—	エクスパンドサムネイル画面およびショットマークサムネイル画面で代表画を変更する（102ページ参照）
Thumbnail View	Forward Expansion	• エクスパンドサムネイル画面を表示する（100ページ参照） • エクスパンドサムネイル画面で、クリップの分割数を増やす（101ページ参照）
	Back Expansion	エクスパンドサムネイル画面で、クリップの分割数を減らす
	Essence Mark Thumbnail a)	ショットマークサムネイル画面を表示する（101ページ参照）
	Clip Thumbnail	通常のサムネイル画面を表示する
	All Clip Thumbnail	オールクリップサムネイル画面を表示する（96ページ参照）
Set Shot Mark a)	Add Shot Mark1	エクスパンドサムネイル画面およびショットマークサムネイル画面でショットマーク1を付加する（102ページ参照）
	Delete Shot Mark1	エクスパンドサムネイル画面およびショットマークサムネイル画面でショットマーク1を削除する（102ページ参照）
	Add Shot Mark2	エクスパンドサムネイル画面およびショットマークサムネイル画面でショットマーク2を付加する（102ページ参照）
	Delete Shot Mark2	エクスパンドサムネイル画面およびショットマークサムネイル画面でショットマーク2を削除する（102ページ参照）
Add OK Mark a)	—	OKマークを付加し、クリップを保護する（98ページ参照）
Delete OK Mark a)	—	OKマークを削除し、クリップの保護を解除する（98ページ参照）
Copy Clip	—	クリップをコピーする（98ページ参照）
Delete Clip	—	クリップを削除する（99ページ参照）
Divide Clip a)	—	クリップを分割する（103ページ参照）
Filter Clips a)	—	OKクリップサムネイル画面を表示する（95ページ参照）
Copy All Clips	Execute/Cancel	すべてのクリップをコピーする（99ページ参照）
Delete All Clips	Execute/Cancel	保護されていないすべてのクリップを削除する（100ページ参照）

a)HDモードのみ

THUMBNAILメニューの基本操作

◆メニューの操作について詳しくは、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

THUMBNAILメニューを表示するには

1 **MENU ON/OFFスイッチをONにするかMENUボタンを押す。**

2 **MENUつまみを回して「TH」を選択し、つまみを押す。または、⇧、⇩ボタンを押して「TH」を選択し、SETボタンを押す。**
THUMBNAILメニューが表示されます。

THUMBNAILメニューを消すときは、もう一度MENUボタンを押します。

メニュー項目／細目を選択するには

次のいずれかの操作を行います。
- MENUつまみを回して項目／細目を選択し、つまみを押す。
- 矢印（⇧、⇩、⇦、⇨）ボタンを押して項目／細目を選択し、SETボタンを押す。

選択したメニュー項目／細目に応じて、選択リストまたはクリップの詳細情報画面（97ページ参照）。が表示されます
MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押し下げると、１つ上の階層に戻ります。

ご注意
- SxSメモリーカードがプロテクトされているときは、クリップのコピー・削除・分割、代表画の変更、OKマーク・ショットマークの付加／削除はできません。
- メニューを表示させたときの状態によって選択できない項目があります。

クリップの詳細情報画面を消すには

次のいずれかの操作を行います。

RESET/RETURNボタンを押す：
THUMBNAILメニュー画面に戻ります。

THUMBNAILボタンを押す：本機はE-Eモードになり、カメラ画が表示されます。

PLAY/PAUSEボタンを押す：選択されているクリップから再生が始まります。

サムネイル画面の種類を変更する

OKクリップサムネイル画面を表示するには（HDモード）

OKクリップサムネイル画面には、選択されているSxSメモリーカードに記録されたクリップの中で、OKマークが付加されたクリップのみが表示されます。
通常のサムネイル画面が表示されているときにメニューのTHUMBNAIL >Filter Clipsを選択すると、OKクリップサムネイル画面に切り替わります。

◆OKマークを付加する方法については、「クリップにOKマークを付ける／削除する（HDモードのみ）」（98ページ）をご覧ください。

オールクリップサムネイル画面を表示するには

オールクリップサムネイル画面に切り換えると、HDモード、SDモードにかかわらず、記録されているすべてのクリップが表示され、選択されているSxSメモリーカードに他のモードのクリップも記録されているかどうかを確認することができます。
通常のサムネイル画面が表示されているときに、メニューのTHUMBNAIL >All Clip Thumbnailを選択すると、オールクリップサムネイル画面に切り替わります。

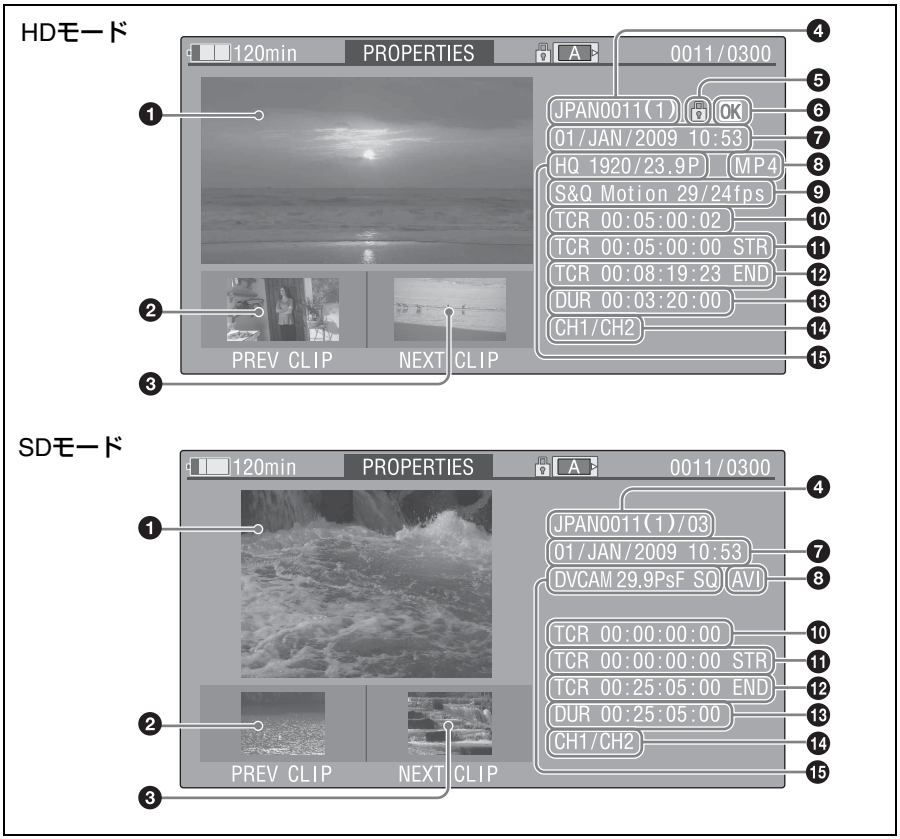
RESET/RETURNボタンを押すと通常のサムネイル画面に戻り、再生やクリップ操作が可能になります。

ご注意

オールクリップサムネイル画面から再生を開始することはできません。

クリップの詳細情報を表示する

THUMBNAILメニューでClip Propertiesを選択すると、クリップの詳細情報画面が表示されます。



❶ 現在のクリップの画像

❷ 前のクリップの画像

PREVボタンを押すと、1つ前のクリップの詳細情報画面になります。

❸ 次のクリップの画像

NEXTボタンを押すと、次のクリップの詳細情報画面になります。

❹ クリップ名

SDモードでは、ファイルサイズが2GBを超えて分割保存されたクリップの場合のみ、クリップ名の後にクリップ分割数が表示されます。

12文字以上のクリップ名の場合、最初の5文字と最後の5文字のみ表示されます。省略された部分を確認したいときは、MENUつまみを押してロング表示モードに切り替わります。ロング表示モードではクリップ名が最大53文字表示されます。

もう一度MENUつまみを押すとロング表示モードは解除されます。PREVまたはNEXTボタンで前または次のクリップに切り換えた場合にも、ロング表示モードは解除されます。

ロング表示モードは最大53文字まで表示できます。

❺ **ロックマーク（HDモードのみ）**
OKマークが付加され、かつプロテクトされている場合に表示されます。

❻ **OKマーク（HDモードのみ）**
OKマークが付加されている場合のみ表示されます。

❼ **収録日と録画開始時刻**

❽ **ファイルフォーマット表示**
ファイルフォーマット（MP4またはAVI）が表示されます。

❾ **特殊記録撮影情報（HDモードのみ）**
特殊記録されたクリップの場合は、S&Q Motion / Interval Rec / Frame Recのいずれかを表示します。
スロー&クイックモーション撮影で記録されたクリップの場合は、右に[撮像フレームレート／再生フレームレート]が表示されます。

❿ **表示されている画像のタイムコード**

⓫ **記録開始点のタイムコード**

⓬ **記録終了点のタイムコード**

⓭ **収録時間**

⓮ **記録音声チャンネル**

⓯ **記録時のビデオフォーマット**

クリップにOKマークを付ける／削除する（HDモードのみ）

クリップにOKマークを付加するとTHUMBNAILボタンを押したときに必要なクリップのみサムネイル画面に表示されるように設定することができます。
OKマークを付加したクリップは、削除・分割が禁止されます。削除・分割したいときは、OKマークを削除してから操作してください。

OKマークを付加するには

1 **サムネイル画面で、メニューのTHUMBNAIL >Add OK Markを選択する。**
クリップの詳細情報画面に切り換わり、代表画の下に確認メッセージが表示されます。

2 **「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**

選択されているクリップにOKマークが付加されます。

OKマークを削除するには

すでにOKマークが付加されているクリップを選択している場合は、THUMBNAILメニューにDelete OK Markが表示されます。

1 **サムネイル画面で、メニューのTHUMBNAIL >Delete OK Markを選択する。**
クリップの詳細情報画面に切り換わり、代表画の下に確認メッセージが表示されます。

2 **「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**

選択しているクリップからOKマークが削除されます。

クリップをコピーする

クリップを別のSxSメモリーカードにコピーすることができます。
コピー先のSxSメモリーカードには同じクリップ名でコピーされます。

ご注意

- コピー先のSxSメモリーカードに同名のクリップが存在している場合は、オリジナルのクリップ名に1桁の括弧数字を付加したクリップ名でコピーされます。
  括弧数字は、コピー先に存在しない最小値になります。
  例:
  ABCD0002→ABCD0002(1)
  ABCD0002(1)→ABCD0002(2)
  ABCD0005(3)→ABCD0005(4)
- コピー回数が10回を超えた場合など、括弧数字(1) ～ (9) がすでに存在するカードには、それ以上コピーできません。
- コピー先のSxSメモリーカードの残量が不足しているときはメッセージが表示されますので、コピー先のSxSメモリーカードを交換してください。
- 複数のクリップが記録されたSxSメモリーカードをコピーする場合は、容量が同じSxSメモリーカードであっても、使用条件やメモリーの特性などにより、すべてのクリップを最後までコピーできない場合があります。

1 サムネイル画面でコピーするクリップのサムネイルを選択し、メニューのTHUMBNAIL >Copy Clipを選択する。
クリップの詳細情報画面に切り換わり、代表画の下に、確認メッセージが表示されます。

2 「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。
コピーが始まります。

コピー中は実行メッセージと進捗バーが表示されます。
コピーが完了すると、サムネイル画面に戻ります。

コピーを中止するには

RESET/RETURNボタンを押します。
コピーを中止して、サムネイル画面に戻ります。

クリップを一括コピーするには

同じSxSメモリーカードに記録されているクリップを、別のSxSメモリーカードにまとめてコピーすることができます。
HDモードとSDモードのクリップが混在記録されているSxSメモリーカードでは、現在選択されているモードのクリップのみコピーされますので、同一モードのクリップのみ抽出したいときにも便利です。

1 サムネイル画面でコピーするクリップのサムネイルを選択し、メニューのTHUMBNAIL >Copy All Clipsを選択する。
「Copy All Clip?」の確認メッセージが表示されます。

2 「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。
コピーが始まります。
コピー実行中は進捗状況が表示されます。
HDモードで実行した場合は、HDモードのクリップのみコピーされます。
SDモードで実行した場合は、SDモードのクリップのみコピーされます。

コピーを中断するには

RESET/RETURNボタンを押します。

コピーが完了したら

完了メッセージが表示され、THUMBNAILメニュー画面が再表示されます。

クリップを削除する

SxSメモリーカードからクリップを削除することができます。

ご注意

OKマークが付加されたHDクリップは削除できません。
削除したいときは、先にOKマークを削除してください（98ページ参照）。

1 **サムネイル画面で削除するクリップを選択し、メニューのTHUMBNAIL >Delete Clipを選択する。**
クリップの詳細情報画面に切り換わり、代表画の下に確認メッセージが表示されます。

2 **「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**
クリップが削除されます。

サムネイル画面では、削除したクリップの次以降が1つずつ繰り上がります。

クリップを一括削除するには

同じSxSメモリーカードに記録されているクリップをまとめて削除することができます。

ご注意

- HDモードとSDモードのクリップが混在記録されているSxSメモリーカードでは、現在選択されているモードのクリップのみ削除されます。
- HDモードで削除を実行しても、OKマークが付加されたクリップは削除されません。

1 **サムネイル画面で削除するクリップのサムネイルを選択し、メニューのTHUMBNAIL >Delete All Clipsを選択する。**
「Delete All Clips?」の確認メッセージが表示されます。

2 **「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**
削除が始まります。
削除実行中は進捗状況が表示されます。
HDモードで実行した場合は、HDモードのクリップのみ削除されます。
SDモードで実行した場合は、SDモードのクリップのみ削除されます。

削除を中断するには

RESET/RETURNボタンを押します。

削除が完了したら

完了メッセージが表示され、THUMBNAILメニュー画面が再表示されます。

エクスパンドサムネイル画面を表示する

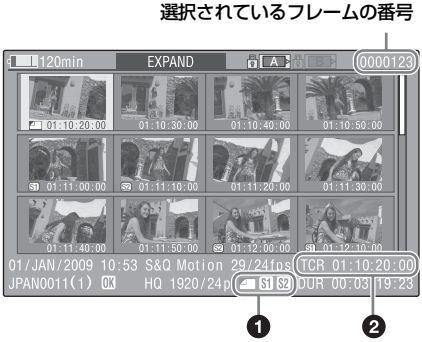
エクスパンドサムネイル画面では、サムネイルサーチ（92ページ参照）や代表画の変更（102ページ参照）、ショットマークの付加／削除（102ページ参照）を行うことができます。

表示するには

サムネイル画面でサムネイルを選択し、EXPANDボタン（24ページ参照）を押すか、メニューのTHUMBNAIL >Thumbnail View >Forward Expansionを選択します。
選択したクリップのエクスパンドサムネイル画面が表示されます。

HDモードのエクスパンドサムネイル画面

HDモードでは、選択したクリップを時間で12分割した各ブロックの先頭フレームがサムネイル表示されます。



画面下部にクリップの詳細情報が表示されます。
下記の項目以外は、通常のサムネイル画面で表示される項目と共通です。

❶ **フレーム情報**

選択したフレームの情報をアイコンで表示します。

	代表画
	ショットマーク1が付加されたフレーム
	ショットマーク2が付加されたフレーム

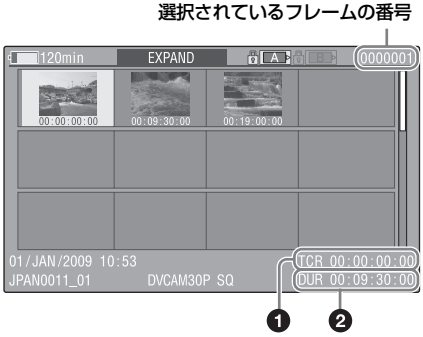
それぞれのサムネイル画像の下にも同じアイコンが表示されます。ただし、同じフレームに複数の情報が付加されている場合には、代表画→ショットマーク1→ショットマーク2の優先順位で表示されます。

❷ **タイムコード表示**

エクスパンドサムネイル画面で選択したフレームのタイムコードを表示します。

SDモードのエクスパンドサムネイル画面

SDモードでは、ファイルサイズが2GBを超えて分割保存されたクリップの場合のみ、分割されたファイルの先頭のフレームがサムネイル表示されます。



画面下部にクリップの詳細情報が表示されます。

下記の項目以外は、通常のサムネイル画面で表示される項目と共通です。

❶ **タイムコード表示**

選択されている分割されたファイルのタイムコードを表示します。

❷ **収録時間（Duration）**

選択されている分割されたファイルの収録時間を表示します。

分割数を増やすには

EXPANDボタンを押すか、メニューのTHUMBNAIL >Thumbnail View >Forward Expansionを選択すると、分割表示されているクリップ／ファイルが時間でさらに12分割されます（12分割したクリップ／ファイルをさらに12分割して、12×12＝144分割）。同じ操作を繰り返して、分割数を増やすことができます。

1段階前の分割数に戻すには

SHIFTボタンを押したままEXPANDボタンを押すか、メニューのTHUMBNAIL >Thumbnail View >Back Expansionを選択すると、分割数が1段階少ないエクスパンドサムネイル画面に戻ります。

ショットマークサムネイル画面を表示する（HDモードのみ）

ショットマークサムネイル画面（HDモードのみ表示）では、サムネイルサーチ（92ページ参照）や代表画の変更（102ページ参照）、ショットマークの付加／削除（102ページ参照）を行うことができます。

1 サムネイル画面でサムネイルを選択し、ESSENCE MARKボタン（26ページ参照）を押すか、メニューのTHUMBNAIL >Thumbnail View >Essence Mark Thumbnailを選択する。

2 ショットマークサムネイル画面が表示され、選択リストが表示されます。

3 **Shot Mark、Shot Mark1、または Shot Mark2を選択する**

Shot Mark1: ショットマーク1が付加されているフレームのみサムネイル表示されます。

Shot Mark2: ショットマーク2が付加されているフレームのみサムネイル表示されます。

Shot Mark:ショットマーク1が付加されているフレームとショットマーク2が付加されているフレームの両方がサムネイル表示されます。

ショットマークサムネイル画面例（Shot Mark選択時）

画面下部にクリップの詳細情報が表示されます。

以下の項目以外は、エクスパンドサムネイル画面で表示される項目と共通です。

❶ **タイムコード表示**

ショットマークサムネイル画面で選択されているフレームのタイムコード

ショットマークを追加／削除する（HDモードのみ）

ショットマークサムネイル画面（101ページ参照）またはエクスパンドサムネイル画面（100ページ参照）では、HDモードで記録したクリップの任意のフレームにショットマークを追加したり、記録されているショットマークを削除することができます。

ショットマークを追加するには

1 **ショットマークを追加したいフレームのサムネイルを選択し、メニューの** THUMBNAIL >Set Shot Mark >Add Shot Mark1（またはAdd Shot Mark2）**を選択する。**

選択したフレームの詳細表示画面になり、画像の下に確認メッセージが表示されます。

2 **Executeを選択し、MENUつまみを押す。**

ショットマークを削除するには

1 **ショットマークを削除したいフレームのサムネイルを選択し、メニューの** THUMBNAIL >Set Shot Mark >Delete Shot Mark1（またはDelete Shot Mark2）**を選択する。**

選択したフレームの詳細表示画面になり、画像の下に確認メッセージが表示されます。

2 **「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**

クリップの代表画を変更する（HDモードのみ）

HDモードのクリップでは、エクスパンドサムネイル画面（100ページ参照）やショットマークサムネイル画面（101ページ参照）で選択したフレームを代表画に設定することができます。

1 **代表画にしたいフレームのサムネイルを選択し、メニューの**THUMBNAIL > Set Index Picture**を選択する。**

選択したフレームの詳細表示画面になり、画像の下に確認メッセージが表示されます。

2 「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。

ご注意

先頭以外のフレームを代表画に設定しても、サムネイル画面で再生を開始した場合は、常に先頭フレームから再生されます。

クリップを分割する（HDモードのみ）

HDモードのクリップは、エクスパンドサムネイル画面（100ページ参照）やショットマークサムネイル画面（101ページ参照）で選択したフレーム位置で２つのクリップに分割することができます。

1 分割したい位置にあたるフレームのサムネイルを選択し、メニューのTHUMBNAIL >Divide Clipを選択する。

選択したフレームの詳細表示画面になり、画像の下に確認メッセージが表示されます。

2 「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。

選択したフレーム位置で分割され、2つの別の名前のクリップが新たに作成されます。

クリップ名の前半4文字は元のクリップの名前を引き継ぎ、後半4文字は最新の連続番号になります。

例：新たに記録した場合にEFGH0100というクリップが作られる状態で、ABCD0002という名前のクリップを分割した場合、ABCD0100とABCD0101の2つのクリップが作成されます。

ご注意

SxSメモリーカードの残量が、クリップ分割に必要な容量に満たない場合は、残量不足を知らせるメッセージが表示されます。

6章 メニュー表示と詳細設定

セットアップメニューの構成と階層

本機では、ビューファインダー画面に表示されるセットアップメニューを使用して、撮影や再生に必要な各種の設定を行います。セットアップメニューは、外部ビデオモニターに表示する（148ページ参照）こともできます。

セットアップメニューの構成

下記のメニューで構成されています。

Op：OPERATIONメニュー
画質以外の撮影に関する設定を行います（109ページ）。

Pa：PAINTメニュー
画質に関する設定を行います（120ページ）。

Th：THUMBNAILメニュー
クリップのサムネイルに関する設定を行います（94ページ）。

ご注意

THUMBNAILメニューは、サムネイル画面（88ページ参照）を表示しているときのみ使用できます。サムネイル画面を表示していないときは無効です。

Ma：MAINTENANCEメニュー
オーディオとタイムコードに関する設定を行います（125ページ）。

Fi：FILEメニュー
各種ファイル操作を行います（134ページ）。

セットアップメニューの階層

◆THUMBNAILメニューの構成については、「THUMBNAILメニュー構成」（94ページ）をご覧ください。

OPERATIONメニュー（109ページ参照）

- OPERATION
  - Format
  - Format Media
  - Input/Output
  - Super Impose
  - Rec Function
  - Assignable SW
  - VF Setting
  - Marker
  - Gain Switch
  - TLCS
  - Zebra
  - Display On/Off
  - Auto Iris
  - White Setting
  - Offset White
  - Shutter Select
  - Time Zone
  - Clip

PAINTメニュー（120ページ参照）

PAINT

- Switch Status
- White
- Black
- Flare
- Gamma
- Black Gamma
- Knee
- White Clip
- Detail(HD Mode)
- Detail(SD Mode)
- Aperture
- Skin Detail
- Matrix
- Multi Matrix
- V Modulation
- Low Key Saturation

MAINTENANCEメニュー（125ページ参照）

MAINTENANCE

- White Shading
- Battery
- Audio
- WRR Setting
- Timecode
- Essence Mark
- Camera Config
- Preset White
- White Filter
- Auto Iris2
- Flicker Reduce
- Genlock
- ND Comp
- Lens
- Trigger Mode
- Clock set
- Language
- Hours Meter
- Version

FILEメニュー（134ページ参照）

FILE

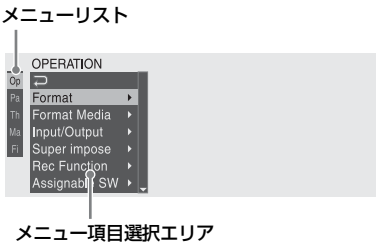
- All
- Scene
- Reference
- Lens

セットアップメニューの基本操作

セットアップメニューを表示するには

MENU ON/OFFスイッチをONにするかMENUボタンを押します。
本機がメニューモードになり、画面にメニューリストが表示されます。
前回設定したメニューの頭文字（2文字）にカーソルが表示され、右に対応するメニュー項目選択エリアが表示されます。

例：OPERATIONメニューにカーソルがある場合



ご注意

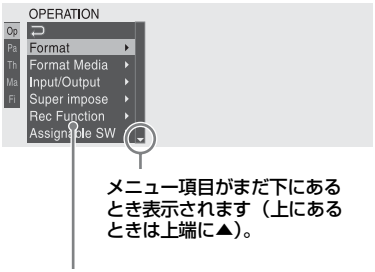
拡大フォーカス（Focus Mag）モードになっていると、セットアップメニューは操作できません。Focus Magが割り当てられているアサイナブルスイッチで拡大フォーカスモードを解除してください。

メニューを設定するには

1 MENUつまみを回すか、⇧、⇩ボタンを押して、設定したいメニューにカーソルを合わせる。
アイコン右のメニュー項目選択エリアに、選択できるメニュー項目が表示されます。

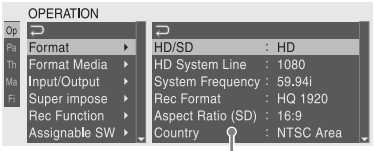
2 MENUつまみまたはSETボタンを押す。
カーソルがメニュー項目選択エリアに移動します。
⇨ボタンを押してカーソルをメニュー項目選択エリアに移動することもできます。

- メニュー項目選択エリアは最大7行表示です。選択できる項目が一度に表示できない場合は、カーソルを上下に移動すると表示がスクロールします。
  項目選択エリアの右上隅または右下隅に、スクロール可能なことを示す三角マークが表示されます。



- さらに設定細目を選択する項目の場合は、右に▶が表示されます。
- 細目のない項目の場合は、右に現在の設定値が表示されます。
- ⮌ を選択すると一つ上の階層に戻ります。

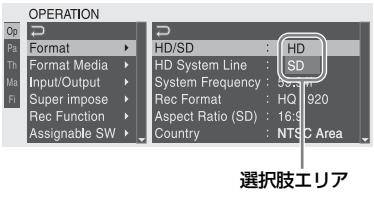
3 MENUつまみを回すか、⇧、⇩ボタンを押して、設定したいメニュー項目にカーソルを合わせ、MENUつまみまたはSETボタンを押して決定する。
メニュー項目選択エリアの右に設定エリアが表示され、カーソルが先頭の細目に移動します。



- 細目と現在の設定値が表示されます。
- ⮌を選ぶか⇦ボタンを押す、またはMENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押し下げると一つ上の階層に戻ります。

4 MENUつまみを回すか、⇧、⇩ボタンを押して、設定したい細目にカーソルを合わせ、MENUつまみまたはSETボタンを押して決定する。

選択した細目の選択肢が表示され、現在選択されている値にカーソルが移動します。



- 選択肢エリアは最大7行表示です。選択肢が一度に表示できない場合は、カーソルを上下に移動すると表示がスクロールします。選択肢エリアの右上隅または右下隅に、スクロール可能なことを示す三角マークが表示されます。
- 選択肢の範囲が大きい項目の場合（例：–99～+99）は、選択肢エリアは表示されません。文字がハイライト表示になり設定変更が可能な状態であることを示します。

5 MENUつまみを回すか、⇧、⇩ボタンを押して、設定したい値を選び、MENUつまみまたはSETボタンを押して決定する。

設定が変更され、変更後の状態が表示されます。

実行項目でExecuteを選択した場合は、対応する機能が実行されます。

実行前に確認が必要な項目では

手順3で、実行前に確認が必要な項目を選択すると、いったんメニューが消え、確認メッセージが表示されます。メッセージにしたがって、実行するかキャンセルするかを選択してください。

文字列を入力するには

タイムデータやファイル名など、文字列を設定する項目を選択した場合は、文字列の入力エリアがハイライト表示になり、右端にSETが表示されます。

1 MENUつまみを回すか、⇧、⇩ボタンを押して、文字を選択し、MENUつまみまたはSETボタンを押して決定する。

カーソルが次の欄に移動します。

前の欄に戻りたいときは、MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押し下げます。

2 同様に最後の桁・欄まで設定する。

カーソルがSETに移動します。

3 MENUつまみまたはSETボタンを押す。

設定が完了します。

設定変更を取り消すには

MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押し下げます。

標準設定（初期設定）に戻す（リセットする）には

1 設定を変更する前または設定変更を取り消した後に、MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に押し上げる。

2 現在の設定を標準設定（初期設定値）にリセットするかどうかを確認する

表示が出たら、再度スイッチを CANCEL/PRST側に押し上げる。
現在の設定が標準設定にリセットされます。

メニュー操作を終了するには

MENU ON/OFFスイッチをOFFにするかMENUボタンを押す。
通常のカメラ画に戻ります。

メニュー一覧

太字で表示されている設定値は、出荷時の初期設定値です。

OPERATIONメニュー

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Format 本機の動作モードおよび記録フォーマットを設定します。	HD/SD	**HD**/SD	動作モードをHDモードまたはSDモードに切り換える（Executeで実行）
	HD System Line	**1080**/720	HDモード時の走査線数を1080または720に設定する（Executeで実行）
	System Frequency	HD/SD、HD System Line、Countryの設定に応じて変わる	システム周波数を選択する（Executeで実行）
		59.94i/29.97P/23.98P	HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が1080、Countryの設定がPAL Area以外のとき
		59.94P/29.97P/23.98P	HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が720、Countryの設定がPAL Area以外のとき
		59.94i/29.97P	HD/SDの設定がSD、Countryの設定がPAL Area以外のとき
		50i/25P	• HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が1080、Countryの設定がPAL Areaのとき • HD/SDの設定がSD、Countryの設定がPAL Areaのとき
		50P/25P	HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が720、Countryの設定がPAL Areaのとき
	Rec Format	HD/SD、HD System Line、System Frequencyの設定に応じて変わる	記録フォーマットを選択する（Executeで実行）
		HQ 1920/HQ 1440	HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が1080、System Frequencyの設定が29.97Pまたは25Pのとき
		HQ 1920/HQ 1440/SP 1440	HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が1080、System Frequencyの設定が29.97Pおよび25P以外のとき
		HQ 1280	HD/SDの設定がHD、HD System Lineの設定が720のとき
		DVCAM	HD/SDの設定がSDのとき
	Aspect Ratio (SD)	**16:9**/4:3	SDモード（記録フォーマットはDVCAM）のアスペクト比を選択する（Executeで実行）
	Country	NTSC Area/NTSC(J) Area/PAL Area	使用地域を設定する（Executeで実行）

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Format Media メディアのフォーマットを実行します。	Media(A)	Execute/Cancel	スロットAのSxSメモリーカードを初期化する（Executeで実行）
	Media(B)	Execute/Cancel	スロットBのSxSメモリーカードを初期化する（Executeで実行）
Input/Output 入／出力信号に関する設定を行います。	Output& i.LINK	**HD&HDV**/SD&HDV/SD&DV/480P (576P)	各ビデオ端子とi.LINK（HDV/DV）端子からの出力信号を選択する • HD/SDの設定がSDの場合、SD&DVが選択される • 480P（576P）は、Countryの設定がPAL Area以外の場合は480Pが選択可能で、Countryの設定がPAL Areaの場合は576Pが選択可能
	23.98P Output	**PsF**/Pull Down	ビデオフォーマットがHQ 1920/23.98PまたはHQ 1440/23.98Pの場合に、プログレッシブ出力（PsF）にするか、プルダウン出力（Pull Down）にするかを選択する
	Source Select	**Camera**/i.LINK	ビデオ入力ソースをカメラ画（Camera）にするかi.LINK（HDV/DV）端子からの入力信号（i.LINK）にするかを選択する
	i.LINK I/O	Enable/**Disable**	i.LINK（HDV/DV）端子の信号入出力を有効（Enable）にするか無効（Disable）にするかを選択する Enable選択時はi.LINK出力中にオートブラックバランスを実行できる。
	SDI Output	**On**/Off	HD/SD SDI OUT端子からの出力信号をオン／オフする
	HDMI Output	**On**/Off	HDMI端子からの出力信号をオン／オフする
	SDI/HDMI Out Super	On/**Off**	HD/SD SDI OUT端子とHDMI端子からの出力にスーパーインポーズされる文字情報をオン／オフする
	Video Out Super	On/**Off**	VIDEO OUT端子からの出力にスーパーインポーズされる文字情報をオン／オフする
	Down Converter	Crop/Letter/**Squeeze**	SD信号を出力するときの信号変換モードを設定する **Crop**：16:9画像の両端をカットして4:3画像として出力 **Letter**：4:3画像の上下をマスクして、画面中央に16:9映像を表示 **Squeeze**：16:9画像を左右方向に縮小して4:3画像として出力
	Wide ID	**Through**/AUTO	SD出力信号にワイド画面情報を付加するかどうかを選択する **Through**：ワイド画面情報を付加せずにそのまま出力する **AUTO**：Down Converterの設定がSqueezeのとき、ビデオ信号にワイド画面情報を付加して出力する

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Super Impose スーパーインポーズされる文字情報／マーカーに関する設定を行います。	Super(VF Display)	**On**/Off	Input/Output >SDI/HDMI Out SuperまたはVideo Out Superの設定がOnのときに、HD/SD SDI OUT端子、HDMI端子またはVIDEO OUT端子からの出力にスーパーインポーズされる文字情報を、項目ごとにオン／オフする
	Super(Menu)	**On**/Off	
	Super(Timecode)	On/**Off**	
	Super(Marker)	On/**Off**	Input/Output >Video Out SuperがOnのとき、VIDEO OUT端子からの出力にスーパーインポーズされるマーカー表示をオン／オフする
Rec Function 特殊記録モードに関する設定を行います。	Slow & Quick	On/**Off**	スロー&クイックモーションモードをオン／オフする （この設定をOnにすると、Picture Cache Rec、Interval Rec、Frame Recの設定がOffになる。）
	Frame Rate	Format >HD System Lineの設定に応じて変わる	Slow & Quickの設定がOnの場合に、スロー&クイックモーション撮影時のフレームレートを設定する
		Format >Countryの設定がPAL Area以外：1～**30** Format >Countryの設定がPAL Area：1～**25**～30	HD System Lineの設定が1080のとき
		Format >Countryの設定がPAL Area以外：1～**30**～60 Format >Countryの設定がPAL Area：1～**25**～60	HD System Lineの設定が720のとき
	Picture Cache Rec	On/**Off**	ピクチャーキャッシュレックモードをオン／オフする （この設定をOnにすると、Slow&Quick、Interval Rec、Frame Recの設定がOffになる。）
	P. Cache Rec Time	**0-2sec**/2-4sec/4-6sec/6-8sec/8-10sec/10-12sec/12-14sec/13-15sec	Picture Cache Recの設定がOnの場合に、ピクチャーキャッシュレック時間を設定する
	Interval Rec	On/**Off**	インターバルレックモードをオン／オフする （この設定をOnにすると、Slow&Quick、Picture Cache Rec、Frame Recの設定がOffになる。）
	Frame Rec	On/**Off**	フレームレックモードをオン／オフする （この設定をOnにすると、Slow&Quick、Picture Cache Rec、Interval Recの設定がOffになる。）

OPERATION 項目	細目	選択肢	内容
Rec Function 特殊記録モードに関する設定を行います。	Number of Frames	Format >HD System Line、Format >System Frequency の設定に応じて変わる	Interval RecまたはFrame Recの設定がOnの場合に、インターバルレック撮影またはフレームレック撮影時の1回の記録フレーム数を設定する
		2frame/6frame/12frame	HD System Lineの設定が720、System Frequencyの設定が59.94Pまたは50P
		1frame/3frame/6frame/9frame	HD System Lineの設定が720以外、またはSystem Frequencyの設定が59.94Pおよび50P以外
	Interval Time	**1**/2/3/4/5/6/7/8/9/10/15/20/30/40/50 (sec) 1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/15/20/30/40/50 (min) 1/2/3/4/6/12/24 (hour)	Interval Recの設定がOnの場合に、インターバルレック撮影時の録画間隔（インターバル）を設定する
	Pre-Lighting	**Off**/2sec/5sec/10sec	インターバルレック撮影開始前にビデオライトを点灯させる場合は何秒前に点灯させるかを選択、点灯させない場合はOffを選択する
Assignable SW アサイナブルスイッチに機能を割り当てます。 ◆ 機能の割り当てについて詳しくは、「アサイナブルスイッチに機能を割り当てる」（138ページ）をご覧ください。	<0>	138ページ参照	ASSIGN. 0スイッチに機能を割り当てる
	<1>		ASSIGN. 1スイッチに機能を割り当てる
	<2>		ASSIGN. 2スイッチに機能を割り当てる
	<3>		ASSIGN. 3スイッチに機能を割り当てる
	<4>		ASSIGNABLE 4スイッチに機能を割り当てる
	<5>		ASSIGNABLE 5スイッチに機能を割り当てる
	RET		レンズのRETボタンに機能を割り当てる
	C. Temp		COLOR TEMP.ボタンに機能を割り当てる
	Zoom Speed	0～**20**～99	ASSIGNABLE 4または5スイッチにZoomを割り当てた場合の動作速度を設定する

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
VF Setting ビューファインダー画面に関する設定を行います。	Color	−99～**±0**～+99	ビューファインダー画面に表示される映像の色の濃さを調整する
	Mode	**Color**/B&W	ビューファインダー画面の表示をカラー（Color）にするか白黒（B&W）にするかを選択する（白黒に設定した場合も、タリーやサムネイル、スキンゲートのエリアはカラーで表示される）
	Peaking Type	**Normal**/Color/Both	ピーキングの種類を選択する **Normal**：通常のピーキング **Color**：カラーピーキング **Both**：両方
	Peaking Frequency	**Normal**/High	ピーキング周波数を標準（Normal）にするか高く（High）するかを選択する
	Peaking Color	**White**/Red/Yellow/Blue	Peaking Typeの設定がColorの場合に、ピーキングの色を選択する（White：白、Red：赤、Yellow：黄、Blue：青）
	Peaking Level	Low/**Mid**/High	Peaking Typeの設定がBothの場合に、カラーピーキングのレベルを低（Low）、中（Mid）、高（High）から選択する
	DXF Rec Tally	**Upper**/Both	別売のビューファインダーを使用する場合に、タリーランプを上側だけ点灯させるか（Upper）、上側と下側の両方を点灯させるか（Both）を選択する

OPERATION 項目	細目	選択肢	内容
Marker ビューファインダー画面のマーカー表示に関する設定を行います。	Setting	**On**/Off	すべてのマーカー表示をオン／オフする
	Center Marker	1/2/3/4/**Off**	センターマーカーを表示する場合はその種類を選択、表示しない場合はOffを選択する
	Center H Position	−40〜**0**〜40	センターマーカーの水平位置を設定する
	Center V Position	−40〜**0**〜40	センターマーカーの垂直位置を設定する
	Safety Zone	On/**Off**	セーフティーゾーンの表示をオン／オフする
	Safety Area	80%/**90%**/92.5%/95%	セーフティーゾーンの範囲を選択する
	Aspect Marker	Line/Mask/**Off**	アスペクトマーカーを表示する場合は表示方法を選択、表示しない場合はOffを選択する **Line**：白線で表示 **Mask**：マーカー範囲外のビデオ信号レベルを下げて表示
	Aspect Select	15:9/14:9/13:9/**4:3**/1.66:1/1.85:1/2.35:1/2.4:1	マーカーのアスペクト比を選択する
	Aspect Mask	0%〜**30%**〜90%（10%ステップ）	Aspect MarkerがMaskの場合、マーカー範囲内のビデオ信号レベルに対するマーカー範囲外のビデオ信号レベルをパーセンテージで設定する
	User Box	On/**Off**	ボックスカーソルの表示をオン／オフする
	User Box Width	40〜**500**〜999	ボックスカーソルの幅（中心から左右端までの距離）を設定する
	User Box Height	70〜**500**〜999	ボックスカーソルの高さ（中心から上下端までの距離）を設定する
	User Box H Position	−479〜**0**〜479	ボックスカーソルの中心の水平位置を設定する
	User Box V Position	−464〜**0**〜464	ボックスカーソルの中心の垂直位置を設定する
	Guide Frame	On/**Off**	ガイドフレームの表示をオン／オフする
Gain Switch ゲイン値の切り換えに関する設定を行います。	Gain Low	−3dB/**0dB**/3dB/6dB/9dB/12dB/18dB	GAINスイッチの設定がLの場合のゲイン値を設定する
	Gain Mid	−3dB/0dB/3dB/**6dB**/9dB/12dB/18dB	GAINスイッチの設定がMの場合のゲイン値を設定する
	Gain High	−3dB/0dB/3dB/6dB/9dB/**12dB**/18dB	GAINスイッチの設定がHの場合のゲイン値を設定する
	Gain Turbo	−3dB/0dB/3dB/6dB/9dB/12dB/18dB/**24dB**	Turbo Gain機能を割り当てたアサイナブルスイッチをオンにしたときのゲイン値を設定する。
	Shockless Gain	On/**Off**	ショックレスゲイン（ゲイン切り換え時にスムーズに値が切り替わる機能）をオン／オフする

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
TLCS トータルレベルコントロールに関する設定を行います。	Mode	Backlight/**Standard**/Spotlight	TLCS時のオートアイリスモードを選択する **Backlight**：バックライトモード（メインの被写体が逆光のときに黒沈みを軽減する） **Standard**：標準モード **Spotlight**：スポットライトモード（メインの被写体にスポットライトがあたっているときに白つぶれを軽減する）
	Speed	−99～**±0**～+99	TLCS時の制御スピード（映像の変化に対する反応速度）を設定する（値が大きいほど反応は速くなる）
	AGC	On/**Off**	AGC（オートゲインコントロール）機能をオン／オフする
	AGC Limit	3dB/6dB/9dB/**12dB**/18dB	AGC時の最大ゲイン値を設定する
	AGC Point	F5.6/F4/**F2.8**	AGC時にオートアイリスからAGCに制御方法を切り換えるF値を設定する
	Auto Shutter	On/**Off**	オートシャッター機能をオン／オフする
	Auto Shutter Limit	1/100 / 1/150 / 1/200 / **1/250**	オートシャッター時の最大シャッタースピードを選択する
	Auto Shutter Point	F5.6/F8/F11/**F16**	オートシャッター時にオートアイリスからオートシャッターに制御方法を切り換えるF値を設定する
Zebra ゼブラ表示に関する設定を行います。	Zebra Select	**1**/2/BOTH	ゼブラ表示の種類（ゼブラ1、ゼブラ2、または両方）を選択する
	Zebra1 Level	50%～**70%**～107%	ゼブラ1を表示するレベルを設定する
	Zebra1 Aperture Level	1～**10%**～20%	ゼブラ1のアパーチャーレベルを設定する
	Zebra2 Level	52%～**100%**～109%	ゼブラ2を表示するレベルを設定する

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Display On/Off ビューファインダー画面に表示する項目を選択します。	Video Level Warnings	**On**/Off	映像が明るすぎる場合または暗すぎる場合の警告表示をオン／オフする
	Brightness Display	On/**Off**	映像の明るさを示す数値の表示をオン／オフする
	Histogram Display	On/**Off**	映像の信号レベル分布を示すヒストグラム表示をオン／オフする（HDモード時のみ）
	Lens Info	**Off**/Meter/Feet	被写界深度を表示する場合は単位をメートル（Meter）にするかフィート（Feet）にするかを選択、表示ない場合はOffを選択する
	Focus Position	**On**/Off	レンズのフォーカスポジション表示をオン／オフする
	Zoom Position	**On**/Off	レンズのズームポジション表示をオン／オフする
	Audio Level Meter	**On**/Off	オーディオレベルメーターの表示をオン／オフする
	Timecode	**On**/Off	タイムデータ（タイムコード、ユーザービット、カウンター、デュレーション）表示をオン／オフする
	Battery Remain	**On**/Off	バッテリー残量／入力電圧表示をオン／オフする
	Media Remain	**On**/Off	メディア残量表示をオン／オフする
	TLCS Mode	**On**/Off	TLCS動作モード表示をオン／オフする
	Focus Mode	**On**/Off	フォーカス動作モード表示をオン／オフする
	White Balance Mode	**On**/Off	ホワイトバランスモード表示をオン／オフする
	Filter Position	**On**/Off	NDフィルター設定の表示をオン／オフする
	Iris Position	**On**/Off	アイリスポジション表示をオン／オフする
	Gain Setting	**On**/Off	ゲイン設定表示をオン／オフする
	Shutter Setting	**On**/Off	シャッターモードとシャッタースピードの表示をオン／オフする
	Color Temp	**On**/Off	色温度表示をオン／オフする
	Video Format	**On**/Off	ビデオフォーマット表示をオン／オフする
	System Line	**On**/Off	システムライン表示をオン／オフする
	Rec Mode	**On**/Off	特殊記録モード表示（S&Q、Interval、Frame Rec、Picture Cache Rec）をオン／オフする
	Extender	**On**/Off	レンズエクステンダー表示をオン／オフする
	WRR RF Level	On/**Off**	デジタルワイヤレスレシーバーの受信レベルの表示をオン／オフする
	Clip Number(PB)	**On**/Off	クリップ情報の表示をオン／オフする

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Auto Iris オートアイリスに関する設定を行います。	Iris Override	On/**Off**	絞りを開きぎみまたは閉じぎみにする設定をオン／オフする
	Iris Speed	−99～**±0**～+99	制御スピード（映像の変化に対する反応速度）を設定する（値が大きいほど反応は速くなる）
	Clip High light	On/**Off**	高輝度部の検出を無視して、高輝度に対する反応を鈍くさせる機能をオン／オフする
	Iris Window	**1**/2/3/4/5/6/Var	オートアイリス検出ウィンドウの種類を選択する **Var**：可変
	Iris Window Indication	On/**Off**	オートアイリス検出ウィンドウの枠をマーカーで表示する機能をオン／オフする
White Setting ホワイトバランス調整に関する設定を行います。	White Switch<B>	**Memory**/ATW	WHITE BALスイッチの設定がBの場合の動作モードを設定する **Memory**：オートホワイトバランス **ATW**：自動追尾ホワイトバランス
	Shockless White	Off/**1**/2/3	WHITE BALスイッチ切り換え時の反応速度を設定する（Offは瞬時に反応、1、2、3の中では1が最も反応が速い）
	ATW Speed	1/2/**3**/4/5	White Switch<B>の設定がATWの場合の反応速度を設定する（1が最も反応が速い）
	AWB Fixed Area	On/**Off**	オートホワイトバランスを画面中央部で実行する機能をオン／オフする **On**：画面の高さおよび幅の25%にあたる範囲で実行 **Off**：画面の高さおよび幅の70%にあたる範囲で実行
	Filter White Memory	On/**Off**	FILTERつまみのポジションごとにホワイトバランスメモリー領域を設定する機能をオン／オフする **On**：フィルターポジションごとにホワイトバランスメモリーを設定 **Off**：フィルターポジションにかかわりなくA/Bのメモリーを使用

OPERATION			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Offset White ホワイトバランスオフセット値に関する設定を行います。	Offset White<A>	On/**Off**	メモリー Aのホワイトバランスにオフセット値を付加する（On）か付加しないか（Off）を選択する
	Warm Cool <A>	目安の色温度を表示	Offset White<A>がOnの場合に、メモリー Aのホワイトバランスに付加するオフセットを色温度で設定する（オフセットの色温度が高いと誤差が大きくなるため実際の映像を見ながら調整）
	Warm Cool Balance<A>	−99〜**±0**〜+99	Warm Cool <A>の設定で希望の映像が得られなかった場合に、さらに細かく色温度を設定する
	Offset White<B>	On/**Off**	OnにするとここでOで調整したオフセットがBチャンネルのホワイトバランスに付加される。
	Warm Cool <B>	目安の色温度を表示	Offset White<B>がOnの場合に、メモリー Aのホワイトバランスに付加するオフセットを色温度で設定する（オフセットの色温度が高いと誤差が大きくなるため実際の映像を見ながら調整）
	Warm Cool Balance<B>	−99〜**±0**〜+99	Warm Cool <B>の設定で希望の映像が得られなかった場合に、さらに細かく色温度を設定する
Shutter Select シャッタースピードに関する設定を行います。	Shutter Select	**Second**/Degree	シャッタースピードの選択方法を設定する **Second**：秒単位で選択する **Degree**：角度単位で選択する
Time Zone 時差を設定します。	Zone	−12:00〜**+0.00**〜+14:00（30分単位）	UTC（グリニッジ標準時）からの時差を30分単位で設定する

OPERATION

項目	細目	選択肢	内容
Clip クリップの名称や管理に関する設定を行います。 **ご注意** クリップ名の最初の文字を「.」の記号にしないでください。 クリップ名の最初の文字が「.」になっているクリップは、WindowsやMacintosh用アプリケーションソフトウェアで閲覧できません。	Title Prefix	文字入力	クリップ名のタイトル部分（4～46文字の英数字）を設定する。 現在設定されているタイトルが8文字以下の場合は、全文字が表示される。8文字以上の場合は、先頭から7文字目までが表示され、8文字目の位置に“…”の記号が表示される。 Character Set画面を呼び出す。 **Character Set画面の構成** • 文字選択エリア（3行） Title Prefixのカーソル位置に挿入する文字を選択する。 !#$%()+.-.;=@[]^_~0123456789 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ • カーソル操作エリア（1行） **Space**：カーソル位置の文字をスペースに変更する **INS**：カーソル位置にスペースを挿入する **DEL**：カーソル位置の文字を削除する ←：カーソルを左に移動する →：カーソルを右に移動する **ESC**：変更をキャンセルして通常メニューに戻る **END**：変更を実行して通常メニューに戻る • Title Prefix設定エリア（1行） タイトルを入力するエリア **タイトルを設定するには** **1** MENUつまみを回すか、矢印ボタンを押して、文字選択エリアからTitle Prefix設定エリアのカーソル位置に入れる文字を選択（ハイライト表示）し、MENUつまみまたはSETボタンを押す。（選択した文字が入り、カーソルが右に移動する。） **2** 手順**1**を繰り返し、タイトルを設定する。（必要に応じて、Space、INS、DELを使用する。） **3** タイトル名の設定が終わったら、ENDを選択してCharacter Set画面を閉じる。
	Number Set	0001～9999	クリップ名の番号部分（4桁）を設定する
	Update	Media<A>/ Media<B>	選択しているスロット内のメディアに記録された管理ファイルを更新する（Executeで実行）

PAINTメニュー

PAINT			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Switch Status 各種補正機能とテスト信号をオン／オフします。	Gamma	**On**/Off	ガンマ補正機能をオン／オフする
	Black Gamma	On/**Off**	ブラックガンマ補正機能をオン／オフする
	Matrix	**On**/Off	リニアマトリクスおよびユーザーマトリクス補正機能全体をオン／オフする
	Knee	**On**/Off	ニー補正機能をオン／オフする
	White Clip	**On**/Off	ホワイトクリップ補正機能をオン／オフする
	Detail	**On**/Off	ディテール補正機能をオン／オフする
	Aperture	**On**/Off	アパーチャー補正機能をオン／オフする
	Flare	**On**/Off	フレア補正機能をオン／オフする
	Test Saw	On/**Off**	テスト信号をオン／オフする
White 色温度を設定して、手動でホワイトバランス調整を行います。	Color Temp <A>	1500K～**3200K**～50000K（可変範囲は目安）	メモリー Aに保存されたホワイトバランスの色温度を表示する
	Color Temp BAL <A>	−99～**±0**～+99	メモリー Aに保存されたホワイトバランスのゲイン値（Rゲイン、Bゲイン連動）を設定する
	R Gain <A>	−99～**±0**～+99	メモリー Aに保存されたホワイトバランスのRゲイン値を設定する
	B Gain <A>	−99～**±0**～+99	メモリー Aに保存されたホワイトバランスのBゲイン値を設定する
	Color Temp <B>	1500K～**3200K**～50000K（可変範囲は目安）	メモリー Bに保存されたホワイトバランスの色温度を表示する
	Color Temp BAL <B>	−99～**±0**～+99	メモリー Bに保存されたホワイトバランスのゲイン値（Rゲイン、Gゲイン連動）を設定する
	R Gain <B>	−99～**±0**～+99	メモリー Bに保存されたホワイトバランスのRゲイン値を設定する
	B Gain <B>	−99～**±0**～+99	メモリー Bに保存されたホワイトバランスのBゲイン値を設定する
Black ブラックレベル（光があたっていないときの映像のレベル）を設定します。ブラックレベルを調整して、黒を浮かせる、黒を沈めるといった絵作りが可能です。	Master Black	−99～**±0**～+99	マスターブラックレベルを設定する
	R Black	−99～**±0**～+99	Rブラックレベルを設定する
	B Black	−99～**±0**～+99	Bブラックレベルを設定する

PAINT			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Flare フレア補正に関する設定を行います。 フレアは、画面上の明るい部分の影響を受けて映像のレベル全体が上がってしまい、黒い部分が明るくなる現象で、レンズ内部での光の乱反射により発生します。	Flare	**On**/Off	フレア補正機能をオン／オフする
	Master Flare	−99〜**±0**〜+99	マスターフレア補正レベルを設定する
	R Flare	−99〜**±0**〜+99	Rフレア補正レベルを設定する
	G Flare	−99〜**±0**〜+99	Gフレア補正レベルを設定する
	B Flare	−99〜**±0**〜+99	Bフレア補正レベルを設定する
Gamma ガンマ補正に関する設定を行います。 ガンマ補正により、画面のコントラストを調整して、映像の印象を大きく変えることができます。	Gamma	**On**/Off	ガンマ補正機能をオン／オフする
	Step Gamma	0.35〜**0.45**〜0.90（0.05ステップ）	ガンマ補正値を0.05ステップで設定する
	Master Gamma	−99〜**±0**〜+99	マスターガンマレベルを設定する
	R Gamma	−99〜**±0**〜+99	Rガンマレベルを設定する
	G Gamma	−99〜**±0**〜+99	Gガンマレベルを設定する
	B Gamma	−99〜**±0**〜+99	Bガンマレベルを設定する
	Gamma Select	Gamma Categoryの選択により変わる（「内容」欄参照）	ガンマ補正に使用するガンマテーブルを選択する **Gamma CategoryがSTDの場合** **1 DVW**：DVWカムコーダー相当 **2 ×4.5**：×4.5ゲイン **3 ×3.5**：×3.5ゲイン **4 240M**：SMPTE-240M相当 **5 R709**：ITU-R709相当（初期設定） **6 ×5.0**：×5.0ゲイン **Gamma CategoryがHGの場合** **1 3250**：325%のビデオ入力を100%のビデオ出力に圧縮する **2 4600**：460%のビデオ入力を100%のビデオ出力に圧縮する **3 3259**：325%のビデオ入力を109%のビデオ出力に圧縮する **4 4609**：460%のビデオ入力を109%のビデオ出力に圧縮する（初期設定）
	Gamma Category	**STD**/HG	スタンダードガンマ（STD）とハイパーガンマ（HG）のどちらを使用するか選択する
Black Gamma ブラックガンマ補正に関する設定を行います。 ブラックガンマ補正により、映像の黒または黒に近い（暗い）部分の階調や色合いが再現することができます。	Black Gamma	On/**Off**	ブラックガンマ補正機能をオン／オフする
	Gamma Level	−99〜**±0**〜+99	マスターブラックガンマレベルを設定する
	Range	Low/L.Mid/H.Mid/**High**	ブラックガンマ補正の有効範囲を選択する **LOW**：0〜3.6 % **L.MID**：0〜7.2 % **H.MID**：0〜14.4 % **HIGH**：0〜28.8 %

PAINT			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Knee ニー補正に関する設定を行います。 ニー補正は、映像の明るい部分を記録／出力する映像のダイナミックレンジの上限に応じて圧縮し、白つぶれを防ぐ処理です。ニーをかけ始める信号レベルを「ニーポイント」、ニーによる圧縮の傾きを「ニースロープ」と呼びます。	Knee	**On**/Off	ニー補正機能をオン／オフする
	Knee Point	50.0%～**90.0%**～109.0%	ニーポイントを設定する
	Knee Slope	－99～**±0**～＋99	ニースロープを設定する
	Knee Saturation	**On**/Off	ニーサチュレーション機能をオン／オフする
	Knee Saturation Level	－99～**±0**～＋99	ニーサチュレーションレベルを設定する
White Clip ホワイトクリップ調整に関する設定を行います。 ホワイトクリップは、ビデオ出力信号の最大レベルに制限をかける処理です。ビデオ出力信号の最大値を「ホワイトクリップレベル」と呼びます。	White Clip	**On/**Off	ホワイトクリップ調整機能をオン／オフする
	Level	90.0%～**109.0%**	ホワイトクリップレベルを設定する

PAINT			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Detail(HD Mode)/ Detail(SD Mode) HDモード時またはSDモード時のディテール調整に関する設定を行います。 ディテール調整は、被写体の輪郭部分にディテール信号を加えて輪郭を強調し、クリアな映像を作成する処理です。	Detail	**On**/Off	ディテール調整機能をオン／オフする
	Level	−99〜**±0**〜+99	ディテールレベルを設定する
	H/V Ratio	−99〜**±0**〜+99	Hディテールレベルと Vディテールレベルのミックス比を設定する
	Crispening	−99〜**±0**〜+99	クリスプニングレベルを設定する
	Level Depend	**On**/Off	レベルディペンド調整機能をオン／オフする
	Level Depend Level	−99〜**±0**〜+99	レベルディペンドレベルを設定する
	Frequency	−99〜**±0**〜+99	Hディテール信号の中心周波数を設定する（値を大きくするほどディテールは細くなる）
	Knee Aperture	**On**/Off	ニーアパーチャー補正機能をオン／オフする
	Knee Aperture Level	−99〜**±0**〜+99	ニーアパーチャーレベルを設定する
	Limit	−99〜**±0**〜+99	白側、黒側両方向のディテールリミッターを設定する
	White Limit	−99〜**±0**〜+99	白側のディテールリミッターを設定する
	Black Limit	−99〜**±0**〜+99	黒側のディテールリミッターを設定する
	V-BLK Limit	−99〜**±0**〜+99	黒側のVディテールリミッターを設定する
	V Detail Creation	NAM/G/R+G/**Y**	Vディテール信号を生成するためのソース信号を選択する **NAM**：R信号から作られたVディテール信号とG信号から作られたVディテール信号とB信号から作られたVディテール信号のうち最もレベルの高い信号 **G**：G信号 **G+R**：G信号とR信号を1：1で合成した信号 **Y**：Y信号
Aperture アパーチャー補正に関する設定を行います。 アパーチャー補正は、ビデオ信号に、高周波数のアパーチャー信号を加えて周波数特性による劣化を補正し、解像度を高める処理です。	Aperture	**On**/Off	アパーチャー補正機能をオン／オフする
	Level	−99〜**±0**〜+99	アパーチャーレベルを設定する

PAINT			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Skin Detail スキンディテール補正に関する設定を行います。スキンディテール補正は、人物の肌をきれいに見せるなどの目的で、特定の色（肌色）の範囲を選んでディテールレベルを増減させる処理です。	Skin Detail	On/**Off**	スキンディテール補正機能をオン／オフする
	Area Detection	色検出画面	スキンディテール補正の対象となる色を検出する
	Area Indication	On/**Off**	スキンディテール補正の対象となる色のエリアにゼブラを表示する機能をオン／オフする
	Level	−99〜**±0**〜+99	スキンディテールレベルを設定する
	Saturation	−99〜**±0**〜+99	スキンディテール補正の対象となる色の飽和度（サチュレーション）を設定する
	Hue	**0**〜359	スキンディテール補正の対象となる色の色相（ヒュー）を設定する
	Width	0〜**40**〜90	スキンディテール補正の対象となる色の色相の範囲を設定する
Matrix マトリクス補正に関する設定を行います マトリクス補正により、映像の色味、鮮やかさを調整することができます。「プリセットマトリクス」としてあらかじめ用意されたパラメーターセットから目的に合うマトリクスを選択したり、「ユーザーマトリクス」として自分でパラメーターを設定することができます。	Matrix	**On**/Off	マトリクス補正機能をオン／オフする
	Preset Matrix	**On**/Off	プリセットマトリクス機能をオン／オフする
	Preset Select	1/2/3/4/5/**6**	プリセットマトリクスを選択する **1**：SMPTE-240M相当 **2**：ITU-709相当 **3**：SMPTE WIDE相当 **4**：SD相当 **5**：EBU相当 **6**：Standard
	User Matrix	On/**Off**	ユーザーマトリクス補正機能をオン／オフする
	User Matrix R-G	−99〜**±0**〜+99	R-Gのユーザーマトリクスを任意に設定する
	User Matrix R-B	−99〜**±0**〜+99	R-Bのユーザーマトリクスを任意に設定する
	User Matrix G-R	−99〜**±0**〜+99	G-Rのユーザーマトリクスを任意に設定する
	User Matrix G-B	−99〜**±0**〜+99	G-Bのユーザーマトリクスを任意に設定する
	User Matrix B-R	−99〜**±0**〜+99	B-Rのユーザーマトリクスを任意に設定する
	User Matrix B-G	−99〜**±0**〜+99	B-Gのユーザーマトリクスを任意に設定する

PAINT			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Multi Matrix マルチトリクス補正に関する設定を行います。 マルチマトリクス補正は、16軸の色相（Hue）空間で飽和度（Saturation）を設定します。	Multi Matrix	On/**Off**	マルチマトリクス補正機能をオン／オフする
	Area Indication	On/**Off**	マルチマトリクス補正の対象となる色のエリアにゼブラを表示する機能をオン／オフする
	Color Detection	色検出画面	マルチマトリクス補正の対象となる色を検出する
	Axis	**B**/B+/MG−/MG/MG+/R/R+/YL−/YL/YL+/G−/G/G+/CY/CY+/B−	マルチマトリクス補正の対象となる色（16軸モード）を設定する
	Hue	−99～**±0**～+99	マルチマトリクス補正の対象となる色の色相（ヒュー）を16軸モードごとに設定する
	Saturation	−99～**±0**～+99	マルチマトリクス補正の対象となる色の飽和度（サチュレーション）を16軸モードごとに設定する
V Modulation Vモジュレーションシェーディング補正に関する設定を行います。 レンズとプリズムの関係で発生する垂直方向の感度の傾きを補正します。	V Modulation	**On**/Off	Vモジュレーションシェーディング補正機能をオン／オフする
	Master V Modulation	−99～**±0**～+99	マスター Vモジュレーションレベルを設定する
	R V Modulation	−99～**±0**～+99	R信号のVモジュレーションレベルを設定する
	G V Modulation	−99～**±0**～+99	G信号のVモジュレーションレベルを設定する
	B V Modulation	−99～**±0**～+99	B信号のVモジュレーションレベルを設定する
Low Key Saturation ローキーサチュレーション補正に関する設定を行います。 映像の暗い部分の色の濃さだけを補正できます。	Low Key Saturation	On/**Off**	ローキーサチュレーション補正機能をオン／オフする
	Level	−99～**±0**～+99	低輝度エリアの色の飽和度（サチュレーション）を設定する
	Range	Low/L.Mid/H.Mid/**High**	ローキーサチュレーション補正を有効にする輝度レベルを選択する

MAINTENANCEメニュー

MAINTENANCE			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
White Shading ホワイトシェーディング補正に関する設定を行います。 ホワイトシェーディングはレンズの特性により発生する明るい部分の輝度ムラや色ムラで、レンズごとに補正が必要です。	Channel Select	**Red**/Green/Blue	ホワイトシェーディング補正の対象を選択する
	R/G/B White H Saw	−99～**±0**～+99	水平方向のSAWホワイトシェーディング補正値を設定する
	R/G/B White H Para	−99～**±0**～+99	水平方向のパラボラホワイトシェーディング補正値を設定する
	R/G/B White V Saw	−99～**±0**～+99	垂直方向のSAWホワイトシェーディング補正値を設定する
	R/G/B White V Para	−99～**±0**～+99	垂直方向のパラボラホワイトシェーディング補正値を設定する
	White Saw/Para	**On**/Off	ホワイトシェーディングのSAW／パラボラ補正機能をオン／オフする

MAINTENANCE			
項目	細目	選択肢	内容
Battery バッテリーに関する設定を行います。	Info Before End	**5%**/10%/15%...95%/100%	バッテリーパックBP-GL65/GL95使用時に「Battery Near End」を表示するしきい値を設定する
	Info End	**0%**/1%/2%/3%/4%/5%	バッテリーパックBP-GL65/GL95使用時に「Battery End」を表示するしきい値を設定する
	Sony Before End	**11.5V**～17V（0.1Vステップ）	バッテリーパックBP-L60S/L80S使用時に「Battery Near End」を表示するしきい値を設定する
	Sony End	**11.0V**～11.5V（0.1Vステップ）	バッテリーパックBP-L60S/L80S使用時に「Battery End」を表示するしきい値を設定する
	Other Before End	11.5V～**11.8V**～17.0V（0.1Vステップ）	ソニー製以外のバッテリーパック使用時に「Battery Near End」を表示するしきい値を設定する
	Other End	**11.0V**～14.0V（0.1Vステップ）	ソニー製以外のバッテリーパック使用時に「Battery End」を表示するしきい値を設定する
	DC In Before End	11.5V～**11.8V**～17.0V（0.1Vステップ）	DC IN端子に外部電源を接続している場合に「Battery Near End」を表示するしきい値を設定する
	DC In End	**11.0V**～14.0V（0.1Vステップ）	DC IN端子に外部電源を接続している場合に「Battery End」を表示するしきい値を設定する
	Detected Battery	Info/Sony/Other/DC IN	バッテリーの種類を自動判別した結果を表示する
	Type Detection	**Auto**/Other	**Auto**：バッテリーの種類を自動判別する **Other**：バッテリーの種類を「Other」に固定して判別する
	Segment No.10	11.0V～**17.0V**（0.1Vステップ）	「Other」判定時、バッテリー残量表示（35ページ参照）の各残量セグメントが消灯する電圧のしきい値を設定する（設定した値未満で消灯する）
	Segment No.9	11.0V～**16.0V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.8	11.0V～**15.0V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.7	11.0V～**14.0V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.6	11.0V～**13.5V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.5	11.0V～**13.0V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.4	11.0V～**12.5V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.3	11.0V～**12.0V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.2	11.0V～**11.5V**～17.0V（0.1Vステップ）	
	Segment No.1	**11.0V**～17.0V（0.1Vステップ）	

MAINTENANCE 項目	細目	選択肢	内容
Audio オーディオに関する設定を行います。	Front MIC Select	Mono/**Stereo**	フロントマイクをモノラル（Mono）にするか、ステレオ（Stereo）にするかを選択する
	Audio CH3/4 Mode	Ch1/2 / **Switch**	AUDIO IN CH3/CH4端子の入力信号を選択する **CH1/2**：AUDIO IN CH1/ CH2端子と同じ信号 **Switch**：AUDIO IN CH3/CH4スイッチで選択された入力信号
	Front MIC CH1 Ref	−70dB/−60dB/**−50dB**/−40dB/−30dB/−20dB	フロントマイクのチャンネル1の基準入力レベルを選択する
	Front MIC CH2 Ref	−70dB/−60dB/**−50dB**/−40dB/−30dB/−20dB	フロントマイクのチャンネル2の基準入力レベルを選択する
	Rear MIC CH1 Ref	−70dB/**−60dB**/−50dB/−40dB/−30dB/−20dB	AUDIO IN CH1スイッチの設定がMICの場合の基準入力レベルを選択する
	Rear MIC CH2 Ref	−70dB/**−60dB**/−50dB/−40dB/−30dB/−20dB	AUDIO IN CH2スイッチの設定がMICの場合の基準入力レベルを選択する
	Line Input Ref	**＋4dB**/0dB/−3dB/EBUL	AUDIO IN CH1/CH2スイッチの設定がLINEの場合の基準入力レベルを選択する
	Min Alarm Volume	**Off**/Set	ALARMつまみを絞りきったときの音量を選択する **OFF**：ほぼ聞こえない **SET**：ある程度は聞こえる
	Speaker Attenuate	**Off**/3dB/6dB/9dB/12dB	モニタースピーカーからの音量を選択する（イヤホンの音量には影響しない）
	Headphone Out	**Mono**/Stereo	イヤホンをモノラル（Mono）にするか、ステレオ（Stereo）にするかを選択する
	Reference Level	**−20dB**/−18dB/−16dB/−12dB/EBUL	1kHzテスト信号の出力レベルを設定する
	Reference Out	**0dB**/＋4dB/−3dB/EBUL	基準入力レベルに対する出力レベルを設定する
	CH1&2 AGC Mode	**Mono**/Stereo	チャンネル1、2に記録するアナログオーディオ信号の入力レベルの自動調整を、各チャンネルで独立して行うか（Mono）、ステレオモードで行うか（Stereo）を選択する
	CH3&4 AGC Mode	**Mono**/Stereo	チャンネル3、4に記録するアナログオーディオ信号の入力レベルの自動調整を、各チャンネルで独立して行うか（Mono）、ステレオモードで行うか（Stereo）を選択する
	AGC Spec	**−6dB**/−9dB/−12dB/−15dB/−17dB	AGCの特性（飽和レベル）を選択する
	Limiter Mode	**Off**/−6dB/−9dB/−12dB/−15dB/−17dB	オーディオ入力レベルの手動調整時、大きな入力信号に対するリミッター特性(飽和レベル)を選択する リミッターを使用しない場合はOffを選択する
	Output Limiter	On/**Off**	オーディオ出力リミッターをオン／オフする
	CH1 Wind Filter	On/**Off**	チャンネル1の風音低減フィルターをオン／オフする
	CH2 Wind Filter	On/**Off**	チャンネル2の風音低減フィルターをオン／オフする

MAINTENANCE			
項目	細目	選択肢	内容
Audio オーディオに関する設定を行います。	CH3 Wind Filter	On/**Off**	チャンネル3の風音低減フィルターをオン／オフする
	CH4 Wind Filter	On/**Off**	チャンネル4の風音低減フィルターをオン／オフする
	Audio SG (1KHz)	On/**Off**/Auto	カラーバーモード時に1kHzのテスト信号を出力するか（On）出力しないか（Off）を設定する **Auto**：AUDIO SELECT CH1スイッチの設定がAUTOの場合のみテスト信号を出力する
	MIC CH1 Level	Side1/**Front**/ Front+Side1	フロントマイクの入力音声をチャンネル1に記録する場合に、どのつまみで音声レベルを調節するかを選択する **Side1**：サイドパネルのLEVELつまみ（左） **Front**：フロントパネルのMIC LEVELつまみ **Front+Side1**：LEVELつまみ（左）とMIC LEVELつまみを連動させる
	MIC CH2 Level	Side2/**Front**/ Front+Side2	フロントマイクの入力音声をチャンネル2に記録する場合に、どのつまみで音声レベルを調節するかを選択する **Side2**：サイドパネルのLEVELつまみ（右） **Front**：フロントパネルのMIC LEVELつまみ **Front+Side2**：LEVELつまみ（右）とMIC LEVELつまみを連動させる
	Rear1/WRR Level	**Side1**/Front/ Front+Side1	ワイヤレスマイクとリアパネルのAUDIO IN CH1端子に接続した機器をどのつまみで音声レベルを調節するかを選択する **Side1**：サイドパネルのLEVELつまみ（左） **Front**：フロントパネルのMIC LEVELつまみ **Front+Side1**：LEVELつまみ（左）とMIC LEVELつまみを連動させる
	Rear2/WRR Level	**Side2**/Front/ Front+Side2	ワイヤレスマイクとリアパネルのAUDIO IN CH2端子に接続した機器をどのつまみで音声レベルを調節するかを選択する **Side2**：サイドパネルのLEVELつまみ（右） **Front**：フロントパネルのMIC LEVELつまみ **Front+Side2**：LEVELつまみ（右）とMIC LEVELつまみを連動させる
	Audio CH3 Level	**Side3**/Front/ Front+Side3	チャンネル3に記録される音声レベルをどのつまみで調節するかを選択する **Side3**：サイドパネルのLEVELつまみ **Front**：フロントパネルのMIC LEVELつまみ **Front+Side3**：LEVELつまみとMIC LEVELつまみを連動させる

MAINTENANCE 項目	細目	選択肢	内容
Audio オーディオに関する設定を行います。	Audio CH4 Level	**Side4**/Front/Front+Side4	チャンネル4に記録される音声レベルをどのつまみで調節するかを選択する **Side4**：サイドパネルのLEVELつまみ **Front**：フロントパネルのMIC LEVELつまみ **Front+Side4**：LEVELつまみとMIC LEVELつまみを連動させる
WRR Setting ワイヤレスチューナーに関する設定を行います。	WRR Valid CH Sel	**All**/CH1	ワイヤレスレシーバーのチャンネル1、2とも有効にするか（All）、チャンネル1のみを有効にするか（CH1）を選択する
	WRR CH Select	**TX1**/TX2	内容をメニューに表示する受信チャンネルを選択する **TX1**：チャンネル1の内容を表示する **TX2**：チャンネル2の内容を表示する
	WRR Delay Comp	**On**/Off	ワイヤレス入力音声の遅延補正機能を有効にするか（On）無効にするか（Off）を選択する（Onを選択するとすべてのE-E出力の音声が約8ms遅延する）
	TX	---	WRR CH SELECTで選択したチャンネルで受信している送信機の名前を表示する
	TX Audio Peak	**---**/Peak	WRR CH SELECTで選択したチャンネルで受信している送信機のAFレベルがピークオーバーかどうかを表示する
	TX Input Level	**---**/Mic/Line	WRR CH SELECTで選択したチャンネルで受信している送信機の入力レベルがマイク（Mic）とライン（Line）のどちらに設定されているかを表示する
	TX ATT Level	---	WRR CH SELECTで選択したチャンネルで受信している送信機のATTレベルを設定する(設定値の可変範囲は、受信している送信機によって異なる場合がある)
	TX LCF Freq	---	WRR CH SELECTで選択したチャンネルで受信している送信機のローカットフィルター周波数を設定する(設定値の可変範囲は、受信している送信機によって異なる場合がある)
	TX System Delay	**Auto**/0.0ms～8.0ms	音声の遅延量を設定する **Auto**：ワイヤレスレシーバーから送られてくる音声の遅延量が0になるように自動的に遅延量を補正する **0.0ms～8.0ms**：オーディオミキサーなどを介して複数のワイヤレスシステムを使用している場合に、予測されるワイヤレスシステムの遅延量を設定する

MAINTENANCE			
項目	細目	選択肢	内容
Timecode タイムコードに関する設定を行います。	TC Out	**Auto**/Generator	タイムコード出力を選択する **Auto**：記録時はタイムコードジェネレーターの値を出力し、再生時はタイムコードリーダーの値を出力する **Generator**：記録時、再生時ともタイムコードジェネレーターの値を出力する
	DF/NDF	**DF**/NDF	Countryの設定がPAL Area以外の場合に、ドロップフレームモード（DF）またはノンドロップフレームモード（NDF）を選択する
	LTC UBIT	**Fix**/Time	LTCのユーザービットに記録するデータを設定する **Fix**：ユーザーが設定したデータを記録する **Time**：現在の時刻を記録する
	Counter Display	**Counter**/Duration	ビューファインダーに表示されるカウンター値のリセットの方法を選択する。 **Counter**：RESETボタンを押すまで積算される **Duration**：記録開始ごとにリセットされる
Essence Mark ショットマークとサムネイルの代表画に関する設定を行います。	Ret Shot Mark 1	**On**/Off	レンズのRETボタンを使用してShot Mark1を入力するかどうかを設定する。
	Ret Shot Mark 2	**On**/Off	レンズのRETボタンを使用してShot Mark2を入力するかどうかを設定する。

MAINTENANCE 項目	細目	選択肢	内容
Camera Config カムコーダーの各種動作に関する設定を行います。	Rec Tally Blink	**On**/Off	バッテリー残量およびメディア残量がわずかになったときのタリー点滅をオン／オフする
	Rec Review	**3sec**/10sec/Clip	レックレビュー時間を選択する **Clip**：直前に記録したクリップ全体をレックレビューする
	HD SDI Remote I/F	**Off**/Chara/G-Tally/R-Tally	HD/SD SDI OUT端子に接続された外部機器に対する記録動作制御機能を使用するかどうか設定し(HDSDI出力時)、使用する場合は外部機器が記録状態であることの表示方法を選択する **Off**：記録動作制御機能を使用しない **Chara**：ビューファインダー画面上の外部機器制御表示で表示する **G-Tally**：ビューファインダー内のTALLY（グリーンタリー）ランプで表示する **R-Tally**：ビューファインダー内のREC（記録／レッドタリー）ランプで表示する
	Color Bars Select	**ARIB**/100%/75%	カラーバーの種類を選択する
	RM Common Memory	**On**/Off	リモートコントロールユニット接続時とローカル操作時で設定を共有するか（On）共有しないか（Off）を選択する
	RM Rec Start	**RM**/CAM/PARA	リモートコントロールユニット接続時にどちらの記録開始／停止ボタンを有効にするかを設定する **RM**：リモートコントロールユニット **CAM**：カムコーダー **PARA**：両方
	Image Invert	On/**Off**	画像の上下反転機能をオン／オフする
Preset White ホワイトバランスのプリセット値に関する設定を行います。	Color Temp<P>	1500K～**3200K**～50000K（可変範囲は目安）	ホワイトバランスのプリセット値を設定する
	Color Temp Balance<P>	－99～**±0**～＋99	Color Temp<P>で希望の映像が得られなかった場合に、さらに細かく色温度を設定する
	R Gain <P>	－99～**±0**～＋99	Rゲインのプリセット値を設定する
	B Gain <P>	－99～**±0**～＋99	Bゲインのプリセット値を設定する
	AWB Enable <P>	On/**Off**	WHITE BALスイッチがPRSTのとき、AWB（オートホワイトバランス）を実行する機能をオン／オフする

MAINTENANCE 項目	細目	選択肢	内容
White Filter フィルターに関する設定を行います。	ND Filter C.Temp	On/**Off**	電気的CCフィルターをNDフィルターに割り当てる機能をオン／オフする
	ND FLT C.Temp<1>	**3200K**/4300K/5600K/6300K	電気的CCフィルターをNDフィルターに割り当てるときの色温度を選択する
	ND FLT C.Temp<2-4>	3200K/4300K/**5600K**/6300K	電気的CCフィルターをNDフィルターに割り当てるときの色温度を選択する
	Electrical CC<A>	**3200K**/4300K/5600K/6300K	電気的CCフィルターの切り換え機能をアサイナブルスイッチに割り当てるときの色温度を選択する
	Electrical CC<B>	3200K/**4300K**/5600K/6300K	電気的CCフィルターの切り換え機能をアサイナブルスイッチに割り当てるときの色温度を選択する
	Electrical CC<C>	3200K/4300K/**5600K**/6300K/-----	電気的CCフィルターの切り換え機能をアサイナブルスイッチに割り当てるときの色温度を選択する Cを使わないときは----を選択する
	Electrical CC<D>	3200K/4300K/5600K/**6300K**/-----	電気的CCフィルターの切り換え機能をアサイナブルスイッチに割り当てるときの色温度を選択する Dを使わないときは----を選択する
Auto Iris2 オートアイリスに関する設定を行います。	Iris Window	**1**/2/3/4/5/6/Var	オートアイリス検出ウィンドウの種類を選択する **Var**：可変
	Iris Window Ind	On/**Off**	オートアイリス検出ウィンドウの枠をマーカーで表示する機能をオン／オフする
	Iris Level	−99〜**±0**〜+99	オートアイリスの目標値のレベルを調整する
	Iris APL Ratio	−99〜**±0**〜+99	オートアイリス検出値のピーク値と平均値のミックス比を設定する
	Iris Var Width	40〜**500**〜999	Iris Windowの設定がVarの場合に検出ウィンドウの幅を設定する
	Iris Var Height	70〜**500**〜999	Iris Windowの設定がVarの場合に検出ウィンドウの高さを設定する
	Iris Var H Position	−479〜**0**〜+479	Iris Windowの設定がVarの場合に検出ウィンドウの水平位置を設定する
	Iris Var V Position	−464〜**0**〜+464	Iris WindowがIris Windowの設定がVarの場合に検出ウィンドウの垂直位置を設定する
	Iris Speed	−99〜**±0**〜+99	制御スピード（映像の変化に対する反応速度）を設定する（値が大きいほど反応は速くなる）
	Clip High Light	On/**Off**	高輝度部の検出を無視して、高輝度に対する反応を鈍くさせる機能をオン／オフする
Flicker Reduce フリッカー補正機能に関する設定を行います。蛍光灯など周期的に輝度が変化する照明下で被写体を撮影したとき、記録フレームレートとの関係で発生するフリッカーを補正できます。	Mode	Auto/On/**Off**	フリッカー補正機能の動作を設定する。 **On**：常に動作させる **Auto**：フリッカーを検出すると動作する **Off**：動作させない
	Frequency	60Hz/50Hz	フリッカーの原因となっている照明の電源周波数に合わせる（工場出荷時の設定は、Countryの設定がPAL Areaの場合は50Hz、PAL Area以外の場合は60Hz）

MAINTENANCE 項目	細目	選択肢	内容
Genlock ゲンロックに関する設定を行います。	H Phase(HD)	−999〜**±0**〜+999	ゲンロック時のHD出力のH位相を設定する
	H Phase(SD)	−99〜**±0**〜+99	ゲンロック時のSD出力のH位相を設定する
	Reference	Internal/Genlock	本機が使用している基準信号の種類を表示する
ND Comp NDフィルターの色ずれ補正に関する設定を行います。 内蔵のNDフィルターはフィルターごとにごくわずか色が異なるため、NDフィルターを切り換えたときにホワイトバランスがずれることがあります。フィルターごとの色の差をあらかじめ補正値として保存しておき、自動的に色ずれを補正することができます。	ND Offset Adjust	On/**Off**	NDフィルターの色ずれ補正機能
	Clear ND Offset	Execute/Cancel	NDフィルターの色ずれ補正値をクリアする（Executeで実行する）
Lens オートフランジバック調整を実行します。	Auto FB Adjust	Execute/Cancel	対応レンズに対してのみオートフランジバック調整を実行する（Executeで実行する）
Trigger Mode 記録開始／停止トリガーに関する設定を行います。	i.LINK Trigger Mode	Internal/**Both**/External	記録開始／停止の操作を、SxSメモリーカードに対してのみ行う場合はInternal、i.LINK（HDV/DV）端子やHD/SD SDI OUT端子に接続した機器に対してのみ行う場合はExternal、SxSメモリーカードと外部機器の両方に対して行う場合はBothを選択する
Clock Set 内蔵時計を設定します。	Date/Time		現在の日時を設定する
	12H/24H	12H/**24H**	時刻の表示形式を12時間表示（12H）にするか24時間表示（24H）にするかを選択する
	Date Mode	**YYMMDD**/MMDDYY/DDMMYY	年月日の表示形式を選択する **YYMMDD**：年月日の順 **MMDDYY**：月日年の順 **DDMMYY**：日月年の順
Language メッセージの表示言語を選択します。	Language	**English**/Chinese	メッセージ表示言語を英語（English）にするか中国語（Chinese）にするかを選択する
Hours Meter デジタル時間計に関する設定を行います。	Hours(Sys)		積算使用時間を表示する（リセット不可）
	Hours(Reset)		積算使用時間を表示する（リセット可）
	Reset	Execute/Cancel	Hours(Reset)を0にリセットする（Executeで実行する）
Version 本機のバージョン表示およびバージョンアップを実行します。	Version		本機のソフトウェアバージョンを表示する（Vx.xx）
	Version Up	Execute/Cancel	本機をバージョンアップする（Executeで実行する） ご注意 SxSメモリーカードが挿入されていないときは選択できません。

FILEメニュー

FILE			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
All ALLファイルの操作に関する設定を行います。	Display Mode	**Date&Time**/Model Name	保存や呼び出し時に表示されるリストボックスに表示する項目を選択する
	All File Load	Execute/Cancel	ALLファイルを呼び出す（Executeで実行する）
	All File Save	Execute/Cancel	ALLファイルを保存する（Executeで実行する）
	File ID		ファイルに最大16文字の名前を付ける
	All Preset	Execute/Cancel	すべての項目をプリセット値に戻す（Executeで実行する）
	Store All Preset	Execute/Cancel	すべての項目について現在の設定値をプリセット値として保存する（Executeで実行する）
	Clear All Preset	Execute/Cancel	すべての項目のプリセット値をクリアする（Executeで実行する）
	3Sec Clr Preset	On/**Off**	MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをCANCEL/PRST側に3秒間押し上げたままにすると項目ごとにプリセット値がクリアされる機能をオン／オフする
Scene シーンファイルの操作に関する設定を行います。	□1	Standard	ファイル番号およびファイルID
	□2	Standard	ファイル番号およびファイルID
	□3	Standard	ファイル番号およびファイルID
	□4	Standard	ファイル番号およびファイルID
	□5	Standard	ファイル番号およびファイルID
	□Standard		標準設定値
	Display Mode	**Date&Time**/Model Name	保存や呼び出し時に表示されるリストボックスに表示する項目を選択する
	Scene Recall Mem	Execute/Cancel	内蔵メモリーからファイルを呼び出す（Executeで実行する）
	Scene Store Mem	Execute/Cancel	内蔵メモリーにファイルを保存する（Executeで実行する）
	Scene Recall SxS	Execute/Cancel	SxSメモリーカードからファイルを呼び出す（Executeで実行する）
	Scene Store SxS	Execute/Cancel	SxSメモリーカードにファイルを保存する（Executeで実行する）
	File ID		ファイルに最大16文字の名前を付ける

FILE			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Reference リファレンスファイルの操作に関する設定を行います。	Reference Store	Execute/Cancel	リファレンス項目の現在の状態を内部メモリーのリファレンスファイルに保存する（Executeで実行する）
	Reference Clear	Execute/Cancel	リファレンスファイルをクリアする（Executeで実行する）
	Reference Load	Execute/Cancel	SxSメモリーカードからファイルを呼び出す（Executeで実行する）
	Reference Save	Execute/Cancel	SxSメモリーカードにファイルを保存する（Executeで実行する）
	File ID		ファイルに最大16文字の名前を付ける
	Scene White Data	On/**Off**	Scene >Scene RecallまたはScene >Standardの実行時、ホワイトバランスのデータを読み込むかどうかを選択する

FILE			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Lens レンズスファイルの操作に関する設定を行います。	Display Mode	**Date&Time**/Model Name	保存や呼び出し時に表示されるリストボックスに表示する項目を選択する
	Lens Recall Mem	Execute/Cancel	内蔵メモリーからファイルを呼び出す（Executeで実行する）
	Lens Store Mem	Execute/Cancel	内蔵メモリーにファイルを保存する（Executeで実行する）
	Lens Recall SxS	Execute/Cancel	SxSメモリーカードからファイルを呼び出す（Executeで実行する）
	Lens Store SxS	Execute/Cancel	SxSメモリーカードにファイルを保存する（Executeで実行する）
	File ID		最後に呼び出したファイルに最大16文字の名前を付ける
	Source		選択しているファイルの番号が表示される
	Lens No Offset	Execute/Cancel	ファイルをクリアする（Executeで実行する）
	Lens Auto Recall	**Off**/On/Serial Number	シリアル通信対応レンズ装着時に、該当するレンズファイルを自動的に呼び出すかどうかを設定する **Off**：この機能を使用しない **On**：機種名に対応するレンズファイルを呼び出し、その内容を反映する **Serial Number**：シリアル番号の通信が可能なレンズの場合は、機種名とシリアル番号に対応するレンズファイルを呼び出し、その内容を反映する。シリアル番号の通信ができないレンズの場合は、機種名に対応するレンズファイルを呼び出す（Onに設定したときと同じ）
	Serial Number		装着されたシリアル通信対応レンズのシリアルナンバーが表示される（対応レンズのみ）
	Lens ID		装着されたシリアル通信対応レンズの機種名が表示される（対応レンズのみ）
	L Manufacturer		装着されたシリアル通信対応レンズのメーカー名が表示される（対応レンズのみ）
	M V Modulation	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルに垂直方向のSAWシェーディング補正値を設定する
	Lens Center H	−40〜**0**〜40	レンズファイルにセンターマーカーの水平位置を設定する

FILE			
項目	**細目**	**選択肢**	**内容**
Lens レンズスファイルの操作に関する設定を行います。	Lens Center V	−40〜**0**〜40	レンズファイルにセンターマーカーの垂直位置を設定する
	Lens R Flare	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルにRフレアレベルを設定する
	Lens G Flare	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルにGフレアレベルを設定する
	Lens B Flare	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルにBフレアレベルを設定する
	Lens W-R Offset	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルにRホワイトバランス補正値を設定する
	Lens W-B Offset	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルにBホワイトバランス補正値を設定する
	Shading Ch Sel	**Red**/Green/Blue	ホワイトシェーディング補正の対象を選択する。
	L R/G/B H Saw	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルに水平方向のSAWホワイトシェーディング補正値を設定する
	L R/G/B H Para	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルに水平方向のパラボラホワイトシェーディング補正値を設定する
	L R/G/B V Saw	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルに垂直方向のSAWホワイトシェーディング補正値を設定する
	L R/G/B V Para	−99〜**±0**〜+99	レンズファイルに垂直方向のパラボラホワイトシェーディング補正値を設定する

アサイナブルスイッチに機能を割り当てる

OPERATIONメニューのAssignable SWで、ASSIGN. 0～3スイッチ、ASSIGNABLE 4/5スイッチとCOLOR TEMP.ボタン、レンズのRETボタンに任意の機能を割り当てることができます。工場出荷時には、それぞれ下表に示す機能が割り当てられています。

スイッチ／ボタン	機能	Assignable SW の設定
ASSIGN. 0スイッチ	未設定	Off
ASSIGN. 1スイッチ	OPERATION >TLCSの設定に基づいてEZモードを実行する	EZ Mode
ASSIGN. 2スイッチ	未設定	Off
ASSIGN. 3スイッチ	未設定	Off
ASSIGNABLE 4スイッチ	未設定	Off
ASSIGNABLE 5スイッチ	未設定	Off
RETボタン	**記録中または再生中**：ショットマークを記録する **上記以外**：レックレビュー（再生可能な場合）	Lens RET
COLOR TEMP.ボタン	ホワイトバランスを5600Kのプリセット値でホワイトバランス調整を行う	Color Temp SW 5600K

ASSIGN. 0スイッチに割り当て可能な機能

Assignable SW の設定	機能	電源再投入時の状態
Off	未設定	–
Marker	すべてのマーカー表示をオン／オフする	設定を保持する
ATW Hold	ATW（自動追尾ホワイトバランス）によるホワイトバランス設定値を保持する	–
Picture Cache	ピクチャーキャッシュレックモードをオン／オフする	設定を保持する
Freeze Mix	フリーズミックスを実行する	–
Focus Mag	拡大フォーカス機能をオン／オフする	設定を保持しない
Zebra	ゼブラ表示をオン／オフする	設定を保持しない
Shot Mark1	ショットマーク1を書き込む	–
Shot Mark2	ショットマーク2を書き込む	–
OK Mark	OKマークを記録／削除する	–

ASSIGN. 2スイッチに割り当て可能な機能

ご注意

ASSIGN. 2スイッチに機能を割り当てた直後と記録フォーマットの切り換え直後は、その時点のスイッチの設定と本機の状態が一致しないことがあります。機能の割り当て後にASSIGN. 2スイッチを切り換えるか、電源を再投入すると一致します。

Assignable SW の設定	機能
Off	未設定
Front Mic	ステレオマイク接続時、ステレオ／モノラルを切り換える
Marker	すべてのマーカー表示をオン／オフする

Assignable SW の設定	機能
Picture Cache a)	ピクチャーキャッシュレックモードをオン／オフする
Zebra	ゼブラ表示をオン／オフする
Digital Extender	画面拡大機能をオン／オフする（デジタルエクステンダー用のオプション装着時のみ）

ご注意

a)Picture Cacheをオンすると、メニューのOPERATION >Rec Functionは無効（グレー表示）になり、設定できなくなります。

ASSIGN. 1/3スイッチ、ASSIGNABLE 4/5スイッチとCOLOR TEMP. ボタンに割り当て可能な機能

Assignable SW の設定	機能	電源再投入時の状態
Off	未設定	−
Front Mic	ステレオマイク接続時、ステレオ（オン）／モノラル（オフ）を切り換える	設定を保持する
Marker	すべてのマーカー表示をオン／オフする	設定を保持する
Last Clip Delete	直前に撮影したクリップを削除する	−
ATW	ATW（自動追尾ホワイトバランス）モードをオン／オフする	設定を保持しない
ATW Hold	ATWによるホワイトバランス設定値を保持する	−
EZ Mode	OPERATION >TLCSの設定に基づいてEZモードを実行する	設定を保持する
Turbo Gain	OPERATION >Gain Switch >Gain Turboの設定に基づいてターボゲインを実行する	設定を保持しない
Rec Review	レックレビューを実行する	−
Rec	記録開始／停止を実行する	−
Picture Cache	ピクチャーキャッシュレックモードをオン／オフする	設定を保持する
Freeze Mix	フリーズミックスを実行する	設定を保持しない
Spotlight	オートアイリスモードをスポットライトに設定／解除する	設定を保持する
Backlight	オートアイリスモードをバックライトに設定／解除する	設定を保持する
EVF Mode	ビューファインダー画面の白黒（オン）／カラー（オフ）を切り換える	設定を保持する
BRT Disp	輝度レベル表示をオン／オフする	設定を保持する
Histogram	ヒストグラム表示をオン／オフする	設定を保持する
Lens Info	被写界深度表示のオフ、メーター表示、フィート表示を切り換える	設定を保持する
Zoom Tele/Wide	シリアル通信対応レンズ使用時に、ASSIGNABLE 4にZoom Tele機能を、ASSIGNABLE 5にZoom Wide機能をそれぞれ割り当てる（<4>、<5>の設定時のみ表示する）	−
Zoom Wide/Tele	シリアル通信対応レンズ使用時に、ASSIGNABLE 4にZoom Wide機能を、ASSIGNABLE 5にZoom Tele機能をそれぞれ割り当てる（<4>、<5>の設定時のみ表示する）	−
Manual Focus Assist	マニュアルフォーカスアシスト機能をオン／オフする	設定を保持する
Focus Mag	拡大フォーカス機能をオン／オフする	設定を保持しない
Zebra	ゼブラ表示をオン／オフする	設定を保持しない

Assignable SW の設定	機能	電源再投入時の状態
Lens RET	**記録中または再生中**：ショットマークを記録する **上記以外**：レックレビュー（再生可能な場合）	−
Return Video a)	リターンビデオ信号を表示する	−
Shot Mark1	ショットマーク1を書き込む	−
Shot Mark2	ショットマーク2を書き込む	−
OK Mark	OKマークを記録／削除する	−
Color Temp SW 3200K	ホワイトバランスを3200Kのプリセット値でホワイトバランス調整を行う	設定を保持する
Color Temp SW 4300K	ホワイトバランスを4300Kのプリセット値でホワイトバランス調整を行う	設定を保持する
Color Temp SW 5600K	ホワイトバランスを5600Kのプリセット値でホワイトバランス調整を行う	設定を保持する
Color Temp SW 6300K	ホワイトバランスを6300Kのプリセット値でホワイトバランス調整を行う	設定を保持する
Electrical CC	ホワイトバランス調整値に対して電気的CCフィルターを切り換える（3200K/4300K/5600K/6300K）機能 スイッチ／ボタンを押すたびに 3200K→4300→5600K→6300Kと切り替わる Menu設定で変更可能（Electrical CC<A><B><C><D>で設定） **ご注意** MaintenanceメニューのWhite Filter >ND Filter C.TempがOnの場合は設定できません。 機能を割り当てたあとでND Filter C.TempをOnすると、そのアサイナブルスイッチは機能しなくなります。	設定を保持する
CC5600K	ホワイトバランス調整値に対して5600Kの電気的CCフィルターをかける	設定を保持する
Digital Extender a)	画面拡大機能をオン／オフする（デジタルエクステンダー用のオプション装着時のみ）	設定を保持しない

a)本バージョンでは無効です。

レンズのRETボタンに割り当て可能な機能

Assignable SW の設定	機能	電源再投入時の状態
Off	未設定	−
Lens RET	**記録中または再生中**：ショットマークを記録する **上記以外**：レックレビュー（再生可能な場合）	−
Return Video	リターンビデオ信号を表示する	−
Rec Review	レックレビューを実行する	−
Shot Mark1	ショットマーク1を書き込む	−
Shot Mark2	ショットマーク2を書き込む	−
OK Mark	OKマークを記録／削除する	−
Focus Mag	拡大フォーカス機能をオン／オフする	設定を保持しない

PMW-EX1Rと画質を合わせる

以下のメニュー設定を行うことにより、本機とPMW-EX1Rの画質を合わせることができます。

メニュー項目	設定	
	HD	SD
PAINT >Black Gamma	Black Gamma：OFF	Black Gamma：ON
		Gamma Level：−16
PAINT >Matrix	Preset Select：6	Preset Select：4
PAINT >Gamma	Gamma Select：5 R709	Gamma Select：4 240M

7章 ユーザー設定データの保存と呼び出し

設定の保存と呼び出し

セットアップメニューの設定内容は、本機の内蔵メモリーとSxSメモリーカードに保存することができます。このデータを使って、適切なセットアップ状態をすばやく再現できます。

設定データは、次のように分類されて保存されます。

ALLファイル：全メニューの設定データを保存します。SxSメモリーカードに64個まで保存することができます。

ご注意

機器固有のデータ（機器ごとに調整が必要なシェーディングや出力レベルなど）は保存されません。

シーンファイル：撮影シーンに合わせて設定したペイント項目の設定値を保存します。本機の内蔵メモリーに5個、SxSメモリーカードに64個まで保存することができます。

リファレンスファイル：メニューのFILE >SceneでStandardを実行するときの基準となる設定値を保存します。本機の内蔵メモリーとSxSメモリーカードに1個ずつ保存することができます。

レンズファイル：レンズ固有の特性を補正する設定データ（フレア、ホワイトシェーディング、ホワイトバランス、センターマーカー）を保存します。本機の内蔵メモリーに32個、SxSメモリーカードに64個まで保存することができます。

ファイルを最初に保存したときの設定値を「プリセット値」と呼びます。

ファイルを呼び出して本機をセットアップし、さらに設定変更を行った状態で元のファイルを上書き保存した場合でも、プリセット値を復活させて、ファイルの内容を初期状態にリセットすることができます（144ページ参照）。

設定データを保存する

設定データをALLファイルとして保存する手順を説明します。

あらかじめ、書き込み可能なSxSメモリーカードをメモリーカードスロットに挿入しておきます。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 **メニューのFILE >Allを選択する。**

保存するデータに名前を付けるときは
手順2に進む前に、名前を設定します。
◆詳しくは、「ファイルに名前を付けるには」（143ページ）をご覧ください。

2 **All File Save >Executeを選択する。**
ALLファイルのリストボックスが表示されます。
「No File」と表示されているファイル番号は空き番号です。すでにデータが保存されているファイル番号には、日付、時刻やファイル名が表示されます。

3 **MENUつまみを回して希望のファイル番号を選択する。**

4 **MENUつまみを押す。**
実行待ちメッセージが表示されます。

5 **保存を実行するときは、「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**
保存を中止するときは、「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。

保存を実行すると、ACCESSランプが点灯します。SxSメモリカードへの保存が完了すると、完了メッセージが表示され、ACCESSランプが消灯します。

ファイルの保存が実行されないときは

SxSメモリーカードへの保存操作中または操作後に次のエラーメッセージが表示されたときは、ファイルは保存されません。

エラーメッセージ	状況	対策
NG:Cannot Save	記録可能なメディアが挿入されていない	記録可能なメディアを挿入する
NG:Media Full	メディア残容量がない	残容量のあるメディアを使用する

ファイルに名前を付けるには

データをALLファイルとして保存する前に名前を付けておくと、ファイルの識別に役立ちます。
以下の文字を使用できます。
数字、アルファベット、特殊文字（!、#、$、%、&、'、(、)、*、+、,、-、.、/、:、;、<、=、>、?、@、[、\、]、~）

1 **メニューのFILE >All >File IDを選択する。**

2 **MENUつまみを回して文字を選択し、つまみを押す。**

3 **手順3を繰り返す。**

4 **文字の入力が終了したら、MENUつまみを押してカーソルを「SET」に合わせ、つまみを押す。**
設定した名前が表示されます。
ファイルの保存操作（142ページ参照）を行うと、この名前でデータが保存されます。

設定データを呼び出す

ご注意

SxSメモリーカードからファイルを呼び出すと、本機内部に保存されているデータは上書きされます。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 **メニューのFILE >Allを選択する。**

2 **All File Load >Executeを選択する。**
ALLファイルのリストボックスが表示されます。
「No File」と表示されているファイル番号は空き番号です。すでにデータが保存されているファイル番号には、日付、時刻やファイル名が表示されます。

3 **MENUつまみを回して、希望のファイル番号を選択する。**

4 **MENUつまみを押す。**
実行待ちメッセージが表示されます。

5 **呼び出しを実行するときは、「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。**
呼び出しを中止するときは、「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。
呼び出しを実行すると、ACCESSランプが点灯します。SxSのメモリーカードからの呼び出しが完了すると、完了メッセージが表示され、ACCESSランプが消灯します。

ファイルの呼び出しが実行されないとき

SxSメモリーカードからの呼び出し操作中または操作後に次のエラーメッセージが表示された場合は、ファイルの呼び出しは行われません。

エラーメッセージ	状況	対策
NG:No Data	• 読み出し可能なメディアがない • メディアに該当のファイルがない	ファイルを保存したメディアを挿入する

変更されたファイルの内容を初期状態にリセットする

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 **メニューのFILE >Allを選択する。**

2 **All Presetを選択し、MENUつまみを押す。**

3 **リセットを実行するときはExecuteを選択し、MENUつまみを押す。**
リセットを中止するときはCancelを選択し、MENUつまみを押す。
リセットを実行すると、すべてのALLファイル内の設定値が、すべてプリセット値にリセットされます。

シーンファイルの保存と呼び出し

次のデータをシーンファイルに保存できます。

- PAINTメニューを使用して設定した値
- 標準モードおよびECSモードでのシャッタースピードの設定
- ホワイトバランスのデータ
  保存されるデータおよび呼び出されるデータは、FILEメニューのReference >Scene White Dataの設定によって異なります。

シーンファイルを保存する

SxSメモリーカードにファイルを保存するときは、SxSメモリーカードをメモリーカードスロットに入れてから以下の操作を行います。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 **メニューのFILE >Sceneを選択する。**

保存するデータに名前を付けるときは
手順2に進む前に、名前を設定します。
◆詳しくは、「ファイルに名前を付けるには」（143ページ）をご覧ください。

2 **Scene Store MemまたはScene Store SxSを選択する。**
内蔵メモリーに保存する場合はScene Store Mem、SxSメモリーカードに保存する場合はScene Store SxSを選択します。

3 **MENUつまみを押す。**
シーンファイルのリストボックスが表示されます。ファイルが保存されていないファイル番号には、「No File」と表示されます。

4 保存したいファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。
実行待ちメッセージが表示されます。

5 保存を実行するときは「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。
保存を中止するときは「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。
手順2でScene Store SxSを選択したときは、保存を実行するとACCESSランプが点灯します。
SxSメモリーカードへの保存が完了すると、完了メッセージが表示され、ACCESSランプが消灯します。

シーンファイルを呼び出す

SxSメモリーカードからファイルを呼び出すときは、SxSメモリーカードをメモリーカードスロットに入れてから以下の操作を行います。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 メニューのFILE >Sceneを選択する。

2 Scene Recall MemまたはScene Recall SxSを選択する。
内蔵メモリーから呼び出す場合はScene Recall Mem、SxSメモリーカードから呼び出す場合はScene Recall SxSを選択します。

3 MENUつまみを押す。
シーンファイルのリストボックスが表示されます。ファイルが保存されていないファイル番号には、「No File」と表示されます。

4 希望のファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。
実行待ちメッセージが表示されます。

5 呼び出しを実行するときは、「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。
呼び出しを中止するときは「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。
手順2でScene Recall SxSを選択したときは、呼び出しを実行するとACCESSランプが点灯します。
指定したファイルがSxSメモリーカードから呼び出されると、完了メッセージが表示され、ACCESSランプが消灯します。

ご注意

本機とPMW-350の間で設定データ（ALLファイル、シーンファイル、リファレンスファイル、レンズファイル）の互換性はありません。

レンズファイルの保存と呼び出し

レンズファイルを設定する

レンズファイルは、FILEメニューのLens（136ページ参照）で設定します。
以下のデータを設定し、レンズファイルとして保存できます。

設定データ	細目
Vモジュレーションシェーディング補正値	M V Modulation
センターマーカーの位置	Lens Center H Lens Center V
フレアレベル	Lens R Flare Lens G Flare Lens B Flare
ホワイトバランス補正値	Lens W-R Offset Lens W-B Offset
ホワイトシェーディング補正値	L R/G/B H Saw L R/G/B H Para L R/G/B V Saw L R/G/B V Para

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

レンズファイルを保存する

SxSメモリーカードにファイルを保存するときは、SxS メモリーカードをメモリーカードスロットに入れてから以下の操作を行います。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 メニューのFILE >Lensを選択する。

保存するデータに名前を付けるときは
手順2に進む前に、名前を設定します。
◆詳しくは、「ファイルに名前を付けるには」（143ページ）をご覧ください。

2 Lens Store MemまたはLens Store SxSを選択して、MENUつまみを押す。
内蔵メモリーに保存する場合はLens Store Mem、SxS メモリーカードに保存する場合はLens Store SxSを選択します。

3 保存を実行するときはExecuteを選択し、MENUつまみを押す。
保存を中止するときはCancelを選択し、MENUつまみを押す。
Executeを選択すると、レンズファイルのリストボックスが表示されます。
ファイルが保存されていないファイル番号には、「No File」と表示されます。

4 保存したいファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。
実行待ちメッセージが表示されます。

5 保存を実行するときは「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。
保存を中止するときは「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。
手順2でLens Store SxSを選択したときは、保存を実行するとACCESSランプが点灯します。SxSメモリーカードへの保存が完了すると、完了メッセージが表示され、ACCESSランプが消灯します。

レンズファイルを呼び出す

SxSメモリーカードからレンズファイルを呼び出すときは、SxSメモリーカードをメモリーカードスロットに入れてから以下の操作を行います。

◆メニューの操作については、「セットアップメニューの基本操作」（106ページ）をご覧ください。

1 メニューのFILE >Lensを選択る。

2 Lens Recall MemまたはLens Recall SxSを選択して、MENUつまみを押す。

内蔵メモリーから呼び出す場合はLens Recall Mem、SxSメモリーカードから呼び出す場合はLens Recall SxSを選択します。

3 呼び出しを実行するときはExecuteを選択し、MENUつまみを押す。
呼び出しを中止するときはCancelを選択し、MENUつまみを押す。
Executeを選択すると、レンズファイルのリストボックスが表示されます。
ファイルが保存されていないファイル番号には、「No File」と表示されます。

4 希望のファイル番号を選択し、MENUつまみを押す。
実行待ちメッセージが表示されます。

5 呼び出しを実行するときは「Execute」を選択し、MENUつまみを押す。
呼び出しを中止するときは「Cancel」を選択し、MENUつまみを押す。
手順2でLens Recall SxSを選択したときは、呼び出しを実行するとACCESSランプが点灯します。指定したレンズファイルがSxSメモリーカードから呼び出されると、完了メッセージが表示され、ACCESSランプが消灯します。

レンズファイルを自動で呼び出す

シリアル通信対応レンズを使用しているときは、レンズの設定に対応するレンズファイルを自動的に呼び出して、本機をセットアップすることができます（Lens Auto Recall機能）。
Lens Auto Recall機能を使用するときは、FILEメニューのLens >Lens Auto Recallを以下のいずれかに設定します。

On：機種名に対応するレンズファイルを呼び出す
Off：機能を使用しない
Serial Number：機種名とシリアル番号に対応するレンズファイルを呼び出す（シリアル番号の通信が可能なレンズの場合）

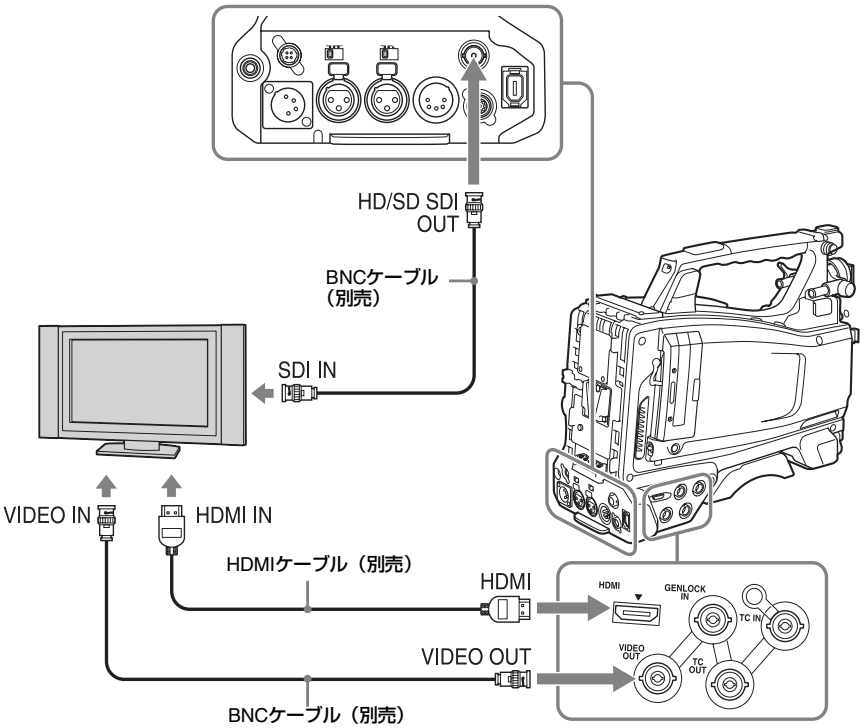
シリアル番号の通信に対応していないレンズを使用している場合は、いずれの設定でも、機種名に対応するレンズファイルを呼び出します。

8章 外部機器の接続

本機は、リモートコントロールユニットRM-B150/B750を使用して操作することもできます。RM-B150/B750の接続や操作については、「Manuals for Solid-State Memory Camcorder」のCD-ROMに収録されているSupplement（サプリメント）をご覧ください。

外部モニターを接続する

本機の出力信号を選択し、接続するモニターに応じた接続ケーブルを使用してください。



HD信号／SD信号を問わず、外部モニターにビューファインダー画面と同様の各種ステータス情報やメニューなどを表示させることができます。

ご注意

ダウンコンバートされて出力されるSD信号には、次のような制約があります。

50P/50i/25Pの映像はPAL信号、59.94P/59.94i/29.97Pの映像はNTSC 信号、23.98P の映像は2-3プルダウン処理されたNTSC 信号として出力されます。

HD/SD SDI OUT端子（BNC型）

HD/SD SDI OUT端子には、SDI対応のモニター、スイッチャーやVTRなどの記録装置を接続することができます。
本端子からの出力信号は、メニューのOPERATION >Input/Output >SDI Output（110ページ参照）でOn/Offすることができます。
接続には、別売のBNCケーブルを使用します。

HDMI端子

HDMI端子には、HDMI対応のモニターやVTRなどの記録装置を接続することができます。
本端子からの出力信号は、メニューのOPERATION >Input/Output >HDMI Output（110ページ参照）でOn/Offすることができます。
接続には、別売のHDMIケーブルを使用します。

VIDEO OUT端子

VIDEO OUT端子には、アナログコンポジット対応のモニターやVTRなどの記録装置を接続することができます。
本端子からのアナログコンポジット信号は、出力の設定がSD信号のときにHD/SD SDI OUT端子から出力される信号と同じ、NTSCまたはPALにエンコードしたものになります（メニューのOPERATION >Format >Country（109ページ参照）でNTSC/PALを切り換えます）。
アナログコンポジット対応機器に信号を入力するには、必要に応じて、VIDEO OUT端子からのアナログコンポジット信号の設定に合わせて、アナログコンポジット対応機器側の入力信号設定を変更します。
モニターやVTRなどの記録装置に音声を入力する場合は、AUDIO OUT端子からの音声出力とモニターやVTR側のオーディオ入力を接続します。
接続には、別売のBNCケーブルを使用します。

i.LINK（HDV/DV）端子

i.LINK（HDV/DV）端子はHDVとDVの入出力に対応します。ただし、DVを入力しても本機では記録できません。
本端子には、i.LINK（HDV）対応のモニター、VTRやHDDなどのi.LINK（HDV）対応の記録再生装置、およびi.LINK（HDV）対応のコンピューターを接続することができます。

HDV信号を入出力するには

HDV信号は、ビデオフォーマットがHDV互換フォーマット（SP 1440/59.94i、SP 1440/50i、SP 1440/23.98P）で、OPERATIONメニューのInput/Output >Output&i.LINKの設定がHD&HDVまたはSD&HDV、Input/Output >i.LINK I/Oの設定がEnableのときに入出力可能です。
ビデオフォーマットがSP 1440/23.98Pのときは、2-3プルダウン処理された59.94iのHDV信号を出力します。

DV信号を入出力するには

DV信号は、以下の場合に入出力可能です。

- SDモードで、OPERATIONメニューのInput/Output >i.LINK I/Oの設定がEnable
- HDモードで、ビデオフォーマットがDV信号入出力不可フォーマット（HQ 1920/23.98P、HQ 1440/23.98P、HQ 1280/23.98P）以外で、Input/Output >Output&i.LINKの設定がSD&DV、Input/Output >i.LINK I/Oの設定がEnable

コンピューターでクリップを管理・編集する

本機でSxSメモリーカードに記録したクリップを、コンピューター上で管理したり、別売のノンリニア編集ソフトで編集することができます。
SxSメモリーカードをコンピューターに直接装着したり、USBケーブルを使って本機またはSxSメモリーカードUSBリーダー／ライター SBAC-US10（別売）をコンピューターに接続して、本機で記録したクリップを管理・編集する方法を説明します。

準備

コンピューターのExpressCardスロットを使う

ExpressCard/34またはExpressCard/54スロットがあるコンピューターの場合は、本機でクリップを記録したSxSメモリーカードを直接挿入して、ファイルにアクセスすることができます。

◆コンピューターの動作環境について詳しくは、「ソフトウェアの使いかた」（15ページ参照）をご覧ください。

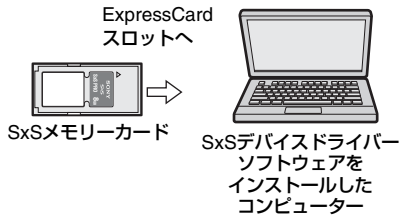
ご注意

付属のCD-ROMに収録されているSxSデバイスドライバーソフトウェアのインストールが必要です。インストールの前に、必ず同梱されているSxSデバイスドライバーソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

◆SxSデバイスドライバーソフトウェアのインストール方法について詳しくは、付属のCD-ROMに収録されているReadMeをご覧ください。

◆SxSデバイスドライバーソフトウェアのサポート関連情報については、下記URLをご覧ください。

http://www.sony.net/SxS-Support/



Windowsの場合

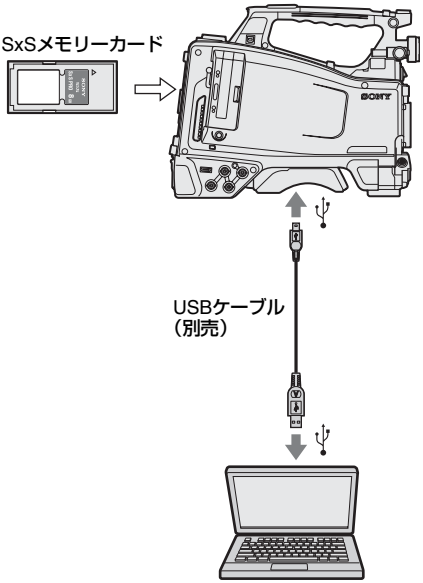
マイコンピューターにリムーバブルディスクが追加されていることを確認してください。追加されていれば正常に動作しています。

Macintoshの場合

メニューバーにアイコンが表示されます。

USBケーブルを使って接続するには

本機を別売のUSBケーブルを使って接続すると、スロットに装着されたメモリーカードがコンピューターの拡張ドライブとして認識されます。
本機の場合、2枚のメモリーカードが挿入されているときは、コンピューターでは2つのドライブとして認識されます。



ご注意

- コンピューターに接続するときは、USBコネクターの形と向きに注意してください。
- 本機はコンピューターからのバスパワーでは動作しません。

USB端子とコンピューターを接続するには

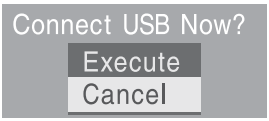
ご注意

USB端子とバッテリー駆動のプロフェッショナルハードディスクユニットPHU-60K/120K/120R（別売）をコンピューターに同時接続している状態でPHU-60K/120K/120Rのバッテリーが消耗（Battery End）すると、以下を操作することはできません。

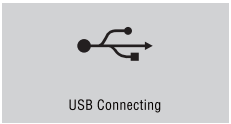
- コンピューターからのアクセスをガード
- メディア抜去相当の処理
- ビューファインダー画面にタリー点灯などユーザーへの警告表示

USB端子とコンピューターを別売のUSBケーブルを使って接続したとき、USB接続を有効にするか、無効にするかを確認する「Connect USB Now?」のメッセージが表示されます。

「Cancel」を選択したり、MENU CANCEL/PRST/ESCAPEスイッチをESCAPE側に押し下げた場合、またはUSBケーブルを抜いた場合は、「Connect USB Now?」のメッセージが消え、元の画面に戻ります。



「Execute」を選択し、MENUつまみを押すと、USB接続が有効になり、本機はコンピューターの拡張ドライブとして認識されます。矢印（⇧、⇩、⇦、⇨）ボタン（25ページ参照）でも操作可能です。



記録／再生動作中にUSB接続を許可した場合は、動作を停止し「USB Connecting（USB接続中）」をビューファインダー画面に表示します。

このとき、VIDEO OUT端子、HDMI端子、HD/SD SDI OUT端子からの出力信号は黒画となります。

ご注意

- USB接続中は、本機で記録／再生などの操作はできません。
- コンピューターから本機の記録メディアにアクセス（読み書き）しているときは以下の操作を行わないでください。
  - 本機の操作（電源の ON/OFF、モード切り換えなど）
  - アクセス中の記録メディアを抜き差し
  - USB 接続ケーブルの抜き差し

USB接続の解除方法

USB接続の解除は、コンピューターのデバイス取りはずし手順にしたがって操作します。

USBを再接続するときは、一度USBケーブルを抜いたあとに再度接続してください。再び「Connect USB Now?」のメッセージが表示されます。

ご注意

i.LINKケーブルを使ってコンピューターを接続した場合は、本機のカードスロットに挿入された記録メディア内のファイルをコンピューターから操作することはできません。

SxSメモリーカードを取りはずすには

Windowsの場合

1. **コンピューターのタスクバーに表示されている「ハードウェアの取りはずしまたは取り出し」アイコンをクリックする。**
2. **表示されたメニューから「SxS Memory Card ー ドライブ（X:）を安全に取りはずします」を選択する。**

3 安全に取りはずすことができることを知らせるメッセージが表示されたら、カードを抜く。

Macintoshの場合

デスクトップにあるSxSメモリーカードのアイコンを「ゴミ箱」（イジェクトアイコン）にドラッグします。
ファインダー上にSxSメモリーカードのアイコンがある場合は、横のイジェクトアイコンをクリックしてください。

ご注意

メニューバーに表示されているSxSメモリーカードのアイコンから「カード電源　切」を選択しないでください。

付属のアプリケーションソフトウェアを使うには

コンピューターのローカルディスクにクリップをコピーする場合などは、付属のCD-ROMに収録されている専用アプリケーションソフトウェアをインストールして使用します。
使用するコンピューターに、付属のCD-ROMに収録されている専用アプリケーションソフトウェアをインストールしてください。
記録した素材は、情報が複数のファイル、複数のフォルダーにまたがって置かれていますが、専用アプリケーションソフトウェアでは、これらの情報やディレクトリー構造を、ユーザーが意識することなく、容易に扱えるようになっています。

ご注意

Explorer（Windows環境）やFinder（Mac環境）を使用して、SxSメモリーカード内のクリップのコピーなどを行うと、クリップが持つ情報を保持できなくなることがあります。そのような状況を避けるため、専用アプリケーションソフトウェアを使用してください。

◆動作環境やインストール方法、使いかたについては、「XDCAM EX web site」（15ページ）またはCD-ROMに収録されているユーザーガイドをご覧ください。

◆専用アプリケーションソフトウェアのサポート情報については「XDCAM EX web site」（15ページ）または付属のCD-ROMの表紙ページに記載されているURLをご覧ください。

ノンリニア編集システムを使うには

ノンリニア編集システムには、本機で記録したフォーマットに対応した編集ソフトウェア（別売）が必要です。
付属の専用アプリケーションソフトウェアを使って、あらかじめコンピューターのHDDに編集したいクリップを保存しておきます。
使用する編集ソフトによっては正しく動作しない場合があります。ご使用になる前に、必ず本機で記録したフォーマットに対応することをご確認ください。

アップル社製ソフトウェアFinal Cut Proを使うときは

アップルコンピューター製Final Cut Proで編集できるファイルに変換する必要があります。

◆変換に用いるアプリケーションソフトウェアについて詳しくは、「XDCAM EX web site」（15ページ）または付属のCD-ROMの表紙ページに記載されているURLをご覧ください。

外部機器を接続する（i.LINK接続）

i.LINK（HDV/DV）端子に接続した外部機器で本機のメモリーカードに記録されるのと同じ画像を記録したり、外部機器の再生画像を本機で記録することができます。
また、HDVフォーマット対応のノンリニア編集システムに接続して、記録した画像を編集することもできます。

ご注意

- メニューのOPERATION >Input/Output >Output & i.LINKを480P（576P）にすると、HD/SD SDI OUT端子からは信号が出力されません。
- i.LINK接続は1対1で使用してください。
- i.LINK接続中に、メニューのOPERATION >FormatのHD/SD、HD System Line、System Frequency、Rec FormatやOPERATION >Input/OutputのI.LINK I/O、Down Converterなど、i.LINK（HDV/DV）端子から出力される信号に影響がある設定を変更するときは、i.LINKケーブルを抜いてから変更してください。
i.LINK接続中に設定を変更した場合、接続されたi.LINK機器が正常に動作ができなくなることがあります。
- i.LINK接続で外部入力信号を記録する場合は、HDVストリームのみ記録可能です。DVストリームを記録することはできません。

本機の画像を外部機器で記録する

本機で撮影している画像がi.LINK（HDV/DV）端子を介してHDV またはDVストリームとして出力されます。本機の記録開始／停止操作に連動して、接続したHDVレコーダーやDVCAMレコーダーで記録することもできます。

1 本機で事前に必要な設定を行う。

- メニューのOPERATION >Input/Output >Output & i.LINK（110ページ参照）をHD & HDVまたはSD & HDVに設定する。

  HD & HDVまたはSD & HDV：HDモードでビデオフォーマットをHDV互換フォーマット（SP 1440/59.94i、SP 1440/50i、SP 1440/23.94P）に設定し、HDVストリームを出力するとき

  SD & DV：DVストリームを出力するとき
- メニューのOPERATION >Input/Output >i.LINK I/OをEnableに設定する。
- メニューのMAINTENANCE >Trigger Mode >i.LINK Trigger Mode（133ページ参照）をBothまたはExternalに設定する。

  Both: 本機のメモリーカードと外部機器の両方に記録するとき

  External: 外部機器でのみ記録するとき

2 外部機器を録画スタンバイ状態にする。

◆外部機器の操作について詳しくは、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 本機で記録を開始する。

同期して外部機器が記録モードになります。

ビューファインダー画面のi.LINK接続機器の動作状態表示部（36ページ参照）に外部機器の状態が表示されます。

表示	外部機器の状態
STBY i.HDV	HDV録画待機中
●REC i.HDV	HDV録画中
STBY i.DV	DV録画待機中
●REC i.DV	DV録画中

ご注意

- 外部機器の種類によっては、動作が異なる場合があります。
- 本機で記録を開始してから、i.LINK状態表示が切り替わるまでタイムラグがあります。メニューのMAINTENANCE >Trigger

Mode>i.LINK Trigger ModeがBothに設定されていても、接続されているi.LINK機器は同期がかかるまで記録が開始されません。
- メモリーカードには撮影中にショットマークを記録することができますが、外部機器で記録される画像には付加されません。

ノンリニア編集する

i.LINK（HDV/DV）端子に接続したノンリニア編集システムにストリーム転送することができます。

ご注意

- 本機のi.LINK（HDV/DV）端子は6ピンです。接続するコンピューターのi.LINK端子のピン数をご確認のうえ、適切なi.LINKケーブルをお使いください。
- コンピューター上で本機の画像を検索するとき、画像の表示がコンピューター画面に反映されるまでに時間がかかる場合があります。
- クリップが短い場合や再生開始点からクリップ終端までが短い場合、クリップの境界でi.LINK信号が途切れることがあります。また、このような信号をノンリニア編集機でキャプチャーしようとした場合、アプリケーションによっては誤動作することがあります。
- ノンリニア編集機で×4倍、×15倍、×24倍以外のサーチ速度を指定すると、i.LINK信号は出力されません。またこの場合ビューファインダー画面は静止画のままになることがあります。
- ノンリニア編集ソフトウェアによっては、高速再生画がコンピューター上に出ない場合があります。

本機の設定

メニューのOPERATION >Input/Output >i.LINK I/OをEnableにしてください。

◆ノンリニア編集ソフトウェアの操作について詳しくは、ソフトウェアに付属の取扱説明書をご覧ください。

外部入力信号を記録する

i.LINK（HDV/DV）端子に接続した機器からのHDVストリーム入力を、本機に装着したSxSメモリーカードに記録することができます。

タイムコードは、本機の設定にかかわらず、i.LINK入力に重畳されているタイムコードが記録されます。

ご注意

DVストリームは記録できません。

1 外部信号を本機で記録できるフォーマットに設定する。

ビデオフォーマットをHDV互換フォーマット（SP 1440/59.94i、SP 1440/50i、SP 1440/23.94P）に設定します。

2 メニューのOPERATION >Input/Output（110ページ）で以下の設定を行う。

- **Output&i.LINKをHD&HDVまたはSD&HDVに設定**
- **i.LINK I/OをEnableに設定**
- **Source SelectをiLINKに設定**

入力映像が、ビューファインダー画面や、VIDEO OUT端子に接続したモニターに表示されます。

音声信号は、内蔵スピーカー、EARPHONE端子に接続したヘッドホン、VIDEO OUT端子に接続したモニターのスピーカーから出力されます。

3 記録を開始する。

ご注意

- 次のような場合、エラー表示になります。エラー表示になった場合は、記録モードを解除してください。
  - 本機で設定されているビデオフォーマットと異なる信号が入力されている。
  - コピー禁止ストリームが入力されている。
- 記録中に本機への入力が無信号となった場合はTALLYランプ、ビューファインダー前面のタリーランプおよびビューファインダー画面のREC表示（●REC）が点滅し、SxSメモリーカードに何も記録されていないことを表示します。

  再び信号が入力されると記録が再開し、本機でのクリップ番号が繰り上がります。

9章 保守・点検

撮影前の点検

撮影に出発する前に点検を行い、システムが正常に動作することを確認してください。実際に記録／再生を行って映像や音声のチェックをすることをおすすめします。

保守

ビューファインダーをクリーニングする

レンズやLCDスクリーン、ミラーの表面からほこりを除去するには、ブロアーをお使いください。

ご注意

シンナーなどの溶剤はいっさい使わないでください。

バッテリー端子に関するご注意

機器に搭載されているバッテリー端子（バッテリーパックやACアダプターとの接点部分）は消耗品です。
振動や衝撃によって端子が変形したり、曲がったり、あるいは長期の屋外での使用などによって表面が腐食したりすると、本体に電源が供給されなくなります。長期間機器を使用していただくために、定期点検を実施することをお願いします。点検につきましては、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

警告システム

通電中または操作中に異常が発生すると、本機は次の方法で警告します。
- 警告メッセージ（次表のA）
- WARNINGランプの表示（次表のB）、スピーカーやイヤホンからの警告音（次表のC）、タリー／REC表示（次表のD）、バッテリー残量表示（次表のE）

警告メッセージとREC表示はビューファインダー画面に表示されます。
警告音の音量は、ALARMつまみで調節できます。ALARMつまみを最小にすると、警告音は聞こえなくなります。

表の見かた

A	WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
	B	C	D	E
	警告内容	記録部の動作	処置	

- WARNINGランプ、タリー／REC表示およびバッテリー残量表示の記号の意味は次のとおりです。
  - ☼：点灯
  - ☀：1回／秒点滅
  - ☀：4回／秒点滅
- 警告音の記号の意味は次のとおりです。
  - •))))))))))))))))))))))))))))))：連続音
  - •)))))))))))：1回／秒

Media Near Full	WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
	☀	•))))))))))))))	☀	−
	警告内容	記録部の動作	処置	
	SxSメモリーカードの残量が少なくなっています。	記録は継続	早い機会に交換してください。	

Media Full	WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
	☼	•))))))))))))))))))))))))))))))	☀	−
	警告内容	記録部の動作	処置	
	SxSメモリーカードの残量がないため、記録、コピー、クリップ分割はできません。	記録は停止	交換してください。	

Battery Near End

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
☀	•)))))))))))))	☀	☀
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
バッテリーパックの残量が少なくなっています。	記録は継続	早い機会に充電してください。	

Battery End

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
☼	•))))))))))))))))))))))	☀	☀
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
バッテリーパックが消耗しました。記録はできません。	記録は停止	DC INに電源をつなぐか、いったん操作を中止し、バッテリーパックを充電してください。	

Temperature High

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
☀	•)))))))))))))	☀	−
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
内部温度が上昇しました。	記録は継続	いったん電源を切り、温度が下がるまで使用を中止してください。	

Voltage Low

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
☀	•)))))))))))))	☀	☀
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
DC IN電圧が低くなっています（段階1）。	記録は継続	供給電源を確認してください。	

Insufficient Voltage

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
☼	•))))))))))))))))))))))	☀	☀
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
DC IN電圧が低すぎます（段階2）。記録はできません。	記録は停止	他の電源に接続しなおしてください。	

Battery Error Please Change Battery.

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
−	−	−	−
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
バッテリーパックに異常が検出されました。	記録は停止	正常なバッテリーパックに交換してください。	

Backup Battery End Please Change.

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
−	−	−	−
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
バックアップ電池の残量が不足しています。	記録は継続	サービス担当者または営業担当者に交換を依頼してください。	

Unknown Media(A)[1] Please Change.

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
–	–	–	–
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
パーテーションが切られているメモリーカードや、本機で扱えるクリップ数を超えて記録されたメモリーカードが挿入されました。	記録は継続	本機では使用できませんので、交換してください。	

Reached Clip Number Limit Cannot Record to Media(A)[1]

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
–	–	–	–
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
1枚のメモリーカードに記録可能な最大クリップ数になりました。これ以上記録できません。	記録は停止	別のメモリーカードに交換してください。	

Media Error Media(A)[1] Needs to be Restored

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
–	–	–	–
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
メモリーカードに異常が発生し、修復が必要な状態になりました。	記録は停止	メモリーカードを一度抜いてから再挿入して、カードの修復を行ってください。	

Media Error Cannot Record to Media(A)[1]

WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
–	–	–	–
警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
メモリーカードが故障して、記録ができなくなりました。	記録は停止	再生は可能ですので、コピーをとるなどして、新しいメモリーカードに交換することをお勧めします。	

Media Error Cannot Use Media(A)[1)]	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	メモリーカードが故障して記録も再生もできなくなりました。	記録は停止	本機では扱えませんので、他のカードに交換してください。	
Cannot Use Media(A)[1)] Unsupported File System	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	ファイルシステムの異なるカードが挿入されました。	記録は停止	本機では使用できませんので、交換してください。	
Video Format Mismatch	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	ビデオフォーマットの設定が外部入力信号フォーマットと異なっているため、i.LINK接続による外部入力信号を記録できません。	記録は停止	OPERATIONメニューのFormatの設定を外部入力信号に合わせて設定し直してください。	
Copy Protected Input Cannot Record	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	ストリームにコピープロテクトがかかっているため、i.LINK接続による外部入力信号を記録できません。	記録は停止	入力信号を確認してください。	
DVCAM Input Signal! Cannot Record	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	i.LINK接続による外部入力信号がDVストリームのため、記録できません。	記録は停止	−	

Media Error Playback Halted	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	–	–	–	–
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	メモリーカードからの読み出しにエラーが発生したため、再生を続けられません。	記録は停止	頻繁に起きる場合には、コピーをとるなどをして、メモリーカードを交換してください。	
Media(A)[1] Error	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	–	–	–	–
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	メモリーカードに異常が発生したため、記録できません。	記録は停止	頻繁に起きる場合には、メモリーカードを交換してください。	
HDD A[2] Battery Near End	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	☀	•)))))))))))))))	☀	–
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	HDDのバッテリーの残量が少なくなっています。	記録は継続	早い機会に交換してください。	
HDD A[2] Battery End	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	☼	•)))))))))))))))))))))))	☀	–
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	HDDのバッテリーが消耗しました。記録はできません。	記録は停止	いったん操作を中止し、バッテリーを交換してください。	
Not Enough Capacity Change Media (A)[1]	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	–	–	–	–
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	メモリーカードの残量が足りないため、コピーできません。	記録は継続（コピーは不可）	スロットAのカードを交換してください。	
Reached Duplication Limit Change Media (A)[1]	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	–	–	–	–
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	同名のクリップが10以上存在します。	記録は継続（コピーは不可）	スロットAのカードを交換してください。	

Not Enough Capacity Cannot Divide	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	メモリーカードの残量が足りないため、クリップを分割できません。	記録は継続（分割は不可）	−	
Will Switch Slots Soon	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	まもなくスロットを切り換えます。	記録は継続	スロットにメモリーカードが入っているか確認してください。	
No Clip	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	表示できるクリップがありません。	記録は継続	−	
No OK Clip	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	OKマークのついたクリップがありません。	記録は継続	−	
Same File Already Exists Change Media(A)[1)]	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	同名のクリップが存在します。	記録は継続（コピーは不可）	スロットAのカードを交換してください。	
Media Reached Rewriting Limit Change Media (A)[1)]	**WARNINGランプ**	**警告音**	**タリー／REC**	**バッテリー残量**
	−	−	−	−
	警告内容	**記録部の動作**	**処置**	
	メモリーカードの寿命がきました。	記録は停止	バックアップをとり、速やかに交換してください。 継続して使用すると、正常に記録・再生できない可能性があります。 詳しくは、メモリーカードの取扱説明書をご覧ください。	

Unsupported Clip Included Cannot Use Media (A)[1]	WARNINGランプ	警告音	タリー／REC	バッテリー残量
	–	–	–	–
	警告内容	記録部の動作	処置	
	挿入したメモリーカードには本機で扱えないフォーマットで記録されたクリップが含まれています。	–	スロットAのカードは本機では使用できません。	

1)スロットBに入れたカードの場合は(B)
2)スロットBに接続したHDDの場合はB

付録

使用上のご注意

安全にご使用いただくために、「安全のために」（2ページ）、「⚠警告」（9ページ）、「⚠注意」（10ページ）、「電池についての安全上のご注意」（12ページ）と併せてご覧ください。

取り扱い・保管上のご注意

強い衝撃を与えない

- 内部構造や外観の変形などの損傷を受けることがあります。
- アクセサリーシューに装着した部品に強い衝撃が与えられた場合、アクセサリーシューが損傷する場合があります。この場合は使用を中止し、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

動作中は布などで包まないでください

内部の温度が上がり、好ましくありません。

使い終わったら

POWERスイッチをOFFにしてください。

長時間使わないときは

バッテリーをはずしておいてください。

輸送

- 記録メディアは必ず取り出しておいてください。
- トラック、船、航空機など、本機を貨物として扱う輸送では、お買い上げ時の梱包材をご使用ください。

お手入れ

レンズや光学フィルターの表面に付着したゴミやほこりは、ブロアーで吹き払います。外装の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ります。ひどい汚れは、中性洗剤液を少し含ませた布で拭いた後、から拭きします。アルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品類は、表面が変質したり、塗料がはげることがありますので、使わないでください。

万一、異常が生じたときは

お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

使用場所・保管場所

水平な場所、空調のある場所に保管してください。

次のような場所での使用・保管は避けてください。

- 極端に寒い所、暑い所（使用温度は0℃～40℃）
  真夏、窓を閉め切った自動車内は50℃を越えることがあります。
- 湿気・ほこりの多い所
- 雨があたる所
- 激しく振動する所
- 強い磁気を発生するものの近く
- 強力な電波を発生するテレビやラジオの送信所の近く
- 直射日光が長時間当たる場所や暖房器具の近く

携帯電話などによる電波障害を防止するために

携帯電話などを本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、映像、音声などに影響を与えることがあります。

本機の近くでは、携帯電話などの電源はできるだけ切ってください。

レーザービームに関するご注意

レーザービームは、CMOSイメージセンサーに影響をあたえることがあります。

レーザービームを使用した撮影環境では、CMOSイメージセンサー表面に、レーザービームが照射されないように充分注意してください。

ズームレンズの取り付け

ズームレンズの取り付けかたを誤ると損傷することがあります。必ず「レンズの取り付けと調整」（47ページ）をご覧ください。

ビューファインダーについて

ビューファインダーの接眼レンズを太陽に向けて放置しないでください。
太陽光が接眼レンズを通して内部に焦点を結び、ビューファインダー内部を溶かすことがあります。

LCD（液晶）画面について

本機のLCD（液晶）画面は有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり（画素欠け）、常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。また、LCD画面の特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることもあります。これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。なお、これらの点が記録されることはありません。

CMOSイメージセンサー特有の現象

撮影画面に出る下記の現象は、CMOSイメージセンサー特有の現象で、故障ではありません。

白点

CMOSイメージセンサーは非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。これは撮像素子の原理に起因するもので故障ではありません。また、以下の場合、白点が見えやすくなります。

- 高温の環境で使用するとき
- マスターゲイン(感度)を上げたとき
- スローシャッターモードのとき

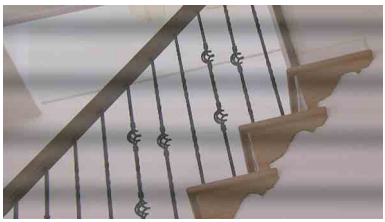
なお、ブラックバランスの自動調整を行うことにより、補正機能が働き、現象が改善することがあります。

折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ぎざぎざやちらつきが見えることがあります。

フリッカー

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの放電管による照明下で撮影すると、画面が明滅したり、色が変化したり、横縞が流れるように見えることがあります。



このようなときは、フリッカー補正機能をAutoにしてください（132ページ参照）。撮影しているフレームレートが電源周波数に近い場合は、フリッカー補正機能が働いてもフリッカーを完全に補正できない場合があります。この場合は、電子シャッターを使用してください。

フォーカルプレーン

撮像素子(CMOSイメージセンサー)の映像信号を読み出す方法の性質により、撮像条件によっては、画面をすばやく横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。

フラッシュバンド

フラッシュ光や、すばやく点滅する光源を撮影したときに、画面の上下で輝度が変化することがあります。

フラッシュバンドが発生したフレームを含むクリップは、付属の専用アプリケーションソフトウェアを使用して補正することができます。

他のXDCAM EXシリーズモデルとの互換性について

本機で記録したメディアをPMW-EX1、PMW-EX3、またはPMW-EX30 で再生する場合、PMW-EX1/EX3/EX30 が対応していないビデオフォーマットのクリップを記録したメディアは使用できません。
また、PMW-EX1/EX3/EX30が対応しているビデオフォーマットであっても、PMW-EX1/EX3/EX30では本機で記録したクリップを分割することはできません。

ファイルの断片化について

画像が正しく記録・再生されないときは記録メディアをフォーマット（初期化）してください。
長期間、映像の記録・クリップの消去を繰り返していると、記録メディア内のファイルが断片化（フラグメンテーション）して、映像が正しく記録・保存できなくな る場合があります。このような場合は、クリップのバックアップを取ったあと、メニューのOPERATION >Format Media（110ページ参照）で記録メディアのフォーマット（初期化）を行ってください。

内蔵時計用電池の交換

本機内に内蔵時計用のリチウム電池が装着されています。ビューファインダー画面に“BackUp Battery End”の表示が出たら電池の交換が必要ですので、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

一般

電源電圧

DC 12 V (11 V～17.0 V)

消費電力

約17 W
本体＋LCDビューファインダー＋オートフォーカスレンズ＋マイク
記録時、電源：バッテリーパック

ご注意

- 消費電力が50Wより大きいビデオライトを接続しないでください。
- DC OUT端子には消費電流が0.5A以下の機器を接続してください。

動作温度

0℃～40℃

保存温度

−20℃～＋60℃

記録／再生フォーマット

ビデオ

HD HQモード ：MPEG-2 MP@HL、35Mbps/VBR
1920×1080/59.94i、50i、29.97P、25P、23.98P
1440×1080/59.94i、50i、29.97P、25P、23.98P
1280×720/59.94P、50P、29.97P、25P、23.98P

HD SPモード ：MPEG-2 MP@H-14、25Mbps/CBR
1440×1080 /59.94i、50i
(23.98Pは59.94iの2-3プルダウン記録で対応)

SDモード：DVCAM
720×480/59.94i
720×576/50i
720×480/29.97P
720×576/25P

オーディオ

LPCM (16ビット、48 kHz、HD：4チャンネル、SD：2チャンネル)

記録再生時間

SBP-8使用時
SPモード／DVCAMモード：約35分
HQモード：約25分

SBP-16使用時
SPモード／DVCAMモード：約70分
HQモード：約50分

SBP-32/SBS-32G1使用時
SPモード／DVCAMモード：約140分
HQモード：約100分

ご注意

記録再生時間は、使用条件やメモリーの特性などにより、多少の誤差が生じる場合があります。

連続操作時間

約330分（BP-GL95使用時）

質量

本体のみ：約3.2 kg

外形寸法

169ページ参照

付属品

168ページ参照

カメラ部

撮像素子

$^{1}/_{2}$型、CMOSイメージセンサー
有効画素数 1920(H)×1080(V)

方式

RGB 3板方式

分光系

F1.6プリズム方式

NDフィルター

1：クリア
2：$^{1}/_{4}$ND
3：$^{1}/_{16}$ND
4：$^{1}/_{64}$ND

感度

F10 （システム周波数：59.94i）
F11（システム周波数：50i）
（2000lx、反射率89.9%）

最低被写体照度

0.05 lx (F1.6、＋24 dB、64フレーム蓄積)

映像S/N

54 dB

水平解像度

1000TV本以上

ゲイン

−3、0、3、6、9、12、18、24 dB、AGC

シャッタースピード

59.94i/P、50i/P：$^{1}/_{60}$ ～ $^{1}/_{2000}$秒
29.97P：$^{1}/_{40}$～$^{1}/_{2000}$秒
25P：$^{1}/_{33}$～$^{1}/_{2000}$秒
23.94P：$^{1}/_{32}$～$^{1}/_{2000}$秒

スローシャッター

2 ～ 8、16、32、64フレーム

オーディオ部

サンプリング周波数

48kHz

量子化特性

16ビット

ヘッドルーム

20 dB（工場出荷時）（20、18、16、12 dB）

周波数特性

MIC：50Hz～20kHz（±3dB以内）
LINE：20Hz～20kHz（±3dB以内）
WRR Analog：50Hz～20kHz（±3dB以内）
WRR Digital：20Hz～20kHz（±3dB以内）

ダイナミックレンジ

90 dB (Typical)

ひずみ率

0.08%以下（入力レベル−40dBu時）

内蔵スピーカー

モノラル
出力：300 mW

表示部

ビューファインダー（付属）

画面サイズ

対角8.8 cm （3.5型）

アスペクト比

16:9

画素数

640 (H) ×3× 480 (V)デルタ配列

メディア部

カードスロット

形状: Express Card34
スロット数: 2
端子: PCMCIA Express Card準拠

書き込みレート

50 Mbps以上

読み出しレート

50 Mbps以上

入出力部

入／出力端子

入力

AUDIO IN CH1/CH2：XLR型、3ピン、凹
−60dBu/＋4dBu
（0dBu=0.775Vrms）
MIC IN：XLR型、5ピン、凹
−60dBu
GENLOCK IN：BNC型
1.0Vp-p、75Ω、不平衡
TC IN：BNC型
0.5V～18Vp-p、10kΩ

出力

VIDEO OUT：BNC型
HDMI：TypeA、19ピン
HD/SD SDI OUT：BNC型
AUDIO OUT：XLR型、5ピン、凸
0dBu
TC OUT：BNC型
1.0Vp-p、75Ω
EARPHONE（ミニジャック）
8Ω、−∞～−18 dBs可変

その他

DC IN：XLR型、4ピン、凸
DC11～17V
DC OUT：4ピン
DC11～17V、最大定格電流
0.5A
LENS：12ピン
レンズへの電源供給
DC11～17V、最大定格電流 1.0A
REMOTE：8ピン
LIGHT：2ピン
USB：4ピン
i.LINK（HDV/DV）：6ピン、IEEE1394準拠
VF：角型26ピン、丸型20ピン
ワイヤレスレシーバー用：15PinDSUB

レンズ部（PMW-320Kに付属）

焦点距離
5.8 mm ～ 93 mm
(35 mm換算：31.4 mm ～ 503 mm)

ズーム
電動／手動切り換え可能

ズーム比
16倍

最大口径比
1:1.9

絞り
自動／手動切り換え可能
F1.9～F16 およびC（クローズ）

フォーカス
自動／手動切り換え可能
範囲　800 mm ～ ∞ （マクロOFF）
50 mm ～ ∞ （マクロON、広角端）

フィルター取り付けネジ
M82 mm、ピッチ0.75 mm

マクロ
ON/OFF可能

付属品

ビューファインダー（1）
ショルダーベルト（1）
ステレオマイク（1）
ウインドスクリーン（1）
コールドシューキット（1式）
レンズマウントキャップ
フランジバック調整用チャート
オートフォーカスレンズ（PMW-320Kに付属）（1）
取扱説明書
日本語版（1）
英語版（1）
CD-ROM
- Utility Software for Solid-State Memory Camcorder and Recorder（専用アプリケーションソフトウェア、SxSデバイスドライバーソフトウェアを収録）（1）
- Manuals for Solid-State Memory Camcorder（PDF版取扱説明書、Supplementを収録）（1）

保証書（1）
SxSデバイスドライバーソフトウェア使用許諾契約書（1）

関連機器

電源関連

ACアダプター
AC-DN10/DN2B

バッテリーパック
BP-GL95/GL65/L80S/L60S

バッテリーチャージャー
BC-L160/L500/L70

レンズ、ビューファインダーおよび関連機器

レンズ
$^{1}/_{2}$型バヨネットマウントレンズにのみ対応

ビューファインダー
DXF-20W/51/C50W

ビューファインダー回転収納機構
BKW-401

ご注意
BKW-401を使用できるビューファインダーは、付属のビューファインダーまたはDXF-20Wです。

リモートコントロール用機器

リモートコントロールユニット
RM-B150/B750

記録メディア

SxSメモリーカード
SxS PRO SBP-8（8 GB）
SxS PRO SBP-16（16 GB）
SxS PRO SBP-32（32 GB）
SxS-1 SBS-32G1（32 GB）

ハードディスクユニット
PHU-60K/120K/120R

メディアアダプター
MEAD-MS01（“メモリースティック PRO-HGデュオHX”用）
MEAD-SD01（SDHCカード用）

モバイルストレージユニット
PXU-MS240

オーディオ機器

マイクロホン
ECM-678/674/673/680S

マイクホルダー
CAC-12対応

ワイヤレスマイク

DWR-S01D

WRR-855S/860A/861/862

その他の周辺機器

三脚アタッチメント

VCT-14/U14

ビデオライト

ウルトラライト（アントンバウアー社製）

パッド

ダイナフィット（ソフト）ショルダーパッドCBK-SP01

保守用製品、操作／取り扱いを容易にするための製品

ハードキャリングケース

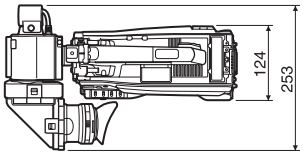
LC-H300

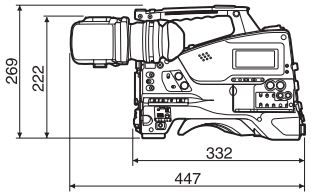
ソフトキャリングケース

LC-DS300SFT

メンテナンスマニュアル

外形寸法





（単位: mm）

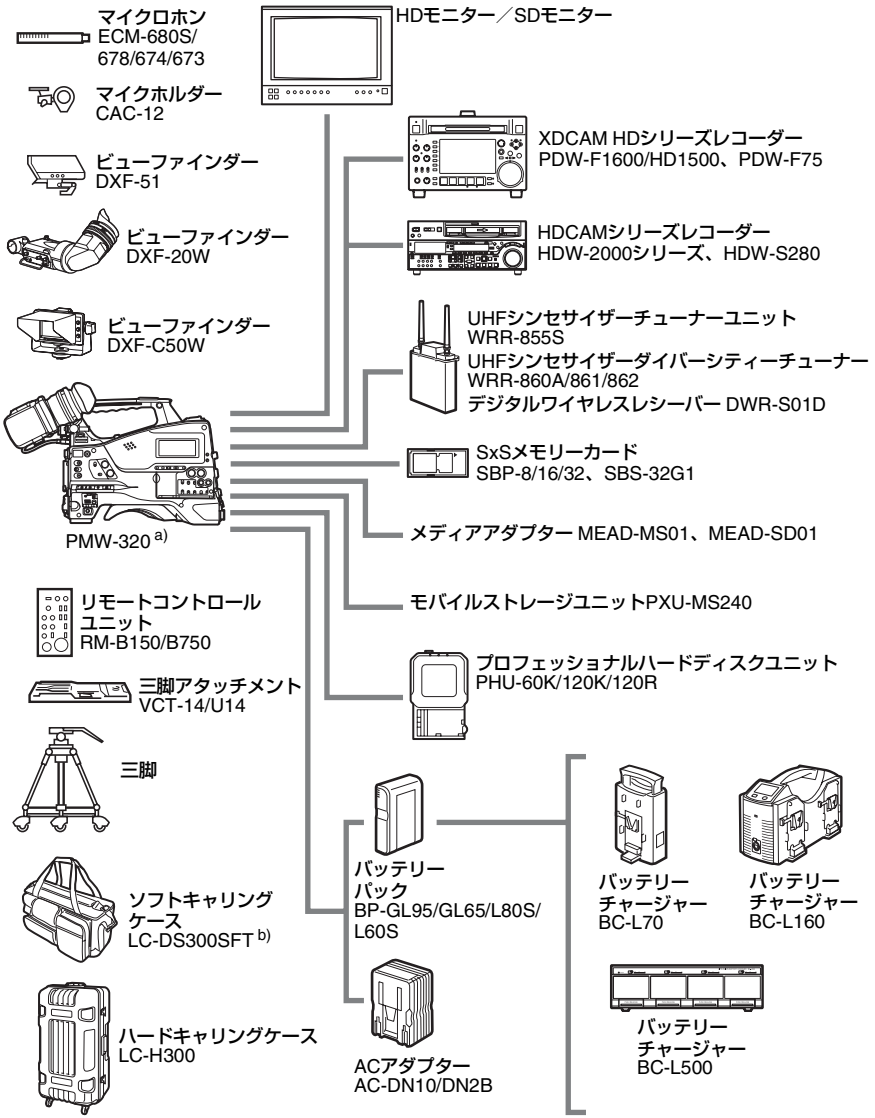
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講じるよう要求されることがあります。

VCCI-A

- 必ず事前に記録テストを行い、正常に記録されていることを確認してください。本機や記録メディア、外部ストレージなどを使用中、万一これらの不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。
- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

周辺機器・アクセサリー一覧図



a)PMW-320Lでは別売のレンズが必要です。

b)レンズおよびマイクロホンを装着したままでも収納できます。ただし、それぞれの装着時の長さがカムコーダー本体の前面端から25cmを超える場合は取りはずしてください。

i.LINKについて

ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作方法が異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるHDVまたはDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。
S100（最大転送速度　約100Mbps [1)]）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）
転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

1)最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

Mbpsとは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK（HDVまたはDV）対応機器と接続して使用する方法については、153ページをご覧ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトウェアの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を併せてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製の6ピン↔4ピンまたは6ピン↔6ピンのi.LINKケーブルをお使いください。

i.LINKと は商標です。

MPEG-2 Video Patent Portfolio Licenseについて

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。なお、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C., （住所250STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。

PACKAGED MEDIAとは、一般消費者向けに販売、頒布されるMPEG-2コンテンツの入ったメディア（映画 DVDなど）を指します。PACKAGED MEDIAを製造、販売、頒布する業者は、MPEG LAからライセンスを取得する必要があります。
詳しくは、MPEG LAにお問い合わせください。
MPEG LA.L.L.C., 250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206
ホームページ：http://www.mpegla.com

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは
お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

索引

五十音順

ア行

アイカップ 32
アイリス（絞り）
　自動設定 62
　ポジション表示 37
明るさ調整 33
アクセサリー 170
アクセサリーシュー 18
アサイナブルスイッチ 138
アプリケーションソフトウェア 152
色温度
　切り換え 58, 59
　表示 35
インターバルレック機能 82
映像レベル注意表示 36
液晶表示部 24
エクステンダー表示 34
エクスパンドサムネイル画面
　表示 100
　分割数を増やす 101
オーディオ調整部 25
　保護カバー 24
オーディオレベルメーター 37
オートフォーカスレンズ 30
音声入力 49
音声レベル
　記録レベルの調整 65
　再生音の調整 21
　メーター 30, 37

カ行

外部機器
　記録 153
　制御表示 36
　接続 148
外部電源入力表示 35
外部入力
　記録 154
　設定表示 36
間欠記録 82
輝度レベル表示 36
記録 153
　外部機器 153
　外部入力信号 154
記録モード
　特殊モード設定表示 35
　特殊モード表示 35
　表示 34
グリーンタリー表示 34
クリップ
　頭出し 91
　一括コピー 99
　一括削除 100
　エクスパンドサムネイル画面でサーチ 92
　コピー 98
　コンピューターで管理・編集 150
　再生 78, 91
　削除 79, 99
　サムネイルの選択 91
　詳細情報 97
　ショットマークサムネイル画面でサーチ 92
　操作 88
　代表画の変更 102
　分割 103
警告システム 156
ゲイン値表示 37
コネクター 32
コマ撮り 83
コントラスト調整 33
コンピューター 151

サ行

撮影 72

サムネイル
インジケーター 25
操作 94
サムネイル画面 88
オールクリップサムネイル画面 96
種類の変更 95
操作部 25
操作部の保護カバー 24
OK クリップサムネイル画面 95
三脚
取り付け 52
マウント 19
シーンファイル
保存 144
呼び出し 145
時刻の設定 46
システムライン数表示 35
視度調整リング 32
絞り（アイリス）
ポジション表示 37
リング 31
IRIS スイッチ 31
シャッター 60
シャッタースピード 61
表示 37
周辺機器 170
仕様 166
使用地域の設定 45
初期設定 107, 144
ショットマーク
記録 79
再生中に追加 92
削除 102
追加 102
ショットマークサムネイル画面 101
ショルダーパッド 19
位置調整 54
ショルダーベルト
取り付け 53
取り付け金具 18
スイッチカバー 23
ズーム 63
コントロール端子 31
電動ズームレバー 31
ポジション表示 34
リング 31
ステータス画面 70
アサイナブルスイッチ 71
バッテリー / メディア 71
オーディオ 71
カメラ 70
ビデオ 71
スピーカー（内蔵） 23
スライドストッパー 32
スロー＆クイックモーション撮影 85
接続 148, 151
コンピューター 151
モニター 148
i.LINK (HDV/DV) 153
設定データ
保存 142
呼び出し 143
設定 / 状態の確認 70
セットアップメニュー 104
基本操作 106
ゼブラパターン 33

タ行

代表画 89, 90
変更 102
タイムカウンター表示 30
タイムコード
外部ロック 69
設定 68
表示 36
タイムデータ 68
タリーランプ 33
電圧表示 35
電気色温度フィルター表示 36
電気的 CC フィルター
切り換え 58, 59
点検 155
電源 38
電子シャッター 60

電池交換 165
動作状態表示 34
i.LINK 接続機器 36
時計 46
電池交換 165

ナ行

入力ソース表示 36
ノンリニア編集 152, 154

ハ行

バッテリー（パック） 38
残量表示 30, 35
電圧表示 35
取り付け部 18
ピーキング調整 33
ピクチャーキャッシュ機能 80
被写界深度表示 35
ヒストグラム表示 37
日付の設定 46
ビデオフォーマット 55, 98
表示 35
ビデオライト 53
ビューファインダー 32
位置の調整 40
回転収納機構 43
角度調整 41
画面の調整 42
画面表示 34
クリーニング 155
ケーブル 33
左右位置固定リング 18
視度の調整 42
前後位置固定レバー 18
前後位置 LOCK つまみ 19
取り付けシュー 18
VF 筒部 / アイピース部を跳ね上げる 41
5 型 44
標準設定 107
フィルター表示 36
フォーカス 64
ポジション表示 34
モード表示 36
リング 31
フォーマット（初期化） 74
ブラックバランス調整 56
フランジバック調整 47
ボタン 31
フリーズミックス機能 86
フレームレック機能 83
保守 155
ホワイトバランス
調整 57
メモリー表示 37

マ行

マイクホルダー 33
取り付け部 19
マイクロホン 49
メディア
残量表示 30, 37
状態表示 34
プロテクト（ロック） 30, 73
メニュー
一覧 109
基本操作 106
FILE メニュー 134
MAINTENANCE メニュー 125
OPERATION メニュー 109
PAINT メニュー 120
THUMBNAIL メニュー 94
モニター 148

ヤ行

矢印ボタン（⇦、⇨、⇧、⇩） 25
ユーザービット設定 68

ラ行

リセット 107, 144
レックレビュー 77
レンズ 30
ケーブルクランプ 19
固定レバー 19

取り付け 47
マウント 19
マウントキャップ 19
マウントゆるみ止めゴム 19
レンズファイル
自動呼び出し 147
設定 146
保存 146
呼び出し 146

索引

ワ行

ワイヤレスレシーバー受信レベル表示 35

アルファベット順

A

AC 電源 39
ACCESS ランプ 24, 27, 73
ALARM つまみ 21
ASSIGNABLE 4/5 スイッチ 27
ASSIGN. 0 スイッチ 21
ASSIGN. 1/2/3 スイッチ 21
ATW （Auto Tracing White balance） 22
AUDIO IN CH1/CH2 端子 29
AUDIO IN CH1/CH2/CH3/CH4 スイッチ 26
AUDIO IN 切り換えスイッチ 29
AUDIO OUT 端子 29
AUDIO SELECT CH 3-4 スイッチ 26
AUDIO SELECT CH-1/CH-2 スイッチ 26
AUTO W/B BAL スイッチ 20
AV 単独ファイル 89

B

BACKLIGHT ボタン 25
BKW-401 43
BRIGHT つまみ 33

C

COLOR TEMP. ボタン 21
CONTRAST つまみ 33

D

DC IN 端子 18
DC OUT 12V 端子 18
DCC（Dynamic Contrast Control）機能 22
DISPLAY スイッチ 25, 33

E

EARPHONE 端子 29
E-E (Electric to Electric) 23
ESSENCE MARK ボタン 26
EXPAND ボタン 24

F

F FWD ボタン / ランプ 24
F REV ボタン / ランプ 24
FILTER つまみ 20
FOCUS スイッチ 31
F-RUN/SET/R-RUN スイッチ 26

G

GAIN スイッチ 22
GENLOCK IN 端子 27

H

HDMI 出力端子 27, 149
HD/SD SDI OUT 端子 29, 149
HOLD ボタン 24

I

IRIS スイッチ 31
i.LINK 171
ケーブル 171
接続 153
i.LINK（HDV/DV）端子 29, 149

L

LCD パネル 24

LENS 端子 19
LEVEL CH-1/CH-2/CH-3/CH-4 つまみ 26
LIGHT スイッチ 17
LIGHT 端子 19

M

MACRO スイッチ 31
MENU CANCEL/PRST/ESCAPE スイッチ 22
MENU ON/OFF スイッチ 22
MENU つまみ 20
MENU ボタン 25
MIC IN（+ 48V）端子 19
MIC LEVEL つまみ 20
MIRROR スイッチ 33
MONITOR スイッチ 21
MONITOR つまみ 21

N

ND フィルター 20
NEXT ボタン 24, 92

O

OK マーク 89, 98
削除 98
設定 80
付加 98
OUTPUT/DCC スイッチ 22

P

PEAKING つまみ 33
PLAY/PAUSE ボタン / ランプ 24, 91
POWER スイッチ 17
PRESET/REGEN/CLOCK スイッチ 26
PREV ボタン 24, 91
PUSH AF ボタン 30
PUSH AUTO ボタン 31

R

REC START ボタン 20
REMOTE 端子 29
RESET/RETURN ボタン 25
RET ボタン 32

S

SET ボタン 25
SHIFT ボタン 26
SHUTTER スイッチ 20
Slow & Quick 85
STATUS ON/SEL/OFF スイッチ 22
STOP ボタン 24
SxS デバイスドライバーソフトウェア 16, 150
SxS メモリーカード 72
入れかた 73
切り換え 74
交換時期 75
誤消去防止 73
残量確認 75
修復 75
取り出しかた 74
フォーマット（初期化） 74
SxS メモリーカードスロット 27
スロットカバー 27
EJECT ボタン 27
SLOT SELECT ボタン 27

T

TALLY スイッチ 29, 33
TALLY ランプ 28
TC IN 端子 28
TC OUT 端子 28
THUMBNAIL ボタン 25
THUMBNAIL メニュー 94
基本操作 95
TLCS 制御モード表示 36

U

UHF ポータブルチューナーの取り付け ... 50
USB 接続 ... 151
USB 端子 ... 27

V

VF 端子 ... 19
VIDEO OUT 端子 ... 28
VTR ボタン ... 32

W

WARNING ランプ ... 24
WHITE BAL スイッチ ... 22

X

XDCAM EX web site ... 15

Z

ZEBRA スイッチ ... 33
ZOOM スイッチ ... 31

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/